一般会計予算審査特別委員会資料

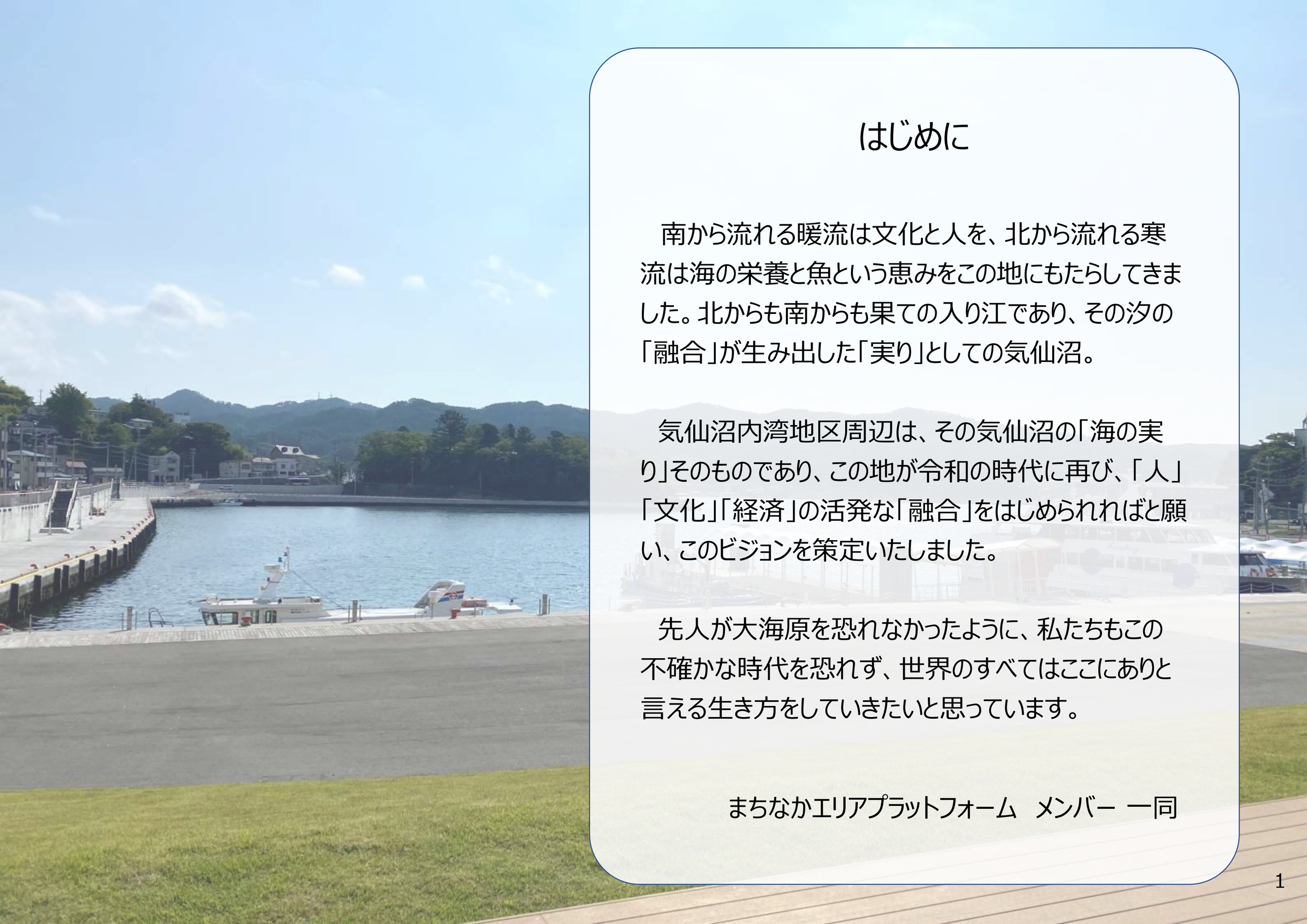
令和４年６月２４日
建設部都市計画課

気仙沼まちなかエリア未来ビジョン

みんなの母港大作戦！

～ 復旧･復興から･沸騰へ ～

2022年3月
気仙沼まちなかエリアプラットフォーム



はじめに

南から流れる暖流は文化と人を、北から流れる寒流は海の栄養と魚という恵みをこの地にもたらしてきました。北からも南からも果ての入り江であり、その汐の「融合」が生み出した「実り」としての気仙沼。

気仙沼内湾地区周辺は、その気仙沼の「海の実り」そのものであり、この地が令和の時代に再び、「人」「文化」「経済」の活発な「融合」をはじめられればと願い、このビジョンを策定いたしました。

先人が大海原を恐れなかったように、私たちもこの不確かな時代を恐れず、世界のすべてはここにありと言える生き方をしていきたいと思っています。

まちなかエリアプラットフォーム　メンバー 一同

目次

1　まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

（1）エリアビジョン策定の目的と位置づけ　・・・3
（2）エリアビジョンの検討体制　・・・4
（3）エリアプラットフォーム会議での検討経緯　・・・5

2　まちなかエリアの基本情報

（1）「気仙沼まちなかエリア」の範囲設定　・・・１１
（2）エリアの成り立ちと歩んできた歴史　・・・１２
（3）これまでのまちづくり　・・・１３
（4）エリアの今とこれから　・・・１４
（5）エリアの産業構造　・・・１５
（6）エリア内の主要施設　・・・１６
（7）主要動線と交通状況　・・・１７
（8）土地・建物の利用状況　・・・１８
（9）災害公営住宅　・・・１９
（10）観光客動態と観光施策の状況　・・・２０
（11）ビジネス支援と移住促進　・・・２１
（12）公共空間の管理状況　・・・２２
（13）気仙沼が世界に誇る価値　・・・２３

3　エリア関係者の声の抽出

・・・２４

4　まちなかエリアのめざす将来像

（1）めざすエリアの方向性　・・・２５
（2）理想シーンの妄想　～まちなか妄想ガイドブック～　・・・２７

5　ビジョン実現に向けた具体的方策

（1）エリアビジョン実現に向けたアクションプランについて・・３０
（2）リーディングプロジェクトの提案　・・・３１
PJ-1　海上レストラン構想
PJ-2　海・公園・民地を一体活用したアクティビティ施設
PJ-3　五感で『食』を楽しめる空間の創出
PJ-4　街なかの滞在快適性の向上と景観形成
PJ-5　空き家／空地の活用によるエリアリノベーション計画
PJ-6　市役所跡地を活用した多世代の居場所づくり
PJ-7　街の記憶を次世代に引き継ぐためのストリート命名
PJ-8　「人」中心の回遊動線を構築するための道路空間再編
PJ-9　水上／陸上のモビリティの再編
PJ-10　エリアに波及効果をもたらすビジネス誘致
PJ-11　全員コンシェルジュ化計画　～気仙沼版働き方改革～
PJ-12　高質な観光コンテンツの開発
PJ-13　エリアの玄関口としてのBRT

6　今後の推進体制と事業スケジュール

・・・４４

01.

（1）エリアビジョン策定の目的と位置づけ

まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって
（1）エリアビジョン策定の目的と位置づけ
（2）エリアビジョンの検討体制
（3）エリアプラットフォーム会議での検討経緯

02. まちなかエリアの基本情報

03. エリア関係者の声の抽出

04. まちなかエリアのめざす将来像

05. ビジョン実現に向けた具体的方策

06. 今後の推進体制と事業スケジュール

○気仙沼まちなかエリア未来ビジョンとは

・気仙沼まちなかエリア未来ビジョン（以下「エリアビジョン」という。）は、震災復興に伴うハード整備（「つくる」）が進む内湾エリアとその周辺部において、若手を中心とする将来のまちの担い手候補が主体となり、まちなかを「つかう」視点で将来こうなってほしいという姿や活用シーン、その実現に向けたプロジェクトを提案するものである。

○エリアビジョン策定の目的

① 将来のまちを担う世代（20代～40代）でプラットフォームをつくり、自分たちがこの街に住み続けたい、チャレンジしたいと思えるまちはどのようなまちなのか、そのアイデアや妄想を言語化すること。

② ビジョンづくりの議論やプロセスを経ることで、プラットフォームメンバーが能動的にまちに関わる方法やプロジェクト、関わるスタンスを探し出すこと。

③ プラットフォームメンバーから、地域やプロジェクトの関係者に向けてビジョンを提案し、コミュニケーションを図ることで、実現化に向けた関係をつくること。

④ 民間主体の提案をベースにしつつも、官民の役割分担を想定し、2022年度の行政としてのビジョンにつなげること。

○位置づけ

1．次世代担い手自らの妄想やアイデア（≠行政ビジョン）

・2021年度は、将来のまちを担う世代（20代～40代）メンバーのめざす将来像をとりまとめる。
・2022年度に、社会実験や詳細実現化の検討を経て、市のビジョンにも位置付ける。官民で質の高い投資や運営主体の育成・誘致を進めていく道標とする。

2．エリアビジョンは更新を前提として、段階的に進める

・策定したビジョンを正確に実現することをめざすのではなく、新たな事業主体の出現、社会状況の変化、利害関係者の変更、他の事業との調整等によって、随時更新出来るような柔軟なものとする。
・実現性の高い取り組みからスタートし、社会実験や事業性の検証を経て、数年単位で実施内容の深化を行いながら段階的に進める。

◎まちづくりに係るこれまでの計画や事業

・気仙沼市震災復興計画（H23策定）
・魚町・南町地区土地区画整理事業（H26事業認可）
・観光に関する戦略的方策（バージョン2）（H25）
・気仙沼市都市計画マスタープラン（H26策定）
・内湾地区復興まちづくり計画に関する提言書

⇒ **震災を契機とした一連のハード整備事業が概ね完了**

▶ **「つくる目線」のフェーズから「つかう目線」のフェーズへの移行が必要な時期に**

＋

◎新たなまちの変化

・三陸沿岸道路（気仙沼湾横断橋）の開通（R3）
・大島汽船の定期航路の定期運航が終了（H31）
・市役所庁舎の移転が決定（R8～9頃）
・復興関連の来訪者が減少

⇒ **今後のまちの将来像・方向性を示す新たなビジョンが必要に**

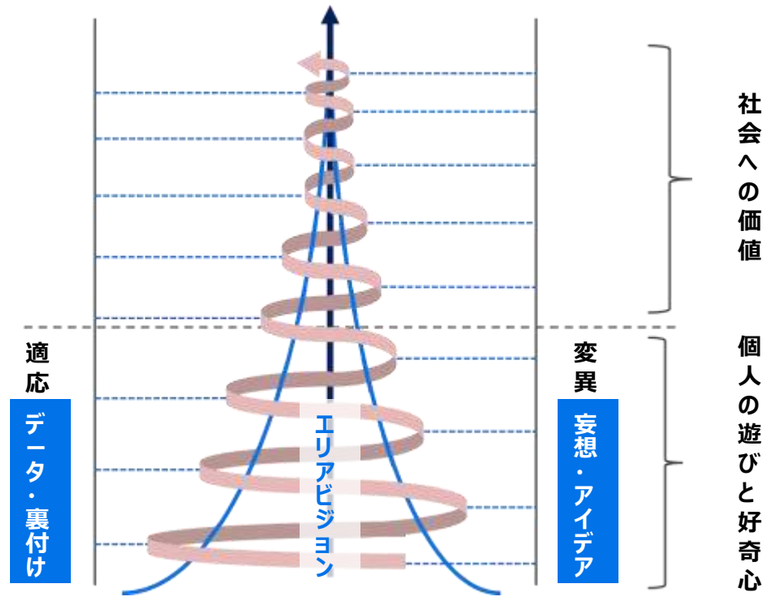
▶ **まちや観光スタイルの変化 個々の想いや実現性が反映されたビジョンが必要**

▼

「気仙沼まちなかエリアプラットフォーム」を設立 エリアビジョンの提案

○進め方のイメージ

個人の妄想・共感から変異と適応の螺旋を登る



創造性の螺旋

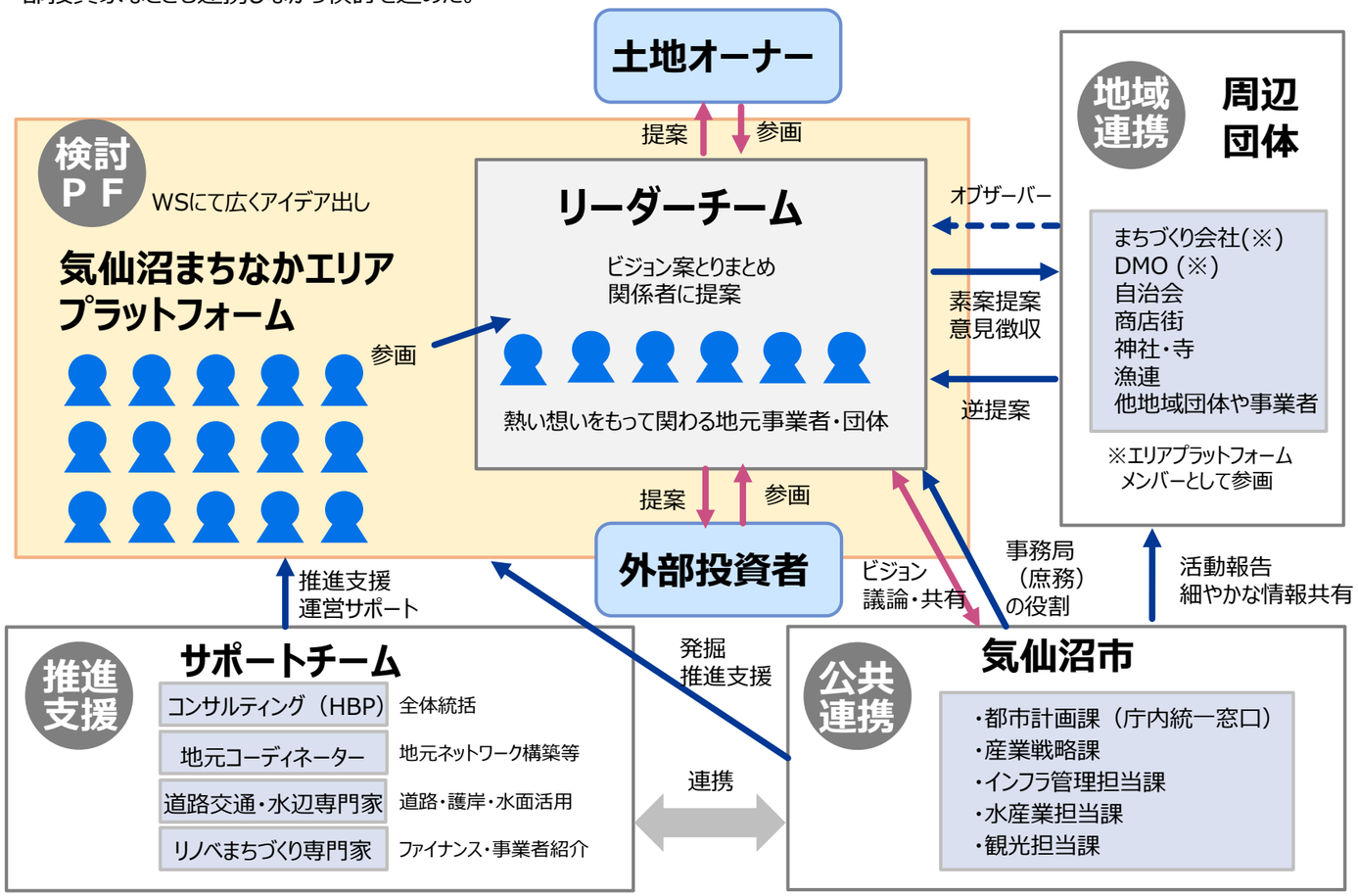
（参考図書：『進化思考――生き残るコンセプトをつくる「変異と適応」』、太刀川英輔、2021）

（２）エリアビジョンの検討体制

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって
（１）エリアビジョン策定の目的と位置づけ
（２）エリアビジョンの検討体制
（３）エリアプラットフォーム会議での検討経緯
02. まちなかエリアの基本情報
03. エリア関係者の声の抽出
04. まちなかエリアのめざす将来像
05. ビジョン実現に向けた具体的方策
06. 今後の推進体制と事業スケジュール

○まちなかエリアプラットフォームの体制

・地域や民間主体でのエリアビジョン策定に向け、官民連携で「気仙沼まちなかエリアプラットフォーム」を組織し、将来のまちを担う世代を中心に、めざす将来像について議論し、取りまとめた。
・サポートチーム（専門家等）による推進支援を受けながら、プラットフォーム主体で適宜、地域の団体や組織・土地所有者・外部投資家などとも連携しながら検討を進めた。



○会議の推進体制

・メンバーが「海」「食」「回遊」「働く」「歴史未来」の5つのグループに分かれて、テーマごとに随時打合せや企画検討などを行う。
・月1回の全体回（プラットフォーム会議）では、メンバー全員が参加し、個別のグループごとの議論を全体に共有し、擦り合わせや意見集約を行う。また、ビジョン策定に向けた全体調整を実施する。
・制度上の課題などについては、気仙沼市やサポートチームが適宜フォローし、調整を実施する。

〈プラットフォームのメンバー〉

	氏名	所属等	プラットフォーム内の役職
リーダーチーム	堀内 真介	F.C.U.P、株式会社介援隊	リーダー
	玉川 千晴	一般社団法人気仙沼地域戦略	副リーダー
	菅原 大樹	株式会社男山本店	副リーダー
	千葉 裕樹	気仙沼地域開発株式会社	事務局
	廣野 一誠	アサヤ株式会社	事務局
	小野寺 靖忠	株式会社オノデラコーポレーション	推進役
	佐藤 佳奈	有限会社石川	推進役
プラットフォームメンバー	武山 陽子	武山米店	
	佐々木 正利	気仙沼あさひ鮨	
	藤田 雄一郎	藤田屋	
	猪狩 伸忠	株式会社横田屋本店	
	平野 亜希子	株式会社平野本店	
	小松 志大	一般社団法人気仙沼地域戦略	
	織笠 有加里	一般社団法人気仙沼地域戦略	
	一色 法人	十人十色ライフサービス株式会社	
	熊谷 浩典	大鍋屋	
	熊谷 俊輔	一般社団法人 気仙沼観光コンベンション協会	
	志田 淳	気仙沼独創倶楽部	
	島田 英樹	合同会社気仙沼八日町まちづくり	
	濱田 智	合同会社気仙沼八日町まちづくり	
	斎藤 大悟	株式会社かねせん	
	坂本 倫理	割烹 世界	
	森田 法子	医療法人尚仁会 森田医院	
	小野寺 一雄	アッシュヘッド オノトラ	
	原田 雄介	有限会社原田新聞店	
	鈴木 敦雄	合同会社気仙沼八日町まちづくり	
	渡邊 栄	合同会社気仙沼八日町まちづくり	
	高橋 朋広	ブルースカイ・マーケット気仙沼	
	足立 岬	地域おこし協力隊	
	吉川 晃司	くるくる喫茶うつみ	
サポートチーム	泉 英明	有限会社ハートビートプラン	コーディネーター
	有賀 敬直	有限会社ハートビートプラン	コーディネーター
	古庄 大樹	有限会社ハートビートプラン	コーディネーター
	伊坂 善明	（株式会社URリンケージ）	コーディネーター
	小山 弘二	合同会社moyai	地元コーディネーター
市	気仙沼市 都市計画課・産業戦略課		庶務

（3）エリアプラットフォーム会議での検討経緯

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって
（1）エリアビジョン策定の目的と位置づけ
（2）エリアビジョンの検討体制
（3）エリアプラットフォーム会議での検討経緯
02. まちなかエリアの基本情報
03. エリア関係者の声の抽出
04. まちなかエリアのめざす将来像
05. ビジョン実現に向けた具体的方策
06. 今後の推進体制と事業スケジュール

○エリアビジョン策定に至るプラットフォーム会議の経過

・2回のプラットフォーム設立準備会（3月・5月）や、官民連携まちづくりセミナー（4月）を経て、2021年6月に「気仙沼まちなかエリアプラットフォーム」が発足した。
・エリアビジョン策定においては、「事業環境分析をして、戦略立案の方向性を検討し、それを具体化していく」という、一般的な施策の実行プロセスを踏むのではなく、「まずは、①実現したいことを洗い出し、②データや事例などで方向性を確認し、③具体化する際のハードルを認識して、④妄想を実現化する」というプロセスで推進した。現状分析から入って現実的なプランを描くのではなく、妄想を膨らませて「実現したいこと」をイメージすることを重視した。

気仙沼まちなかエリアプラットフォーム設立会議

●日時：2021/6/24（木）18:30～20:30
●場所：市役所本庁舎3階　第1・2・3会議室
●次第：1．開会
2．市長挨拶
3．構成員について
4．規約制定について
5．今後の進め方について
6．閉会

〔会議の内容と位置づけ〕
・会議の目的や推進体制の確認。
・これまでのメンバー等の意見から、「海」「食」「回遊」「働く」「歴史未来」の5つのテーマを設定しグループ分け。
・まずは個人の妄想を膨らまし、アイデアを出してから具体化していく。

第2回　気仙沼まちなかエリアプラットフォーム

●日時：2021/7/26（月）18:30～20:30
●場所：市役所ワン・テン庁舎　大ホール
●次第：1．開会
2．仮会長挨拶
3．各チームの発表及び意見交換
4．次回について
5．閉会

〔会議の内容と位置づけ〕
・「海」「食」「回遊」「働く」「歴史未来」の各チームから、エリアに対する現状認識や違和感、めざしたいイメージなどについて発表。
・今後調査や必要なことの洗い出し
・それぞれのチームの発表に対してメンバーから意見を出して議論。

第3回　気仙沼まちなかエリアプラットフォーム

●日時：2021/9/27（月）18:30～20:30
●場所：市役所ワン・テン庁舎　大ホール
●次第：1．開会
2．仮会長挨拶
3．チームビジョン作成のグループワーク
4．今後の予定について
5．閉会

〔会議の内容と位置づけ〕
・各テーマごとに「既存ストック」や「課題・伸ばすべきポイント」「今後の具体アクションプラン」を議論・検討し、チームビジョンを策定。
・チームビジョン案について全体にプレゼンして、他テーマとの擦り合わせや意見の集約、調整を実施。

第4回　気仙沼まちなかエリアプラットフォーム

●日時：2021/10/25（月）18:30～20:30
●場所：市役所本庁舎3階　第1・2・3会議室
●次第：1．開会
2．仮会長挨拶
3．全体ビジョン作成に向けた共有及びとりまとめについて
4．会長、副会長の推薦について
5．閉会

〔会議の内容と位置づけ〕
・各メンバーのビジョン実現に向けた関わり方について、想いや実現したいことについて議論。
・ビジョン策定に向けて深掘りすべき論点を整理し、各論点について個人課題として検討。そのための役割分担を決定。
・リーダー決めの互選を実施。

トークセッション①　ミズベリング・プロジェクトディレクター　岩本 唯史 氏

●日時：2021/10/26（火）18:30～20:00
●場所：気仙沼市まち・ひと・しごと交流プラザ　2F
●内容：公共空間の利活用と水辺のまちづくり

大阪視察

●日時：2021/11/13（土）～14（日）
●場所：大阪、神戸
●内容：介護付き住宅「はっぴーの家ろっけん」
蒲生四丁目エリアリノベーション
水上ピクニック、水上サイクル
水都大阪クルーズ
プラットドームのリーダー人選会議
ミナミまち歩き

トークセッション②　がもよんプロジェクト　和田 欣也 氏

●日時：2021/11/20（土）16:00～18:30
●場所：気仙沼市まち・ひと・しごと交流プラザ　2F
●内容：「空き家再生とエリアリノベーション」

第5回　気仙沼まちなかエリアプラットフォーム

●日時：2021/11/22（月）18:30～20:30
●場所：市役所ワン・テン庁舎　大ホール
●次第：1．開会
2．仮会長挨拶
3．大阪視察の報告について
4．論点資料の確認について
5．未来ビジョンの取りまとめについて
6．会長及び副会長の選任について
7．閉会

〔会議の内容と位置づけ〕
・第4回で決定したエリアとしての方向性に基づき、ビジョンの骨子案を全体に共有。
・ビジョン実現のためのプロジェクトを13個にとりまとめ、意見を集約。
・決定したリーダーチームから挨拶。
・スローガンを各自次回までに検討。

八戸視察

●日時：2021/12/18（土）～19（日）
●場所：八戸
●内容：八戸新美術館
八戸ポータルミュージアム「はっち」
八戸まちなか広場「マチニワ」
まちなかまち歩き
舘鼻岸壁朝市
FLAT　HACHINOHE

第6回　気仙沼まちなかエリアプラットフォーム

●日時：2021/12/20（月）18:30～20:30
●場所：市役所ワン・テン庁舎　大ホール
●次第：１．開会
２．会長挨拶
３．エリアビジョンの内容について
４．地元向けプレゼンについて
５．閉会

〔会議の内容と位置づけ〕
・まちの将来像を表す全体キャッチフレーズについて議論。
・エリアビジョン骨子案について、意見を集約し、調整。
・地元プレゼンの実施に向けて、当日のプレゼンの段取りや、役割分担などを整理。

第７回　気仙沼まちなかエリアプラットフォーム

●日時：2022/2/21（月）18:30～20:30
●場所：市役所本庁舎3階　第1・2・3会議室
●次第：１．開会
２．会長挨拶
３．全体の進め方と現在地の確認
４．エリアビジョン骨子の最新版の共有
５．地元プレゼンの発表（案）の共有
６．次年度の各自の関わり方について
７．巻末「ひとこと」募集について
８．閉会

〔会議の内容と位置づけ〕
・今年度一年間の取り組みの振り返りと次年度の進め方の方針を整理。
・リーダーチームから地元プレゼンの発表内容の案を提案し、メンバーからの承認を得た。
・全体キャッチフレーズと方針についても承認を得た。

第1回 まちなかエリア作戦会議

●日時：2022/３/14（月）18:00～20:00
●場所：気仙沼市まち・ひと・しごと交流プラザ　2F
●次第：１．開会
２．リーダー挨拶
３．市長挨拶
４．エリアプラットフォームの活動紹介
５．エリアビジョンの提案について
６．アイデア交換等
７．閉会

〔会議の内容と位置づけ〕
・プラットフォームで練ったエリアビジョンを地元の関係者などにプレゼンし、フィードバックを得る。
・ビジョン策定前の最終調整。

その他の活動（抜粋）

各グループの打合せ（左＝回遊チーム、右＝食チーム）

内湾水質体験（海チーム）

浜焼き実験（食チーム）

物件調査（回遊チーム）

三崎港視察・水産庁打ち合わせ

●その他 打合せなど

日時　ミーティング名	場所	内容
・2021/07/08 「働く」チームミーティング	「拓（ヒラケル）」コミュニティホール／ZOOM	メンバーで今のまちなかエリアに対する違和感や課題の洗い出し。既存の商店と観光客をどう取り込むかということが焦点に。
・2021/07/12 「海」チームミーティング	F.C.U.P　2階／ZOOM	メンバー間で「海」に関する現状認識を洗い出し。漁船が停泊するだけでなく新しい活動の場として海を活用したいという意見がでた。
・2021/07/13 「回遊」チームミーティング	市役所ワンテンビル1階 女性プラザ／ZOOM	メンバーそれぞれが思う「回遊」のイメージと今のまちなかエリアの違和感や課題を洗い出し。それぞれがやってみたい活動アイデアを持ち寄ることに。
・2021/07/16 「食」チームミーティング	男山本店2階／ZOOM	まちなかエリアの「食」に関する現状認識と違和感をそれぞれが発表。目指すべく地域の参考例を挙げつつ、今後やっていきたい具体アクションについて話し合った。
・2021/07/20 「歴史」チームミーティング	ボルセッタイシカワ／ZOOM	これまでのエリアの歴史について、現在も残る「港町」としての文化について話し合った。
・2021/07/21 「働く」チームミーティング	「拓（ヒラケル）」コミュニティホール／ZOOM	「既存商店の改革と外貨獲得の具体化」というテーマのもとで、具体的なアクションプランについて話し合い。朝市、ワーケーション、空き家活用などについて言及。
・2021/07/26 「海」チーム　内湾水質体験	内湾（現地）	「内湾の海は汚くて泳げない」というイメージが本当なのか確かめるために、実際に海にダイブ。赤潮の影響で見た目は悪いが、泳ぎ心地は悪くないことを確認。
・2021/08/16 「回遊」チームミーティング	ZOOM	エリア内を回遊するためのコンテンツや回遊範囲についてブレスト。魚町の歩行者天国化やみしおねなどとの接続、レンタサイクルなどについても議論。
・2021/08/17 「食」チームミーティング	ZOOM	今後の進め方について議論。まずはそれぞれが思い描いている「エリアの将来イメージ」の擦り合わせが必要だという結論に至り、次回それぞれがプレゼンすることに。
・2021/08/22 「回遊」チーム　物件調査	太田・陣山（フィールドワーク）	太田・陣山エリアの建物の活用状況などを目視で調査。
・2021/08/23 「食」チームミーティング	ZOOM	メンバーそれぞれがイメージしているエリアの将来像についてグループにプレゼン。
・2021/09/10 「食」チームミーティング	ZOOM	各々の理想像をまとめて一つのチームビジョンにして、具体的なアクションプランを策定。チームビジョンは「『美味しい』を『感じられる』まち」に。
・2021/10/01 「食」チームミーティング	ZOOM	浜焼き企画の企画概要の検討、当日までの調整事項の洗い出しと方針整理。
・2021/10/21　各チームリーダーミーティング	ZOOM	各チームで深掘りすべき論点の洗い出しと、チームを横断した「エリアビジョン」策定に向けた相互調整を実施。
・2021/10/24 「食」チーム　浜焼き社会実験	内湾「迎（ムカエル）」前広場	チームビジョンをもとに、実際にまちなかで煙や臭いを出してみて、住民や観光客の反応や、広場の活用状況などを検証。
・2021/10/26　各チーム リーダーミーティング	男山本店2階	エリアビジョンをまとめるにあたって、深掘りしておくべき論点リストの確認。
・2021/12/20　PFリーダー会議	市役所ワン・テン庁舎　大ホール	プラットフォーム会議のリーダー・サブリーダー・事務局・推進役が決まったことを受けて、今後の推進体制や地元プレゼンの役割分担などについて確認。
・2022/01/18　PFリーダー会議	ZOOM	地元プレゼンに向けて、プレゼンの位置づけの確認と今後の作業について話し合い。次回会議までのビジョンのスローガンを考えてくることに。
・2022/01/24　PFリーダー会議	ボルセッタイシカワ／ZOOM	全体キャッチフレーズについて議論。「みんなの母校大作戦！　～復旧・復興から・沸騰へ～」がリーダーチーム案としてまとまった。
・2022/02/08　PFリーダー会議	ZOOM	プレゼンに使用するスライドの構成と発表の分担について議論。
・2022/02/20　PFリーダー会議	福建楼	次年度以降の進め方や、現在の進め方の改善点などについて意見交換。第7回PF会議の内容についても打ち合わせを実施。
・2022/03/02　PFリーダー会議	ZOOM	まちなかエリア作戦会議の進め方や発表方法などについて議論。

01.

（3）エリアプラットフォーム会議での検討経緯

まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって
（1）エリアビジョン策定の目的と位置づけ
（2）エリアビジョンの検討体制
（3）エリアプラットフォーム会議での検討経緯
02. まちなかエリアの基本情報
03. エリア関係者の声の抽出
04. まちなかエリアのめざす将来像
05. ビジョン実現に向けた具体的方策
06. 今後の推進体制と事業スケジュール

○各チームでの検討の過程

・プラットフォーム会議の設立前の、各メンバーや地域関係者へのヒアリングや、設立準備会で出た意見などをもとに、エリアのキーワードとして浮かび上がった「海」「食」「回遊」「働く」「歴史未来」の5つのテーマで、チームを構成し、エリアビジョン策定に向けて、各チームでテーマごとに既存ストックの整理や、課題の共有、理想像の妄想、目指す将来像の具体化などを行った。

↑チーム分けの際の様子。各メンバーが興味のあるテーマを選んで参画した。

AIテキストマイニングツールを使用

全体会議

プラットフォーム会議（月1回）

海

●海チームメンバー
◎堀内、武山、佐々木、藤田

●7/12 チームミーティング
⇒「海」に関する現状認識を洗い出し

〈当日出た意見〉
・船が停まっているだけではもったいない
・海を活用した新しい活動の場にしたい
・「海はみんなのもの」という雰囲気にしたい
・カップルがデートできる海の風景をつくりたい

しかし…
内湾の水質は汚いのではないか？

●内湾水質調査
⇒「海」に実際にダイブして体験！

そのうえで、
・実際に内湾でやってみたいアクティビティを妄想
・妄想を実現するための課題について整理

食

●食チームメンバー
◎菅原、猪狩、平野、小松、織笠、足立

●7/16 チームミーティング
⇒「食」に関する現状認識を洗い出し

〈当日出た意見〉
・震災後、夜に飲み歩くお客さんが減っている
・観光客も地元の人も職を楽しめる街が良い
・エリアとして、食のシチュエーションの提供も強化したら良いのではないか

その後のミーティング後で、メンバーそれぞれが思い描く街の理想像の擦り合わせが必要なのではということに！

●8/23 チームミーティング
⇒理想のエリア将来像をプレゼン！

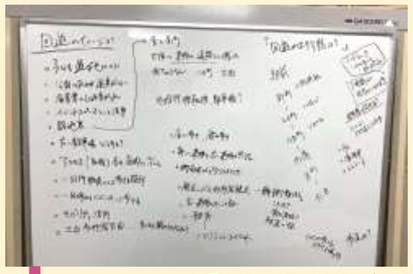
〈それぞれの「理想のエリア将来像」〉
猪狩：仙台圏の人々の週末のリゾート地に食材＋α体験で付加価値UPを
菅原：“美食の街”気仙沼。空間をつくり食材を活かし人を育てる。食の楽しさの見える化。
平野：美味しい匂いのするまち。目に見えて食欲のそそる風景。
織笠：食を知る、味わう、見る、感じる。「美味しい」顔をした人が外に出歩いている街。

回遊

●回遊チームメンバー
◎一色、廣野、熊谷浩典、熊谷俊輔、志田、島田、濱田、玉川、斎藤、吉川

●7/13 チームミーティング
⇒「回遊」に関する現状認識を洗い出し

〈当日出た意見〉
・アクセスや動線を面的に考えるのが必要では
・エリア内を移動するモビリティも検討が必要
・食べ歩き、飲み歩きできるエリアにしたい
・休日の盛り上がりがイマイチなのではないか
・まちなかエリアと斜面地や山との連続性がない



↑打ち合わせ時のホワイトボード

●7/26 目指す将来像を発表
①滞在できる街
②休日が盛り上がる街
③駅、海、平地、斜面を広く回遊できる街
の3つを掲げた！

働く

●働くチームメンバー
◎千葉、坂本、森田、小野寺一雄、原田

●7/13 チームミーティング
⇒「働く」に関する現状認識を洗い出し

〈当日出た意見〉
・外貨を稼ぐまちづくりにあたっては、既存の商店1店舗ごとの意識改革も重要だ。
・観光客をどう取り込むかという視点が必要。

●7/21 チームミーティング
⇒「既存商店の改革と外貨獲得の具体化」と「ワーケーション」について議論

〈当日出た意見〉
・働き手の横のつながりを大切にする働き方を目指したい。
・エリアとしての「おもてなしスキル」を向上したい。

時代背景からも、これまで漁業一本だった地域内経済が成立しない状況になりつつあり、地域外の人たちに来てもらう必要性が出はじめ、サービスや質が求められる時代になったのではないかという仮説が浮上。

歴史未来

●歴史未来チームメンバー
◎小野寺靖忠、鈴木、渡邊、佐藤

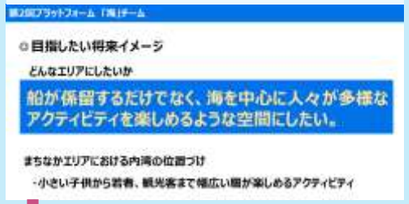
●7/13 チームミーティング
⇒「歴史」に関する現状認識を洗い出し

〈当日出た意見〉
・漁業から派生して色々な営みや文化が生まれていた。内湾は漁師がお金を落としていく所。
・何度も大火や津波の被害に遭い、そのつど再建してきたのが内湾エリア。不屈のまち。
・エリアの風習や文化のストーリーを子供たちや観光客向けに伝えていけたら面白いのでは。

●7/26 目指す将来像を発表
漁業によって発展した街ならではの文化が多数ある一方で、再建続きであるが故に「街の記憶」を引き継ぎにくいのが課題であるとしたうえで、
①海と街の文化や習慣を関連づけるストーリーを、子供たちや観光客向けに伝える！
②市役所跡を活用して、小さな店舗や工房、趣味、仕事、ゲストハウスで利活用する！
の2つの案を提案した。

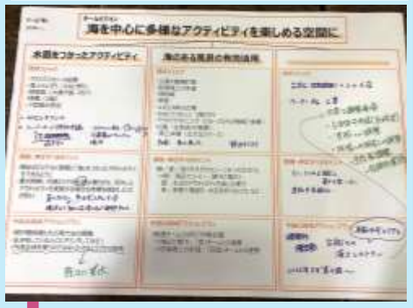
●7/26 目指す将来像を発表

・目指したい将来イメージ
⇒船が係留するだけでなく、海を中心に人々が多様なアクティビティを楽しめるような空間
・理想シーン
⇒水上アクティビティ、海を眺めながらヨガ、岸壁で朝市、芝生にシートを敷いてピクニック



●9/27 チームビジョン策定

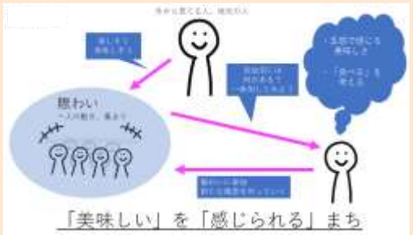
今後の方向性として
①水面をつかったアクティビティ
②海のある風景の有効活用
の2つについて検討を深掘りすることに。



●10/26 トークセッション

ミズベリング・プロジェクト ディレクターの岩本氏と、台船レストランや水上アクティビティなどの具体的な活用イメージについても相談。

●11/13 水上ピクニック体験！



●9/10 チームミーティング

⇒それぞれが思い描く理想像から共通要素を抽出し、食チームとしてのスローガンを「『美味しい』を『感じられる』まち」に決定

●9/27 チームビジョン策定

今後の深掘りしていく要素として
①五感で「食」を楽しめる街
②賑わいのある「食」空間
③「食べる」を考える
の3つをテーマに定めた。

実際に「匂い」や「煙」を出して賑わいのある「食」空間をやってみようということに！

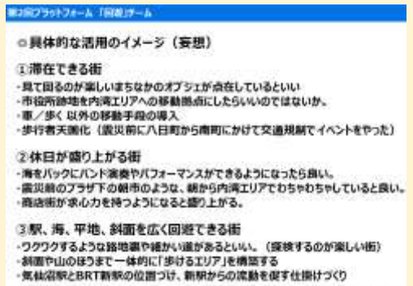
浜焼き企画に向けた準備を重ねる…

↑漁港（岸壁）の占用協議資料

●10/24 浜焼き実証実験！

実際に「美味しい」を「感じられる」賑わい空間を創出し、住民・観光客の反応などを確認。

反応は上々！
空間の使いこなしかたのヒントにもなった。



↑発表スライド抜粋。理想像のイメージを膨らます。

●8/22 空き家物件調査！

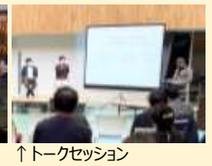
●9/27 チームビジョン策定

・つかって良いと思える場が必要という結論に（スケボー、弾き語り、映えるアートなど）
⇒「〇〇して良いですよ」「〇〇貸します」といえる場の創出が必要であると提案した。

●エリアリノベーションの勉強

11/13に大阪市蒲生四丁目視察、11/20にトークセッションでがもよんプロジェクト代表の和田氏に「空き家再生」について伺う。

↑蒲生四丁目視察



↑トークセッション

●11/21 空間活用検討会!

広場や岸壁でどんな過ごし方ができるか実際に現地であれこれやってみてイメージを膨らませた

●7/26 目指す将来像を発表

①街として「おもてなし」する姿勢を整えること
②外貨を獲得する手段を確立すること
の2つを今後のテーマとすることに。

↑発表スライド抜粋

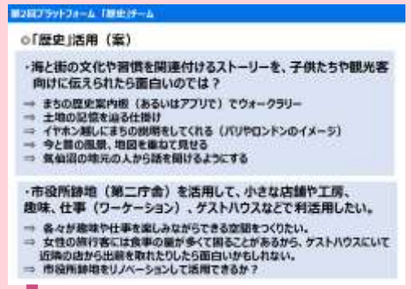
●9/27 チームビジョン策定

・エリア内の働き手同士の交流や情報共有機能を可能にする取り組みとして、「朝市」を定期開催することを提案。

●12/18 八戸視察

・IT関連産業の企業誘致の成功事例として中心市街地の視察を実施。
・八戸市まちづくりスポーツ文化部部長の前田氏らから、八戸市の企業誘致の経緯等について伺った。

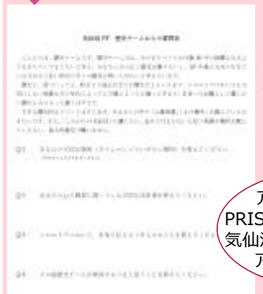
●現在、朝市企画検討中!



●9/27 チームビジョン策定

今後の具体的な取り組みとして、
①気仙沼人のサードプレイス調査
②ストリートのDNAを通り名として残す
③将来世代のプラットフォームへの参加
の3つを掲げた。

●サードプレイス調査アンケート



チームビジョンの①気仙沼人のサードプレイス調査を実施。

アンケート結果は、PRISM、喫茶ヴァンガード、気仙沼小学校、F.C.U.P、アンカーコーヒーなど

●10/25 気仙沼高校の学生がプラットフォーム会議に参加！

（３）エリアプラットフォーム会議での検討経緯

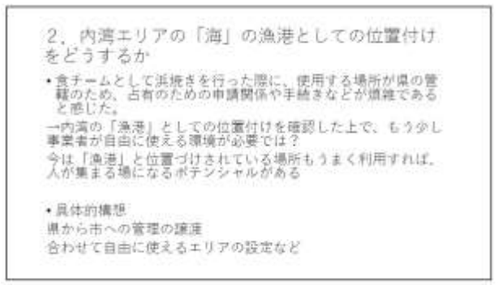
01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって
（１）エリアビジョン策定の目的と位置づけ
（２）エリアビジョンの検討体制
（３）エリアプラットフォーム会議での検討経緯
02. まちなかエリアの基本情報
03. エリア関係者の声の抽出
04. まちなかエリアのめざす将来像
05. ビジョン実現に向けた具体的方策
06. 今後の推進体制と事業スケジュール

○エリアビジョン策定に向けて検討した「15 の論点」

・「海」「食」「回遊」「働く」「歴史未来」の各チームごとにチームビジョンを策定し、プラットフォーム全体で目指すべき大きな方向性に指針について擦りあわせをしたうえで、
より具体的な論点（＝全体ビジョンのもとで推進するうえで、整理や検討が必要となる事項）として15のテーマを整理したものについて、各メンバーで検討し、プラットフォーム全体に提案を実施して、
個別のプロジェクトの設定に繋げた。

1	景観としての「海」をどう活かしていくべきか。（岸壁・広場が居心地がよく過ごしやすい空間になるために何が必要か、観光客への海の見せ方など）
2	内湾エリアの「海」の漁港としての位置づけをどうするか。（漁港利用協議会の岸壁の係留計画・観光課等のヨットハーバー計画等の整理と調整など）
3	地元食材（＝資源）のポテンシャルの広がりをどのように実現するか。（調理法やメニュー開発、地元食材の地元での価値の共有をどのようにするかなど）
4	岸壁と１号公園＆隣接地での理想シーンの検討と一体的な空間の活用について。（別々に整備・活用をするのではなく連続性のある空間の利活用を。必要な機能の配置など）
5	リノベーションまちづくりの実現に向けた空き家活用の手法の検討。（空き家オーナーと活用したい事業者のマッチングをどのようなスキームで実施するかなど）
6	市役所跡地＆ワンテンビルの再活用の検討について。（エリア全体のなかの位置づけは？どのような機能を持たせるべきか）
7	交通再編計画をどうするか。（歩行者・自転車空間化、モビリティ検討、回遊ルートの設定と案内性の向上など）
8	BRT新駅の在り方と新駅からの動線計画について。（駅から街に出るルート、駅の機能性、市役所跡地との関係性など）
9	休日の駐車場活用＆周辺施設との回遊動線について。（現状の駐車キャパシティの整理、休日の駐車場不足の解消策、回遊を生む駐車場配置の在り方など）
10	外の事業者が参入しやすい環境の整備や事業化サポートの仕組みをどうつくるか。（起業・ワーケーション・副業マッチングなどのための仕組みとスキームについてなど）
11	ホテル・観光・IT企業などエリアに波及効果を高める企業の誘致について。（法人税のUP以外にエリアにもたらす恩恵は何か、インパクトのある企業の誘致方法など）
12	観光エリア化を見据えたターゲット層の具体化。（どんなルートで誰が来てくれるのか、どこに泊まるのか、宿泊地は足りているかなど）
13	未来に残していくべきモノ／文化の整理について。（将来世代に引き継ぐべき街の文化の洗い出し、引継ぎの具体的手段（例：ストリート名をつける）など）
14	内湾エリアで多様な世代が暮らせる環境づくりについて。（観光と暮らしの両立、多世代が楽しめる場づくり、災害公営住宅などの既存ストックの活用など）
15	これまでの街づくりとの整合性をどうとるか。（今までの都市計画からの流れ、震災後の一連の整備との連動性など）

○論点に対する提案資料



①課題について
・気仙沼駅からのアクセスが不便 → ア
・駐車場が少ない → 駐

②解決策(案)について
→ア:二次交通の整備
→駅前と内湾を結ぶ交通手段として循環バスあり 1日7本運行
→レンタサイクルの拡充
→コスト面(ハード・ソフト)での課題あり
→乗り捨て箇所の拡充など、利便性の向上は必要では?
→その他の移動手段の確保が必要か?
→ア・駐:街歩きの楽しさの提案
→街歩きを目的とさせるための観光素材の磨き上げが必要では?
→着地型観光素材の情報整備(MAP、看板など)
→駐:魚市場【大きな駐車場】からの交通手段の確保

＊駅前観光案内所 普通自転車5台 電動5台
海の市 電動2台
相互乗り捨てを可としている、観光シーズン中には足りなくなることあり
＊駐車場の台数については5P参照

⑮ 未来に残していくべきモノ/文化の整理について。

・ストリートの命名

・地元の学生や若者の次世代が新しいことを始めるときの歴史伝統の紹介、継承、学校を介し専門の情報や企業へのマッチング

・気仙沼湾に漁船が溢れていたころの風景を当時と同じ角度で統一されたイラストやデザインして防潮堤や、内湾商業施設の壁にペイント。観光客や昔を知らない世代に伝える手段をアートで表現。

⑭ 内湾エリアで多様な世代が暮らせる環境づくりについて。

・人が集い街となる、乗用車が無くてもギリギリ働けるこの内湾エリア。
ワーホリ、子育て移住者、起業、国内留学などの機会を作り住人を増やしたい
→ 公営住宅の活用(現在、南町住宅2戸)
→ 空き家の活用(市で管理している物件は消費が多い)
→ シェアハウス・大人向けの寄宿舎

・現在,minato で行っている職業マッチングは移住者の為のシステムですが、シルバー人材センターの様に年齢の垣根を取り払い幅広い年齢や職種を活かした市民の雇用・アルバイト・サポート登録のシステムを一本化してみたい。

論点 10

エリアビジョン策定に向けて検討すべき論点

武山

【論点 10】外の事業者が参入しやすい環境の整備や事業化サポートの仕組みをどう作るか(起業・ワーケーション・創業マッチングなどのための仕組みとスキームについてなど)

主に、外の事業者が参入しやすい環境の整備についてのイメージ

自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換

「スポーツ×まちづくり」 スポーツを戦略的に活用したまちづくりをしていく。
※ここでの「スポーツ」とは、いわゆる競技スポーツだけでなく、散歩などを含め広く身体活動一般の意味。
↓
「スポーツワーケーション」
地域のスポーツ資源を活用したワーケーション。
スポーツワーケーションでの人々の交流は、スポーツをすることにより地域外の人と地域住民とのコミュニティが生まれたり、余暇時間が充実することから、ただのワーケーションに加え、リピート率の高まりや愛着の醸成が期待されている。

事例として宮城県名取サイクルスポーツセンターでの名取閖上・震災復興エデュケーショナル・スポーツワーケーショや、白馬でのスノーワーケーション、湘南でのサーフワーケーション、石垣島でのダイビングワーケーション等がある。
これらのように「聖地化」するやり方以外の方法を、内湾エリアで模索したい。

スポーツ庁のR3年度公募事業「スポーツによる地域の価値向上プロジェクト」内でスポーツワーケーションについても触れているがまだ報告書は上がってない模様。

11、ホテル・観光・IT企業などエリアに波及効果を高める企業の誘致について①

・交通アクセスの良くない気仙沼の「食」は「宿泊」や「滞在」とセットであると感じる。
→また、本気で外から人が来る街を目指していくに当たっては宿泊のバリエーションは必要?
→高価格帯かつ高サービスの宿泊施設があっても良い?

・具体的構想
既存の宿泊施設と競合しない形の新しい宿泊施設誘致

11、ホテル・観光・IT企業などエリアに波及効果を高める企業の誘致について②

・企業の誘致ではないが、「食」のコンテンツを充実させるためにシェフの誘致という観点があってもいいのではないか
→がもよんの始まりから着想
一つのレストランがきっかけとなり外から人を連れてくる可能性がある。

・具体的構想
気仙沼でチャレンジしたい料理人を支援する仕組みや体制づくり

(1)ルートについて
①課題について
・マイカー
→十分な駐車台数は確保されているか?
→内湾36台、市役所ワンテン141台
→観光シーズン中には満車になることが多く見られる
→海の市92台 魚市場460台あるが、内湾施設へはやや距離がある
→バス駐車場が内湾施設からやや離れていて、かつ分かりづらい
→案内看板は十分か?

・JR東日本(一ノ関駅から特急バスもあり) ＊大船渡線11本、BRT22本
→(コロナ前から)混雑はしていない印象、余裕があると考える
→駅前からの利便性は確保されているか?
→市内循環バス 7本運行
→周知が足りているか(旅前、旅中)
→駅前からの街歩きの提案がされているか?

・高速バス ＊仙台から7本運行 仙台空港から2本運行
→混雑はしていない印象、余裕があると考える
→観光客への周知は十分にできているか?

②解決策(案)について
→着地型情報(旅前・旅中)の整備
→街歩きを目的とさせるための観光素材の磨き上げが必要では?

(2)宿泊施設について
①課題について
→ 宿泊地は足りているか?
内湾エリアの宿泊のキャパは 11施設(大船屋、プラザ、観洋、金澤館、一景閣、パーク、磯村、かつらや旅館、パールシティー、冒屋旅館)
1,114人

＊気仙沼全体では63施設 3,865人(添付資料参照)

→特定の時期(GW)以外は十分にキャパがあると考える。
→逆に近隣市町村のキャパが少ないと考える(陸前高田、大船渡など)、交通の要所としての利点を活かし、誘客を図ることも可能では?

(3)ターゲット層の具体化
→アクセスが良く、人口が多いのは仙台圏。関東も遠くはないが素材が埋もれないか?漁業文化を掘り下げて独自性を磨く必要があるか?
→新たな施設や標等を素材とする場合は都市部よりも東北全体をターゲットとした方が良いのでは?
→気仙沼観光推進機構と連携をしてターゲット層を掘り下げる必要があるのでは?

エリアビジョン策定に向けて検討すべき論点 15

これまでの街づくりとの整合性

❶ 震災前に策定した中心市街地活性化計画と震災後の災害危険区域復興計画の食い違い

市のマスタープランがざっくりとしているので、地区ごとの細やかな役割設定も必要

❷ 都市計画道路の見直しは?
歩道の整備(点字ブロック、ユニバーサルデザイン)

❸ 中止となったバックロード計画があるが、そのために取得した土地利用についての議論

❹ 内湾地区では内湾まちづくり協議会が徹底的にまちづくりの議論を行ったが、駅前周辺地区ではまちづくりの動きは活発ではなかった。地区ごとの温度差。今後は一体的な議論が必要となる。自治会や商店会組織を交えた議論。

（１）「気仙沼まちなかエリア」の範囲設定

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

02. まちなかエリアの基本情報

（１）「気仙沼まちなかエリア」の範囲設定
（２）エリアの成り立ちと歩んできた歴史
（３）これまでのまちづくり
（４）エリアの今とこれから
（５）エリアの産業構造
（６）エリア内の主要施設
（７）主要動線と交通状況
（８）土地・建物の利用状況
（９）災害公営住宅
（10）観光客動態と観光施策の状況
（11）ビジネス支援と移住促進
（12）エリアの活動主体と公共空間の管理主体
（13）気仙沼が世界に誇る価値

03. エリア関係者の声の抽出

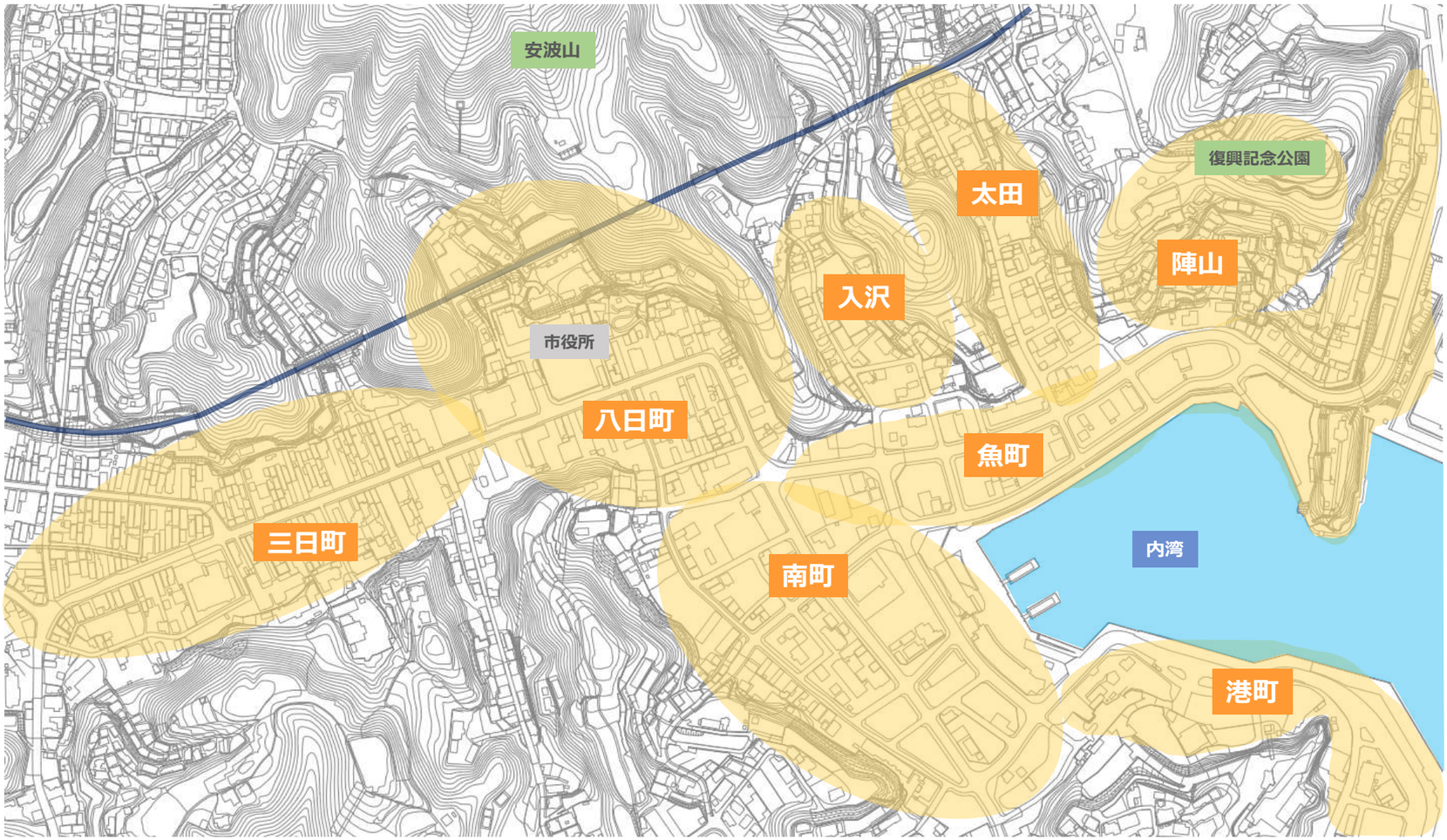
04. まちなかエリアのめざす将来像

05. ビジョン実現に向けた具体的方策

06. 今後の推進体制と事業スケジュール

○エリアビジョンの対象区域

・本ビジョンが対象とする区域は、内湾地区 まちなか再生計画（2018年）で定義された「内湾地区」（約19.5ha）を中心に、市役所周辺（三日町・八日町エリア）、内湾北側に面する斜面地の周辺（太田・陣山エリア、復興記念公園）、内湾東側に面する岸壁沿いの周辺（港町・魚市場前エリア、海の道、海の市、みしおね横丁）などを含む包括的なエリアを対象とすることとしプロジェクトの深化に応じて柔軟に対応できるよう、あえて明確な区域設定はしない。



○対象区域の写真

内湾地区

魚町岸壁と斜面地

八日町

港町の岸壁周辺

みしおね横丁（魚市場前）

（2）エリアの成り立ちと歩んできた歴史

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって
02. まちなかエリアの基本情報
（1）「気仙沼まちなかエリア」の範囲設定
（2）エリアの成り立ちと歩んできた歴史
（3）これまでのまちづくり
（4）エリアの今とこれから
（5）エリアの産業構造
（6）エリア内の主要施設
（7）主要動線と交通状況
（8）土地・建物の利用状況
（9）災害公営住宅
（10）観光客動態と観光施策の状況
（11）ビジネス支援と移住促進
（12）エリアの活動主体と公共空間の管理主体
（13）気仙沼が世界に誇る価値
03. エリア関係者の声の抽出
04. まちなかエリアのめざす将来像
05. ビジョン実現に向けた具体的方策
06. 今後の推進体制と事業スケジュール

飛鳥　奈良　平安　鎌倉　南北朝　室町　安土桃山　江戸　明治　大正

〇718年
紀州・熊野から熊野神を室根山（一関市）に迎え、室根神社を創設。海路で運ばれた分霊が唐桑半島の鮪立に上陸したという逸話あり

〇901年
『日本三代実録』に「計仙麻（ケセマ）」という表記
アイヌ語の「ケセモイ（終端の湾）」に由来？

〇1221年
承久の乱の終結後に赤岩に居城を築き、初代気仙沼熊谷氏当主となる

〇1611年
スペインの冒険家セバスチャン・ビスカイノが三陸沿岸の探索の過程で気仙沼に。「考え得る限り最良の港」と記した。（『金銀島探検記』）

↑セバスチャン・ビスカイノ

〇17世紀中ごろ
三日町・八日町の埋め立てにより現在の内湾エリアが成立

〇1675年
紀州の鰹漁師らが鮪立に逗留
エリア一帯で漁業が定着する

↑寛政絵図。埋立が進む様子。（気仙沼市史）

↑明治・大正期の魚町周辺エリアの様子（年代不明）

〇明治29年（1896）
明治三陸津波

〇明治22年（1889）
仙台藩士、鮎貝太郎平盛房の長男、鮎貝盛徳が初代気仙沼町長に

〇明治39年（1906）
気仙沼発の動力船が登場
漸次機械化が進んでいき、
全国屈指の遠洋・沖合漁業の
根拠地に

〇大正4年（1915）
大火事により町の中心部がほぼ全焼

〇大正11年（1922）
日本初の魚類専門の冷蔵庫

昭和　平成　令和

〇昭和4年（1929）
再び大火事により大延焼
南町魚町の家屋902戸が焼失した
陸前高田地方の気仙大工により再建

〇昭和8年（1933）
昭和三陸津波

〇昭和10年（1935）
気仙沼魚市場開設

〇昭和34年（1959）
サンマの漁獲量が過去歴代最高を記録（56,384トン）
漁業がピークの時代に突入

〇昭和52年（1977）
米国及び旧ソ連等が200海里水域を設定

〇平成8年（1996）
日本が国連海洋法条約を批准

〇平成14年（2002）
「風待ち研究会」が発足
街並みの保存活動を実施

←震災前の武山米店の建物

〇平成31年（2019）
気仙沼大島大橋（鶴亀大橋）架橋

〇昭和28年（1953）
気仙沼町と鹿折町、松岩村が合併し、
気仙沼市が発足

〇昭和30年（1955）
新月村、階上村、大島村が編入

〇昭和31年（1956）
魚市場が現在の内ノ脇に移転
臨港線（鉄道）も開通
「内湾」という呼び名がこの頃から使われる

〇昭和30～40年代
漁業に関わる水揚げ、販売、仕込みなどで内湾地区が、鉄道駅から内湾までの道路沿いで商業地区が発展

〇平成18年（2006）
唐桑町が合併し、新制の気仙沼市に

〇平成21年（2009）
本吉町が合併

〇平成23年（2011）
東日本大震災により被災

〇令和3年（2021）
気仙沼湾横断橋の開通
NHK「おかえりモネ」放送

（3）これまでのまちづくり

○震災前のまちづくりの主な取り組み

（1）行政主導のまちづくり計画

・**三日町・八日町地区市街地総合再生計画**（1995年）
既存の公共・公益施設の集約を活かしたまちづくりを図り、居住・産業機能が一体となった中心市街地づくりを目標に策定。

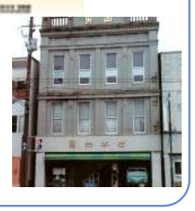
・**（旧）気仙沼市中心市街地活性化基本計画**（1999年）
JR気仙沼駅から東側の内湾までの商業地域を中心市街地と位置づけ、活性化を図ることを目的に策定。

・**（新）気仙沼市中心市街地活性化基本計画**（2009年度）
定住化の促進、交流人口の増加、商業の活性化、地域資源の活用の4点に目標を定めて計画作成したが、計画の認定には至らず。

（2）民間主体のまちづくりに関連する主な取り組み

・**ワンテンビル再開発事業**（1999年開業）
左記の総合再生計画（1995年）の先導プロジェクトとして、第三セクター「気仙沼都市商業開発株式会社」が開発。

・**スローフード気仙沼**（2003年～）
地元食材の利用や情報発信、食への理解を深める取り組み。
2013年にチッタ・スロー（スローシティ）協会への加入が認証された。



・**風待ち研究会**（2002年～）
昭和4年の大火の後、再建された建物の街並みを保存する活動。
震災後には「風待ち復興検討会」が発足した。

○震災後のまちづくりの主な取り組み

・**気仙沼市震災復興計画**（2011年）
東日本大震災により壊滅的な被害を受けた市街地について復旧・復興支援等の施策を定めた。
「海と生きる」を副題にして、2015年度までを集中復興期間、2020年度までを目標期間とした。

復興の目標

- 津波死ゼロのまちづくり
- 早期の産業復活と雇用の確保
- 職住復活と生活復興
- 持続発展可能な産業の再構築
- スローでスマートなまちとくらし
- 地域に笑顔溢れるまちづくり

・**魚町・南町地区土地区画整理事業**（2013年都市計画決定、2014～2021年事業施行）

・**内湾地区復興まちづくり協議会提言書**（2013～2015年）
地区住民と事業者を中心に各地区会や分科会でワーキングを進め、意見やアイデアを踏まえた内湾地区のまちづくり案を市長に提言した。「スローシティ気仙沼」がコンセプト。

提言書で提案した方針

- ここでしか味わえない、気仙沼の食のあるまち
- ここにしかない固有の歴史と風土を感じ、日本の文化を体験できるまち
- 人々の出会いの場となる店、みちが多くあるまち
- 魅力的な飲食店や物販店が連なり、先を歩きたくなるみち
- 市民や来街者の交流の場となるみち・広場

・**「観光に関する戦略的方策」バージョン2の提言**（2013年）
気仙沼市観光戦略会議が提言。2022年度の観光客入り込み数330万人を目標とする。

7つの観光戦略

① 気仙沼ならではのオンリーワンコンテンツを活用した誘客戦略
② 水産業と観光産業の連携・融合による新たな付加価値創造戦略
③ 観光まちづくりに向けた基盤強化戦略（ハード・ソフト）
④ 観光資源の磨き上げによる観光魅力創造戦略
⑤ 観光市場（マーケット）とのコミュニケーション戦略
⑥ 「観光地・気仙沼」を目指した観光客受け入れ態勢の強化戦略
⑦ 広域観光ルート開発及びインバウンド対策の強化戦略

・**気仙沼市都市計画マスタープラン**（2014年）
概ね20年度を目標とした長期的なまちづくりの方向性を示す。

・**気仙沼市まち・ひと・しごと創生推進計画**（2015～2019年度、2020～2024年度）

・**第2次気仙沼市総合計画**（2018年）
2017～2020年度を前期、2021～2026年度を後期として、市の最上位計画として策定。
「世界とつながる 豊かなローカル」を副題に、観光振興に向けたDMOの推進や、まちづくり人材の育成、「まち大学構想」、スローシティ・スローフードの推進、移住・定住の促進などを掲げている。

・**内湾地区　まちなか再生計画**（2018年）
2018～2020年度の基本計画。内湾地区（約19.5ha）を対象に、みなとまちとしての歴史やまちなみ、気仙沼ならではの食文化を活かした新たな顧客層の獲得による、賑わいの再生を図る内湾地区の商業・観光戦略「スローシティ気仙沼」の実現にむけた基本方針を示している。
商業施設「ないわん」や紫市場商店街の整備計画、エリアの歩行者動線、駐車場配置などもまとめられている。

まちなか再生計画の基本方針

① 地域住民の生活を支える商業・サービス機能の再建・強化
② 食を通じた市民同士、市民と観光客の交流を楽しめる飲食機能の集約・再編
③ 共同化事業を通じた賑わいの集約・再編、既存商店街との賑わいの連続性の確保
④ 地域資源を活かした、観光客のニーズに即した新たな商業・サービス機能の強化

「気仙沼市震災復興計画」や、「第2次総合計画（前期）」、「内湾地区 まちなか再生計画」は2020年度までであり、また震災に伴う、土地区画整理事業などのハード整備も概ね目途がたっている状況である。そこで、「つくる」が終わったエリアを、どのように「つかう」かに視点を変えて、エリアの活用イメージを事業目線で描き、実現の道筋を立てていくのが、本エリアビジョンの目的である。

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって
02. まちなかエリアの基本情報
（1）「気仙沼まちなかエリア」の範囲設定
（2）エリアの成り立ちと歩んできた歴史
（3）これまでのまちづくり
（4）エリアの今とこれから
（5）エリアの産業構造
（6）エリア内の主要施設
（7）主要動線と交通状況
（8）土地・建物の利用状況
（9）災害公営住宅
（10）観光客動態と観光施策の状況
（11）ビジネス支援と移住促進
（12）エリアの活動主体と公共空間の管理主体
（13）気仙沼が世界に誇る価値
03. エリア関係者の声の抽出
04. まちなかエリアのめざす将来像
05. ビジョン実現に向けた具体的方策
06. 今後の推進体制と事業スケジュール

（4）エリアの今とこれから

まちなかエリアの基本情報

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

02. まちなかエリアの基本情報

（1）「気仙沼まちなかエリア」の範囲設定
（2）エリアの成り立ちと歩んできた歴史
（3）これまでのまちづくり
（4）エリアの今とこれから
（5）エリアの産業構造
（6）エリア内の主要施設
（7）主要動線と交通状況
（8）土地・建物の利用状況
（9）災害公営住宅
（10）観光客動態と観光施策の状況
（11）ビジネス支援と移住促進
（12）エリアの活動主体と公共空間の管理主体
（13）気仙沼が世界に誇る価値

03. エリア関係者の声の抽出

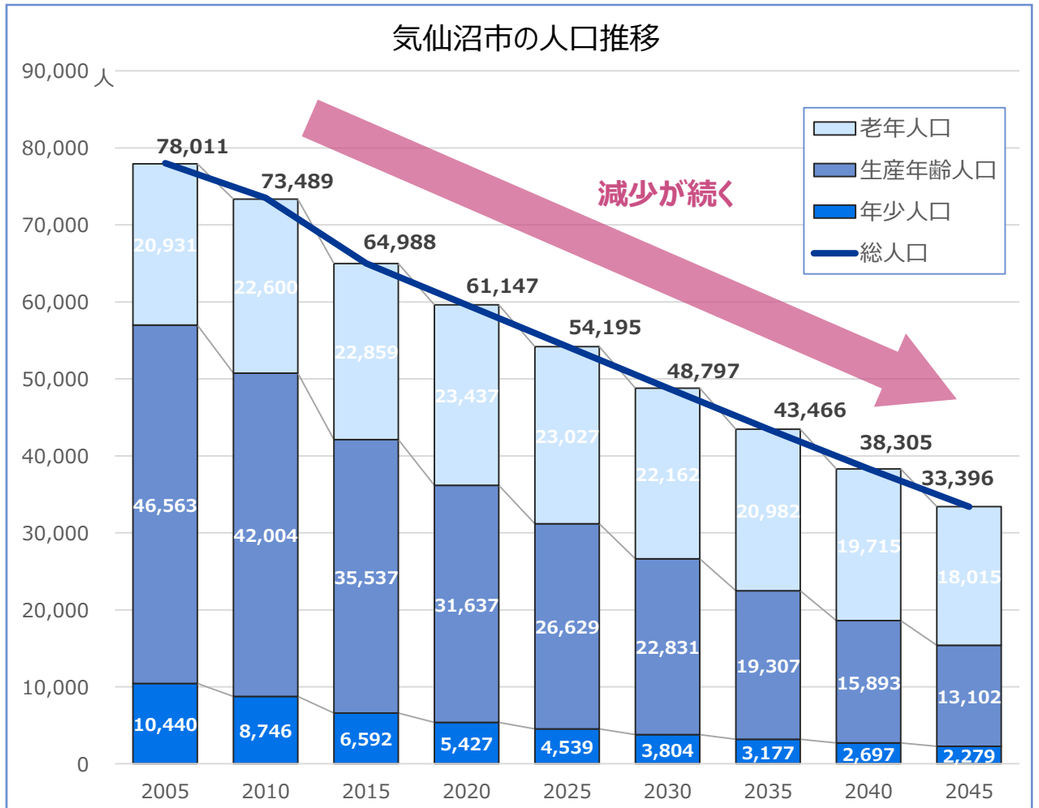
04. まちなかエリアのめざす将来像

05. ビジョン実現に向けた具体的方策

06. 今後の推進体制と事業スケジュール

○気仙沼市の将来人口

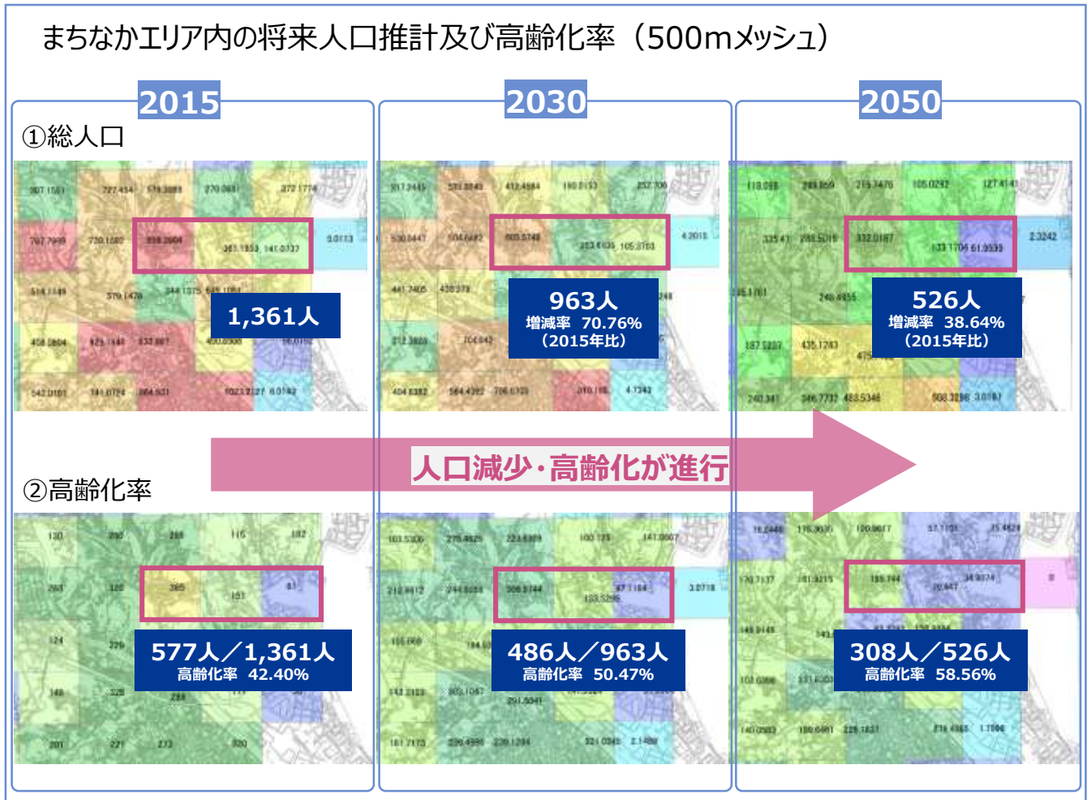
・気仙沼市の人口は、1980年の92,246人をピークに減少に転じ、以降は減少傾向が続く。人口減少の理由は社会減（人口流出）であり、平成に入ってからは年間300～1000人の転出超過となっている。大学や専門学校等の高等教育機関が少ないことなどが理由である。
（気仙沼市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」「総合戦略」より）



資料：2020年以前　各年国勢調査（合併前は市町合算値）　※内訳は年齢不詳を除いて算出
2020年以降　社人研「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

○まちなかエリア内の将来人口

・気仙沼市全体としてみても人口減少や高齢化が進む状況が予想されるが、まちなかエリア周辺においても同様に人口減少・高齢化が進む予測データが示されている。



資料：2015年　　国勢調査
2030年以降　社人研「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」から国土政策局作成（国土数値情報）

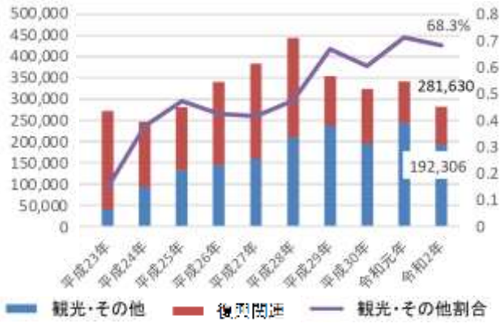
○まちなかエリアとしての危機意識

エリアにとって脅威となる可能性のある外部環境の変化要因が多数ある状況であり、その後の活用イメージをエリアビジョンで共有する重要性は高い。

① 市役所庁舎の移転（2026年度～）

② 大島定期航路の廃止（2019年）

③ 復興関連の宿泊需要低下



※詳細は（10）観光客動態と観光施策の状況にて

④ 低未利用地／空き家の増加

※詳細は（８）土地・建物の利用状況にて

（5）エリアの産業構造

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

02. まちなかエリアの基本情報

（1）「気仙沼まちなかエリア」の範囲設定
（2）エリアの成り立ちと歩んできた歴史
（3）これまでのまちづくり
（4）エリアの今とこれから
（5）エリアの産業構造
（6）エリア内の主要施設
（7）主要動線と交通状況
（8）土地・建物の利用状況
（9）災害公営住宅
（10）観光客動態と観光施策の状況
（11）ビジネス支援と移住促進
（12）エリアの活動主体と公共空間の管理主体
（13）気仙沼が世界に誇る価値

03. エリア関係者の声の抽出

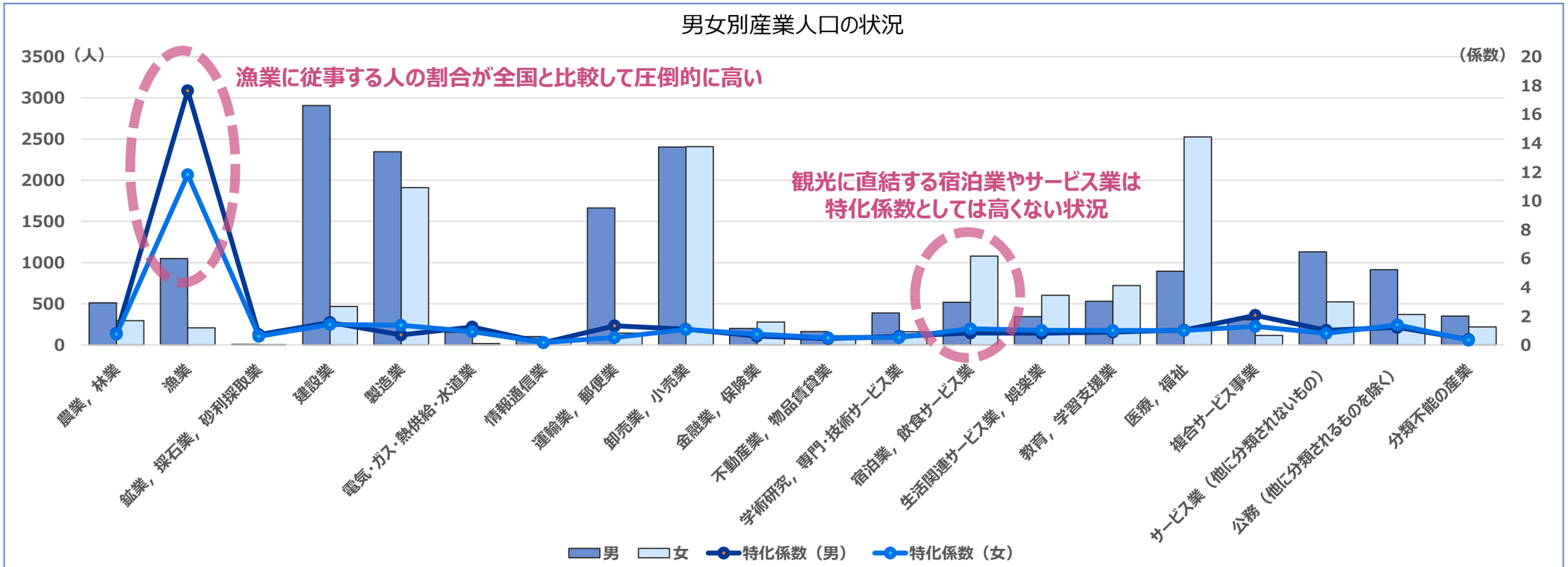
04. まちなかエリアのめざす将来像

05. ビジョン実現に向けた具体的方策

06. 今後の推進体制と事業スケジュール

○気仙沼市の産業構造

気仙沼市の産業構造の特徴としては、やはり漁業に従事する人数の割合が全国と比較して圧倒的に多いことが読み取れる。



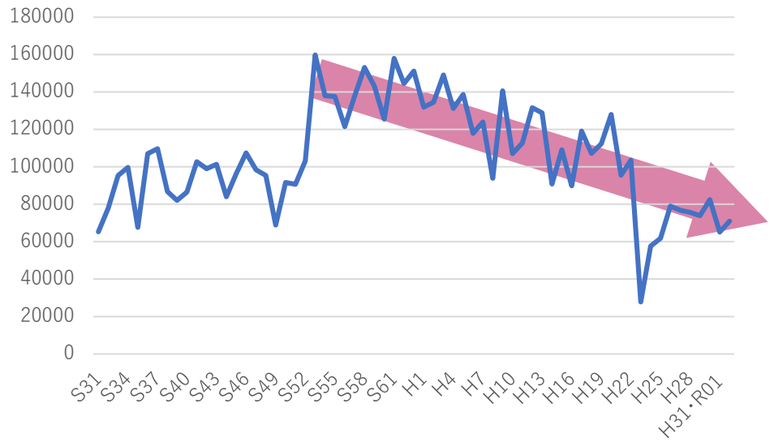
資料：2015年国勢調査 就業状態等基本集計

特化係数：地域にある産業がどれだけ特化しているかを見る係数。次式で求める。
特化係数＝気仙沼市におけるA産業の比率／全国におけるA産業の比率

○漁業関連データ

資源悪化や国際競争力の激化等による相次ぐ減船や、全国的な魚離れなどに見舞われ、漁獲量は減少傾向が続く。

気仙沼漁港　年間水揚量の推移

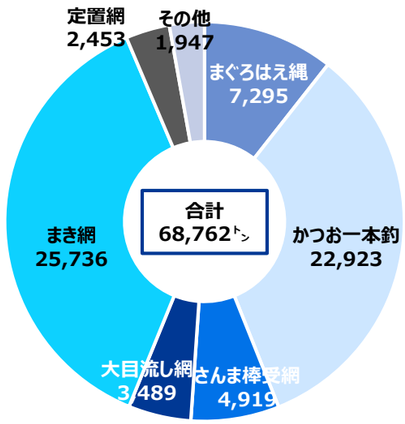


2020年全国主要漁港年間水揚高

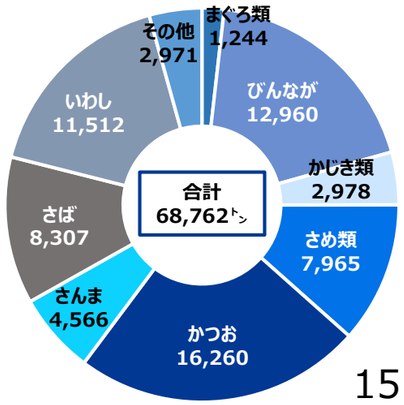
順位	漁港名	数量(ｔ)
1	銚子	271,840
2	釧路	191,044
3	焼津	153,521
4	石巻	101,332
5	境港	98,284
6	長崎	92,983
7	枕崎	80,405
8	稚内	75,701
9	気仙沼	70,887
10	八戸	61,170

出典：日刊水産経済新聞2021年1月7日付

2020年度 漁業別水揚数量（ﾄﾝ）



2020年度 魚種別水揚数量（ﾄﾝ）



出典：気仙沼市魚市場　気仙沼漁業協同組合HP「統計資料」

（6）エリア内の主要施設

まちなかエリアの基本情報

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

02. まちなかエリアの基本情報

（1）「気仙沼まちなかエリア」の範囲設定
（2）エリアの成り立ちと歩んできた歴史
（3）これまでのまちづくり
（4）エリアの今とこれから
（5）エリアの産業構造
（6）エリア内の主要施設
（7）主要動線と交通状況
（8）土地・建物の利用状況
（9）災害公営住宅
（10）観光客動態と観光施策の状況
（11）ビジネス支援と移住促進
（12）エリアの活動主体と公共空間の管理主体
（13）気仙沼が世界に誇る価値

03. エリア関係者の声の抽出

04. まちなかエリアのめざす将来像

05. ビジョン実現に向けた具体的方策

06. 今後の推進体制と事業スケジュール

○主要施設マップ

① 商業施設「ないわん」

・運営：気仙沼地域開発株式会社
※創（ウマレル）は市が整備主体

・商業店舗のほか、創（ウマレル）には「気仙沼市まち・ひと・しごと交流プラザ」として、「まち大学構想」の「□ship（スクエアシップ）」などが開設。

・内湾地区 まちなか再生計画（2018年策定）に基づき計画・整備されたエリアの中心的商業地。

↑迎（ムカエル）

↑結（ユワエル）

↑拓（ヒラケル）

↑創（ウマレル）

② 南町紫神社前商店街

被災した事業者を中心に、グループ補助等を活用して災害公営住宅と一体で整備。

③ 気仙沼市魚市場

1956年に魚町から現位置に移転。見学スペースや情報発信施設も併設。2019年に新気仙沼魚市場完成。

④ 海の市

・運営：株式会社 気仙沼産業センター
魚市場に隣接する観光スポット。飲食店や土産屋のほか、シャークミュージアムや氷の水族館も入る。

⑤ みしおね横丁

・2019年夏に開業。トレーラーハウス型の店舗集合型横丁。「気仙沼みなとでマルシェ」などのイベントが開催されることもある。

⑥ おさかな市場

・運営：株式会社 阿部長商店
気仙沼港に水揚げされた魚や、水産加工品・お土産品などを販売。レストランも併設。

（7）主要動線と交通状況

まちなかエリアの基本情報

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

02. まちなかエリアの基本情報

（1）「気仙沼まちなかエリア」の範囲設定
（2）エリアの成り立ちと歩んできた歴史
（3）これまでのまちづくり
（4）エリアの今とこれから
（5）エリアの産業構造
（6）エリア内の主要施設
（7）主要動線と交通状況
（8）土地・建物の利用状況
（9）災害公営住宅
（10）観光客動態と観光施策の状況
（11）ビジネス支援と移住促進
（12）エリアの活動主体と公共空間の管理主体
（13）気仙沼が世界に誇る価値

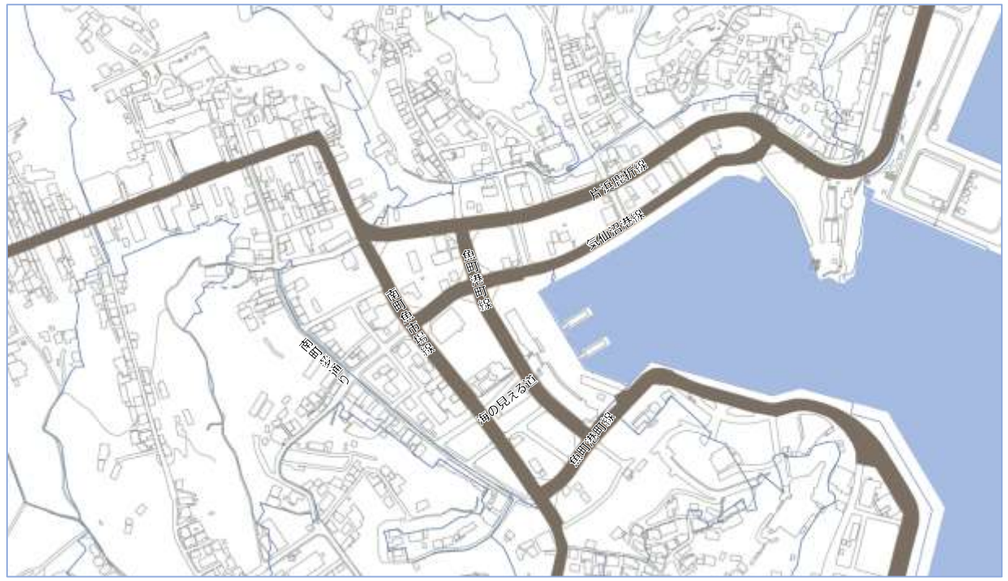
03. エリア関係者の声の抽出

04. まちなかエリアのめざす将来像

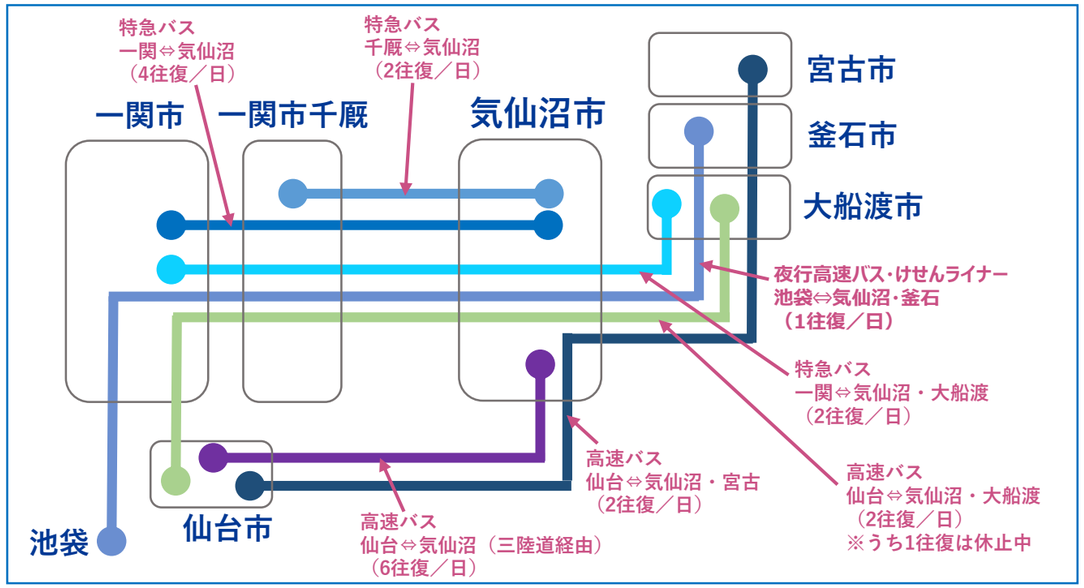
05. ビジョン実現に向けた具体的方策

06. 今後の推進体制と事業スケジュール

○まちなかエリア中心部の主要動線

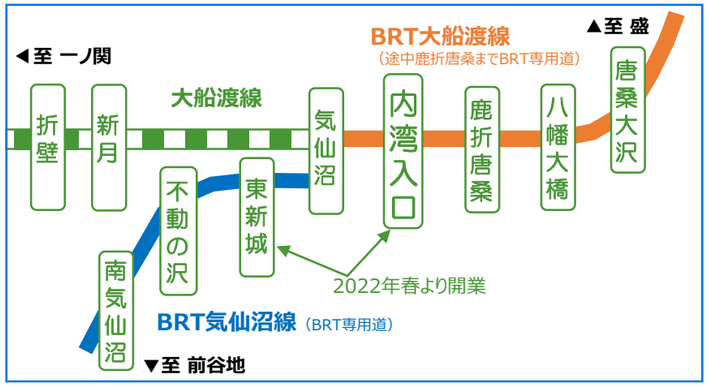


○都市間連絡バス

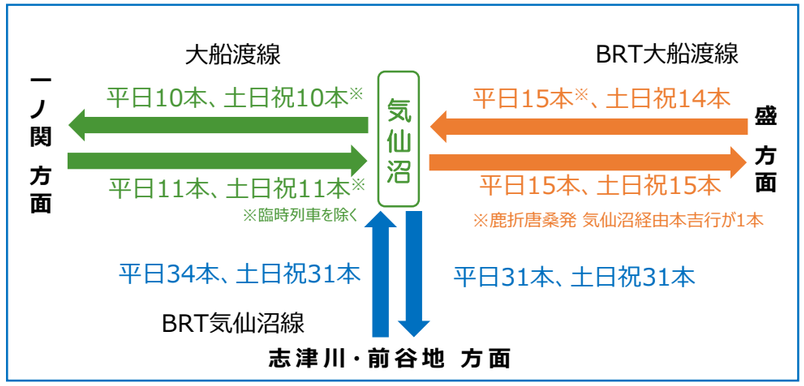


○鉄道・BRT（バス高速輸送システム：Bus Rapid Transit）

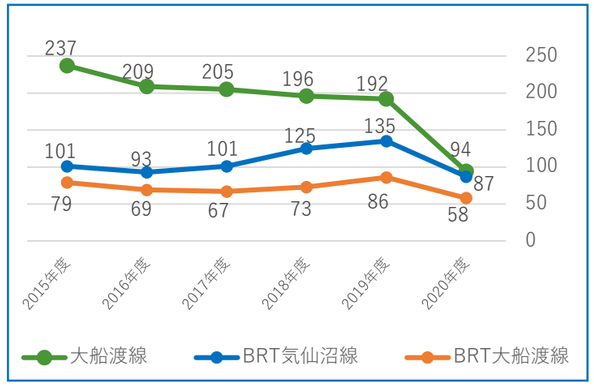
① 路線図



② 1日当たりの発着本数（2021年12月現在）



③ 気仙沼駅の1日当たりの利用者数の推移



○シェアサイクル

●貸出場所（貸出台数）
① 気仙沼駅前観光案内所（ノーマル5台、電動アシスト5台）
② 気仙沼市観光サービスセンター（電動アシスト2台）

●貸出時間　9:00～17:00
●利用料金　電動アシスト：1日1,500円、2時間700円
　　ノーマル　：1日1,000円、2時間500円
　　（各拠点乗り捨ての場合は＋500円）

○遊覧船（大島汽船）

ファンタジー　152t／定員300名

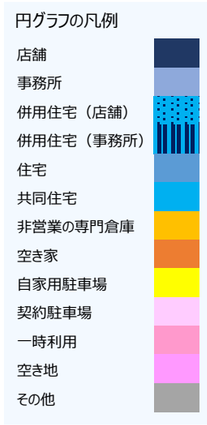
やしま丸　19t／定員151名

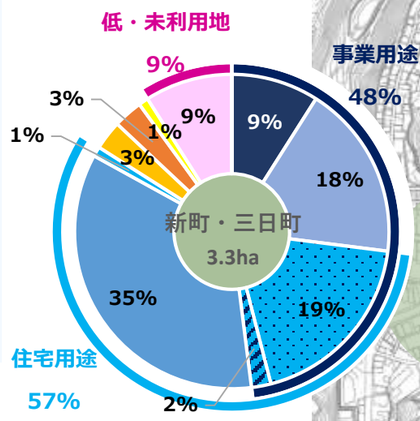
グリーンパールⅡ　19t／定員95名

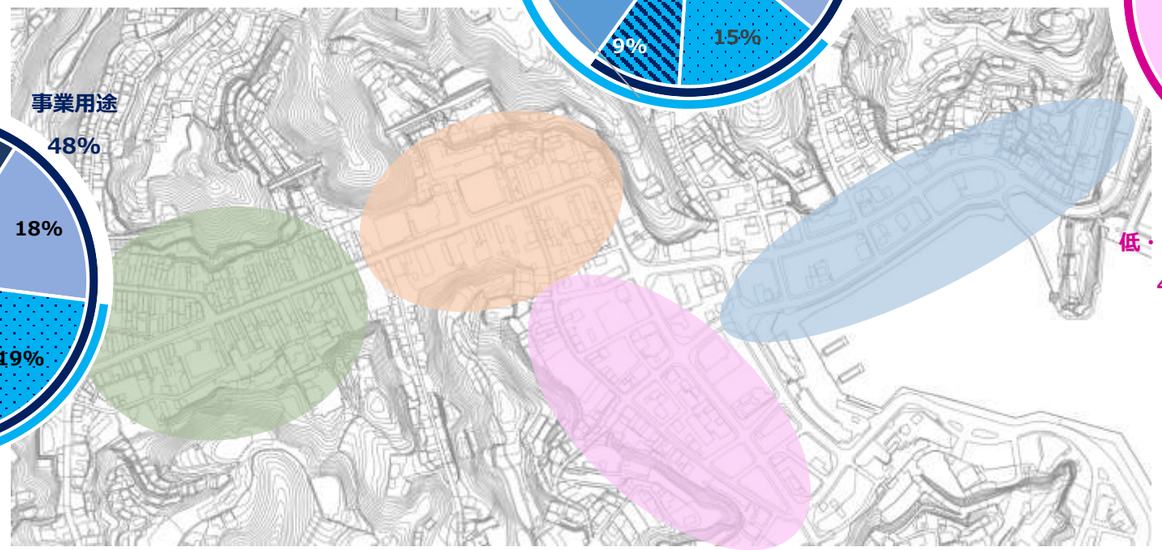
（８）土地・建物の利用状況

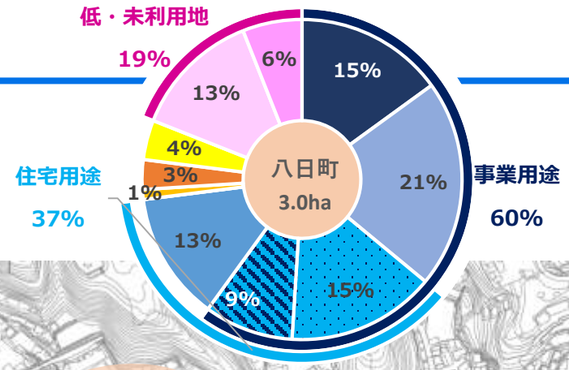
○内湾地区（三八通り沿道･魚町･南町区画整理地区内）

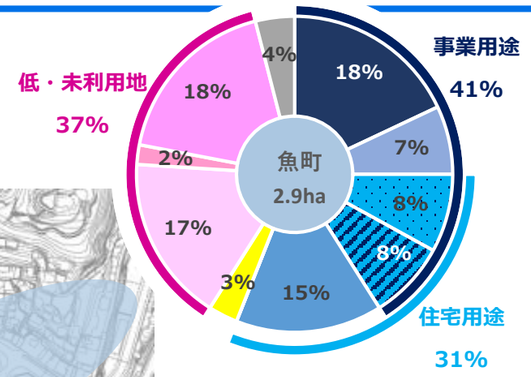
･気仙沼市都市計画課 土地建物利用調査資料（2021）より

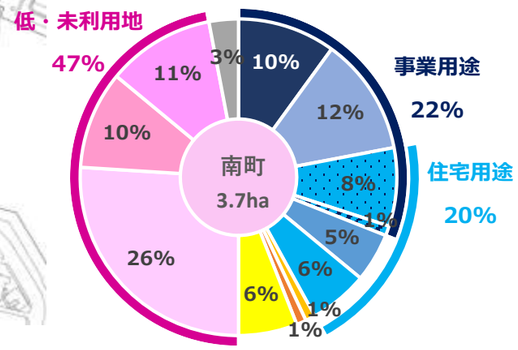






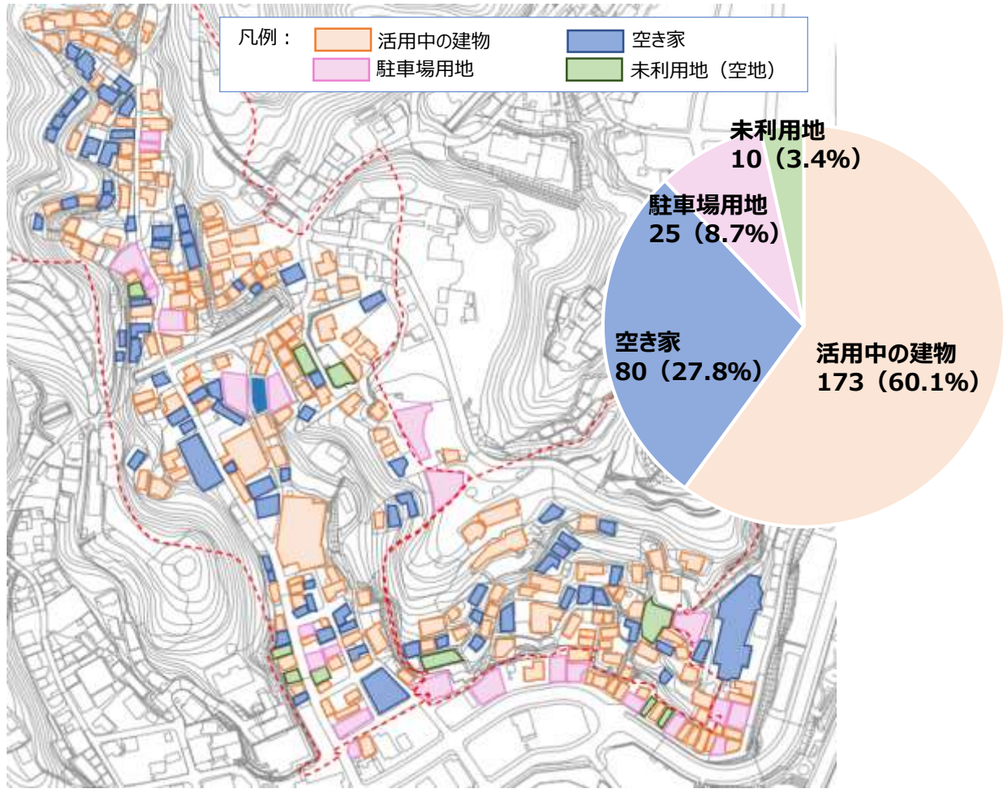






○斜面地エリア（太田･陣山）

･目視による現地調査結果



･内湾地区（上記4地区）において、全体（約12.9ha）の約29%（3.7ha）が低未利用地となっている。
･斜面地エリア（太田･陣山）も、調査した288箇所のうち、約40%にあたる115箇所で空地･空き家･駐車場などの用に供されていた。
･今後、人口減少や高齢化が進むに伴い（14頁参照）、空き家も増加することが予想されるため、既存ストックの再利用や、低未利用地の有効活用が今度の課題となる。

↑2020年12月時点のエリア中心地の様子。空き地や駐車場などの低･未利用地が多い。

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

02. まちなかエリアの基本情報

（1）「気仙沼まちなかエリア」の範囲設定
（2）エリアの成り立ちと歩んできた歴史
（3）これまでのまちづくり
（4）エリアの今とこれから
（5）エリアの産業構造
（6）エリア内の主要施設
（7）主要動線と交通状況
（8）土地･建物の利用状況
（9）災害公営住宅
（10）観光客動態と観光施策の状況
（11）ビジネス支援と移住促進
（12）エリアの活動主体と公共空間の管理主体
（13）気仙沼が世界に誇る価値

03. エリア関係者の声の抽出

04. まちなかエリアのめざす将来像

05. ビジョン実現に向けた具体的方策

06. 今後の推進体制と事業スケジュール

（9）災害公営住宅

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

02. まちなかエリアの基本情報

（1）「気仙沼まちなかエリア」の範囲設定
（2）エリアの成り立ちと歩んできた歴史
（3）これまでのまちづくり
（4）エリアの今とこれから
（5）エリアの産業構造
（6）エリア内の主要施設
（7）主要動線と交通状況
（8）土地・建物の利用状況
（9）災害公営住宅
（10）観光客動態と観光施策の状況
（11）ビジネス支援と移住促進
（12）エリアの活動主体と公共空間の管理主体
（13）気仙沼が世界に誇る価値

03. エリア関係者の声の抽出

04. まちなかエリアのめざす将来像

05. ビジョン実現に向けた具体的方策

06. 今後の推進体制と事業スケジュール

○エリア内中心地の災害公営住宅について

魚町二丁目住宅

気仙沼市魚町二丁目1番8号
敷地面積：759㎡
総 戸 数 ：15戸
入居者数：15戸※
竣 工 ：2016年8月

地権者等により構成された事業主体が設計・建設等を行い、市が災害公営の住宅部分を買取る「共同化事業」により整備。

八日町住宅

気仙沼市八日町二丁目3番6号
敷地面積：473㎡
総 戸 数 ：11戸
入居者数：10戸※
竣 工 ：2016年7月

地域住民によって設立された建設組合が事業主体となり建築し、市が買い取る「共同化事業」により整備。地域住民が運営するコミュニティセンター（自治会館）を配置。

魚町入沢住宅

気仙沼市魚町一丁目4番1号
敷地面積：3,630㎡
総 戸 数 ：59戸
入居者数：57戸※
竣 工 ：2017年2月

事業者を公募により選定。（公募買取事業）

南町二丁目住宅

気仙沼市南町二丁目4番19号
敷地面積：2,693㎡
総 戸 数 ：24 戸
入居者数：18戸※
竣 工 ：2017年4月

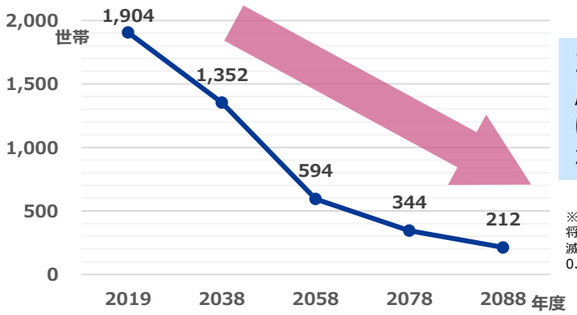
気仙沼復興商店南町紫市場（仮設商店街）をはじめとした内湾地区の被災営業者により設立した建設組合が事業施行者となり建設。

南町一丁目住宅

気仙沼市南町一丁目4番10号
敷地面積：1,997㎡
総 戸 数 ：36 戸
入居者数：33戸※
竣 工 ：2016年10月

災害公営住宅36戸による「住まいの再建」、蒲鉾工場等の「生業の再生」、コモンズ広場による「多様な交流」の3つを一体的に創出。多目的室やデイサービスセンター機能も。

○入居者数の将来推定（市シミュレーション※）



2038年頃には災害公営住宅の入居者は現在の7割ほどに、2058年頃には現在の3割ほどに減少する予測となっている。

※「気仙沼市災害公営住宅に係る財政シミュレーションについて」より将来推計は、2018年10月時点の入居者状況をもとに、①世帯の消滅、②社会的転出（2012～2016年の社会て増減率（=-0.45%）、③自力再建等による転出の3条件を考慮して算出。

○災害公営住宅の活用ついて

「移住定住促進住宅」

⇒少子高齢化・人口減少の対策として、都市部からの人口流入を図ることを目的に、移住者の移住初期の住宅支援として、災害公営住宅の一部を移住定住促進住宅をして活用。

エリア内では、市営南町二丁目住宅が移住定住促進住宅に指定されている。気仙沼市移住・定住支援センターMINATOが窓口となり募集。入居申し込みは1世帯につき1住宅に限る。

（10）観光客動態と観光施策の状況

まちなかエリアの基本情報

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

02. まちなかエリアの基本情報

（1）「気仙沼まちなかエリア」の範囲設定
（2）エリアの成り立ちと歩んできた歴史
（3）これまでのまちづくり
（4）エリアの今とこれから
（5）エリアの産業構造
（6）エリア内の主要施設
（7）主要動線と交通状況
（8）土地・建物の利用状況
（9）災害公営住宅
（10）観光客動態と観光施策の状況
（11）ビジネス支援と移住促進
（12）エリアの活動主体と公共空間の管理主体
（13）気仙沼が世界に誇る価値

03. エリア関係者の声の抽出

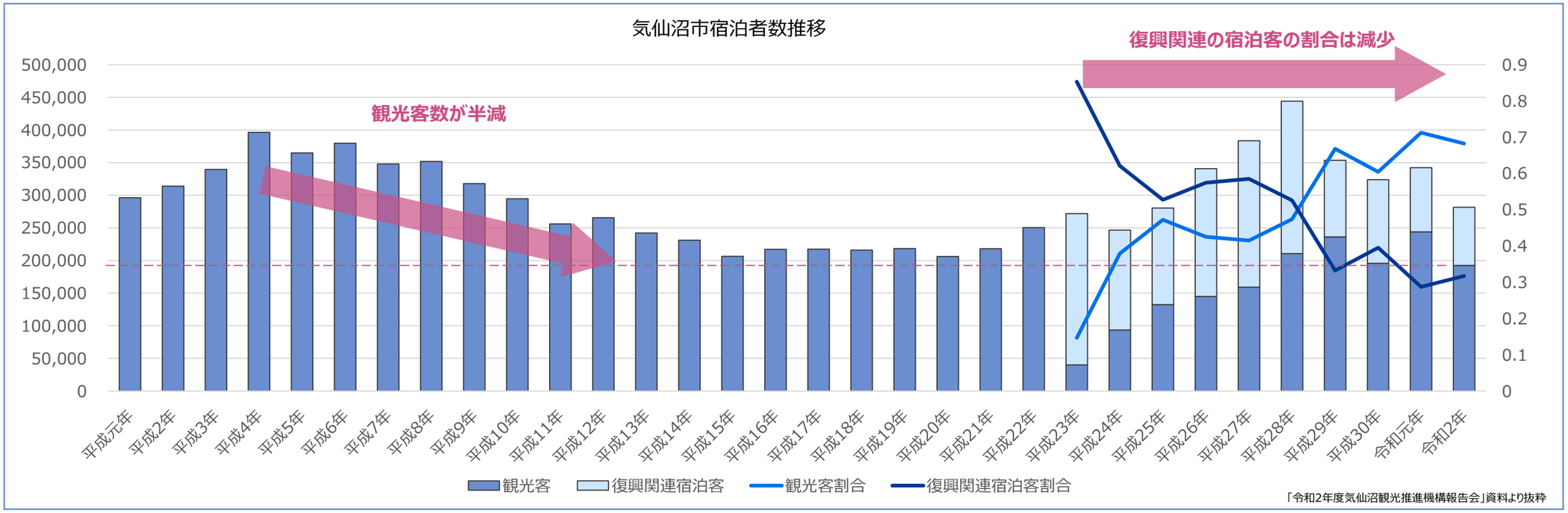
04. まちなかエリアのめざす将来像

05. ビジョン実現に向けた具体的方策

06. 今後の推進体制と事業スケジュール

○気仙沼市の宿泊者数推移

宿泊客数は平成4年度をピークに減少傾向。震災後は復興関連の宿泊客が増加したが、徐々にその割合は低下している。

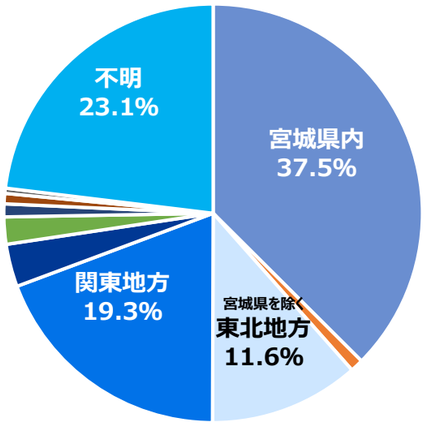


「令和2年度気仙沼観光推進機構報告会」資料より抜粋

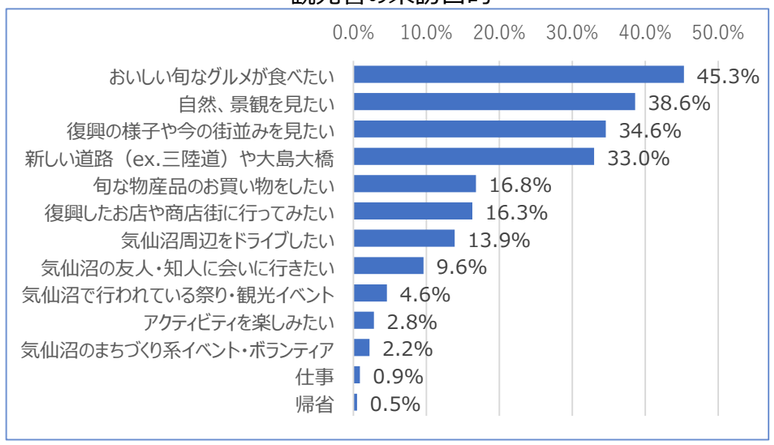
○観光に関するデータ

・宿泊者の約37.5%が宮城県、約11.6%がその他の東北地方、19.3%が関東地方から来た観光客。
・旅行元も、宮城県30.3%、東京都11.6%、岩手県11.2%、埼玉県7.2%、神奈川県6.0%の順で多い。
・旅行者の形態は、「夫婦二人での旅行」が24.4%、次いで「高校生以下を連れた家族旅行」が24.2%、「大人のみの家族旅行」が15.8%、「友人との旅行」が11.0%、「ひとり旅行」が9.5%の順で多い。
・来訪目的は、グルメや自然・景観、復興の様子の視察、特産品の買い物などの理由が多い。

宿泊者がどこから来ているか



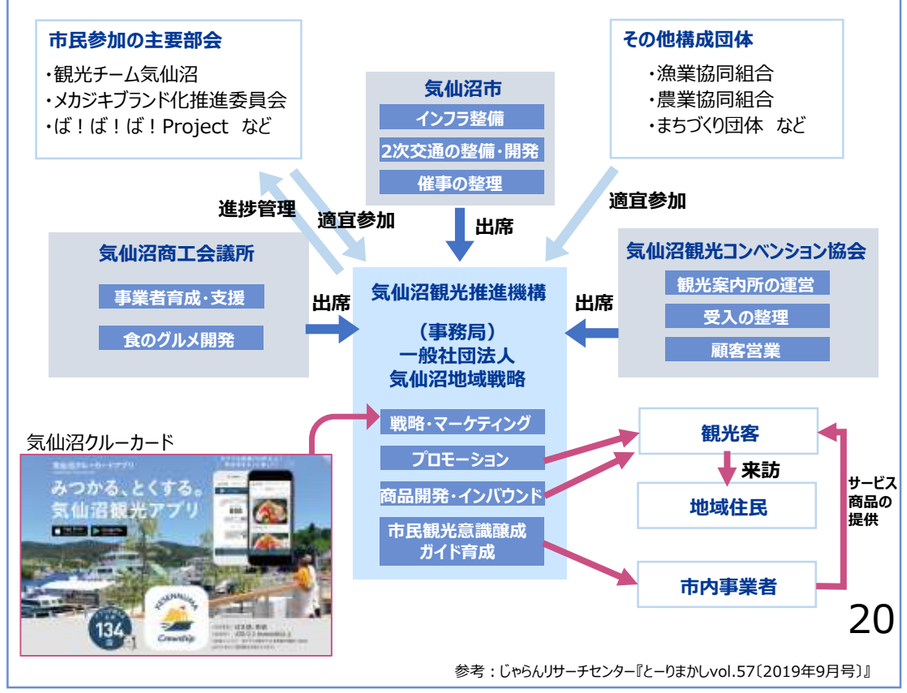
観光客の来訪目的



いずれも「2019年気仙沼市内観光客実態調査アンケート」より抜粋

○観光施策の体制

気仙沼DMOの体制図



参考：じゃらんリサーチセンター『とーりまかしvol.57（2019年9月号）』

（11）ビジネス支援と移住促進

まちなかエリアの基本情報

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

02. まちなかエリアの基本情報

（1）「気仙沼まちなかエリア」の範囲設定
（2）エリアの成り立ちと歩んできた歴史
（3）これまでのまちづくり
（4）エリアの今とこれから
（5）エリアの産業構造
（6）エリア内の主要施設
（7）主要動線と交通状況
（8）土地・建物の利用状況
（9）災害公営住宅
（10）観光客動態と観光施策の状況
（11）ビジネス支援と移住促進
（12）エリアの活動主体と公共空間の管理主体
（13）気仙沼が世界に誇る価値

03. エリア関係者の声の抽出

04. まちなかエリアのめざす将来像

05. ビジョン実現に向けた具体的方策

06. 今後の推進体制と事業スケジュール

○就業支援の制度や仕組み

・介護人材対象補助金
介護分野で働く方を支援するための助成金。

・保育士等対象助成金
保育士等の就職を支援するための助成金。

・就漁支援（TORITON気仙沼）
漁師になりたい方のサポート窓口。
一般社団法人 歓迎プロデュース、県漁業協同組合、市水産課などが連携してサポートする。

●□ship（スクエアシップ）
年間利用料1,000円でリモートワークスペースとして活用可能な会員制シェアスペース

●気仙沼市地域雇用創造協議会
地域内の企業と求職者のマッチングのために雇用に関する事業を実施。

○起業支援の制度や仕組み

・気仙沼市創造的産業復興支援事業補助金
地域資源等の活用、社会課題・地域課題の解決などを伴う新たな事業展開をする。
事業者や起業者に対し、その費用の一部を補助。

○新規事業展開枠
補助限度額：世帯員1人当たり10万円
○起業支援枠
補助限度額：1人当たり10万円
いずれも補助率は1/2以内。

●気仙沼ビズ
気仙沼市内で事業を行っている、または企業を検討している方へのサポート拠点。
中小企業・小規模企業の様々な課題の解決と売上向上に向けて、ビジネスコンサルティングを行う伴走型の支援機関として設置。事業者の悩みに対して第三者的な視点で事業の強みを見出し、解決に向けた具体的なアイデアを提案する。
相談は1回60分で、何度でも利用可能。

○気仙沼に誘致したビジネス事例

気仙沼リアス調理専門学校
南町の土地区画整理上区域内に誘致し、2021年4月に開校。
「食の地域学」が授業に組み込まれるなど、気仙沼の地の利を生かした教育を実施。

鎌倉ビール醸造
市が防災集団移転促進事業で買い上げた土地を産業用地として企業誘致。小泉地区の約3.8haの土地を対象に鎌倉ビール醸造を誘致する予定。

○移住促進の制度や取組み

① 移住促進のための制度

・ふるさとワーキングホリデー
都市部に暮らす若い人が一定期間地域に滞在し、働いて収入を得ながら地域とのかかわりを深めることを支援するプログラム。主な対象は学生・若手社会人。

・移住支援金制度
東京圏から、UIJターンによる宮城県への就業・企業を希望する方に支援金を支給。2021年4月より、就業、企業の他にもテレワーク人材やプロフェッショナル人材への支援も対象に。

・空き家バンク
空き家の売買や賃貸情報をWEBサイトに掲載し、空き家を「売りたい・貸したい」方と「買いたい・借りたい」方をマッチングする。

② 気仙沼市 移住・定住センター MINATO

・気仙沼市移住・定住支援センター MINATO
様々なライフスタイル（副業・兼業、二拠点居住など）を気仙沼で送れるための環境整備や、関係人口の創出にむけたコミュニティづくり、情報発信などを目的に設置されている。
移住に関する相談窓口としての機能のほか、空き家バンクの運営、ローカルベンチャーラボ等のコミュニティ醸成イベントへの参画、交流イベントの実施、お試し移住などの滞在プログラム、SNSなどのメディアでの情報発信、定住サポートなど、移住・定住の促進に向けた諸施策の推進を担う。

（12）エリアの活動主体と公共空間の管理主体

まちなかエリアの基本情報

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

02. まちなかエリアの基本情報

（1）「気仙沼まちなかエリア」の範囲設定
（2）エリアの成り立ちと歩んできた歴史
（3）これまでのまちづくり
（4）エリアの今とこれから
（5）エリアの産業構造
（6）エリア内の主要施設
（7）主要動線と交通状況
（8）土地・建物の利用状況
（9）災害公営住宅
（10）観光客動態と観光施策の状況
（11）ビジネス支援と移住促進
（12）エリアの活動主体と公共空間の管理主体
（13）気仙沼が世界に誇る価値

03. エリア関係者の声の抽出

04. まちなかエリアのめざす将来像

05. ビジョン実現に向けた具体的方策

06. 今後の推進体制と事業スケジュール

エリアの主な活動主体	主な事業内容
気仙沼地域開発株式会社（第三セクター）	商業施設「迎：ムカエル」、「結：ユワエル」、「拓：ヒラケル」の管理運営、気仙沼市まち・ひと・しごと交流プラザ「創：ウマレル」の指定管理。
一般社団法人 気仙沼地域戦略	・気仙沼観光推進機構事務局機能 ・観光データベース構築 ・プロモーション ・商品開発・インバウンド
一般社団法人 気仙沼観光コンベンション協会	・誘客営業 ・受入、案内所整備 ・観光意識醸成、ガイド育成
気仙沼移住・定住センター	・移住定住の相談・サポート窓口 ・空き家バンクの運営 ・コミュニティ化に向けたイベント参画 ・交流イベントの実施 ・滞在プログラムの企画運営 ・メディアでの情報発信
気仙沼ビジネスサポート協議会	・気仙沼ビジネスサポートセンター（気仙沼Biz）の運営
気仙沼まち大学運営協議会	・新たなまちづくりのスタイル確立 ・人材育成プラットフォームの構築 ・ミーティングスペースなどの場の管理＆運営事業

魚町岸壁（漁港区域内）
管理主体：宮城県
・背後の防潮堤（フラップゲート・通路含む）および道路（気仙沼港線）も県管理

臨港道路（岸壁～神明崎）（漁港区域内）
管理主体：宮城県
・漁港施設内の通路の扱い

1号街区公園
管理主体：気仙沼市
・隣接地は民間敷地

3号街区公園
管理主体：気仙沼市

ムカエル前広場（漁港区域内）
管理主体：宮城県
・占用時は県水産漁港部の許可が必要

ポンツーン
（漁港区域内、宮城県管理）

臨港道路
（漁港区域内、宮城県管理）

海の道（漁港区域内）
管理主体：宮城県
・道路区域には入っていない

（13）気仙沼が世界に誇る価値

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

02. まちなかエリアの基本情報

（1）「気仙沼まちなかエリア」の範囲設定
（2）エリアの成り立ちと歩んできた歴史
（3）これまでのまちづくり
（4）エリアの今とこれから
（5）エリアの産業構造
（6）エリア内の主要施設
（7）主要動線と交通状況
（8）土地・建物の利用状況
（9）災害公営住宅
（10）観光客動態と観光施策の状況
（11）ビジネス支援と移住促進
（12）エリアの活動主体と公共空間の管理主体
（13）気仙沼が世界に誇る価値

03. エリア関係者の声の抽出

04. まちなかエリアのめざす将来像

05. ビジョン実現に向けた具体的方策

06. 今後の推進体制と事業スケジュール

○「森は海の恋人」

気仙沼湾は豊かな山の養分が海に流れ込む良湾で、古くから近海、遠洋漁業の基地、養殖漁場として有名。地元の漁師たちは養殖技術を磨くと同時に、海産物が育つ自然環境の保全にも努めてきた。その活動を牽引してきたのが、NPO法人「森は海の恋人」の理事長・畠山重篤さん。気仙沼市唐桑町の舞根湾でカキを育てる重篤さんは1989年、海を守るために植樹活動を開始。震災後は、舞根地区は県内で唯一、防潮堤無しで復旧工事を実施し、豊かな湿地環境の保全活動を続けている。

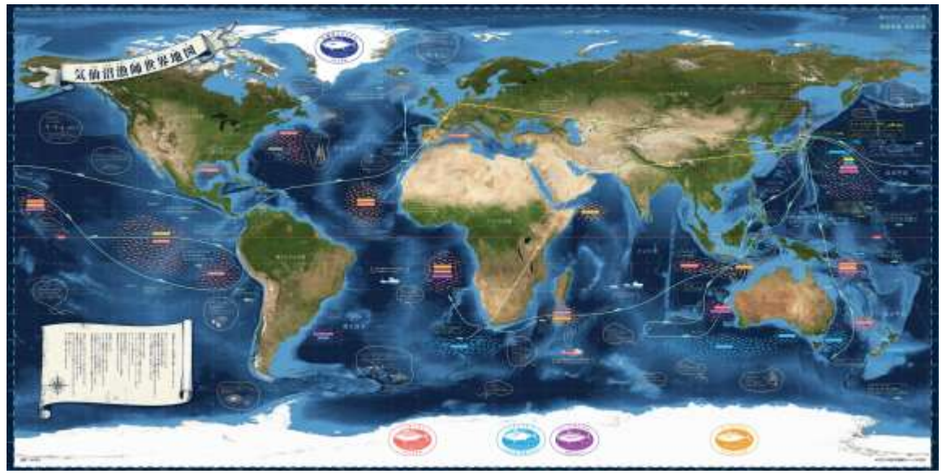
畠山重篤さん
特定非営利活動（NPO）法人「森は海の恋人」理事長

漁師、エッセイスト
京都大学フィールド科学教育センター社会連携教授

【経　歴】
1962年　高校卒業後、牡蠣、帆立の養殖に従事
1989年　「牡蠣の森を慕う会」結成
2004年　京都大学フィールド科学教育センター社会連携教授（～現在）
2009年　NPO法人「森は海の恋人」設立。代表就任（～現在）
2012年　国連 フォレスト・ヒーローズ（森の英雄）受賞

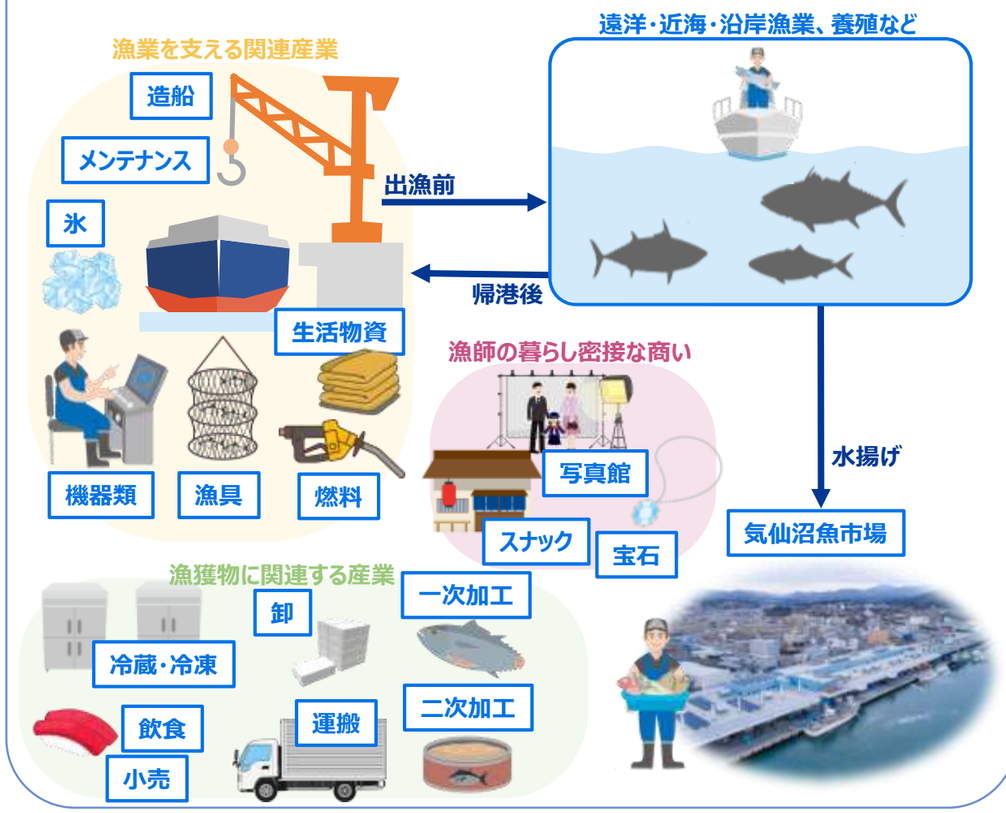
昭和40年～50代にかけて気仙沼湾の環境が悪化し、赤潮プランクトンを吸った牡蠣の身は赤くなり、廃棄処分されるようになった。牡蠣の漁場は川が海に注ぐ汽水域に形成されており、川が運ぶ森の養分が牡蠣の餌となる植物プランクトンを育んでいる。
そこで、「森の恵みが川を通じて運ばれ、海と生き物を豊かにする。森と川と海は一つだ。」と確信していた重篤さんは、集まった仲間と「牡蠣の森を慕う会」を設立。平成元年から植樹祭が続けられ、これまで約３万本の落葉広葉樹の植樹が行われた。
「森は海の恋人」の活動は小・中学校の教科書にも取り上げられ、全国に知られるようになる。さらに「森は海の恋人」の理念に通じる「森里海連環学」での調査よって、森と海の関係がいかに重要かについても証明された。
こうした動きによって、「森は海の恋人」活動も科学的に認められ、世界中から多くの人が舞根湾へ視察に訪れるようになった。平成21年5月11日、次世代での再出発と新たな展開を意図して特定非営利活動法人（NPO）が設立された。こうした精神や活動は、近年の「SDGs（Sustainable Development Goals；持続可能な開発目標）」にも通じる。

○世界と繋がる「気仙沼港」



日本一発達した水産クラスターを形成している港

遠洋・近海・沿岸漁業や無給餌養殖、漁具や氷、燃料、造船、船体メンテナンスなど漁業を支える関連産業群、付加価値を高める水産加工業などがすべて集約されており、日本における海の総合拠点として機能している。



エリア関係者の「声」の抽出

エリア関係者の「声」の抽出

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

02. まちなかエリアの基本情報

03. エリア関係者の声の抽出

04. まちなかエリアのめざす将来像

05. ビジョン実現に向けた具体的方策

06. 今後の推進体制と事業スケジュール

○エリア関係者の声

Strength 強み

風待ち地区の独特な景観をしっかり後世に残していきたい。

内湾はまるでリアル東京ディズニーシーだ！湾を取り囲む一体の景色は気仙沼の財産。

何といっても「食」。

気仙沼港は漁師にとっては理想的な港。魚は高単価で買ってくれるし、**漁業を支える関連産業が充実している**ため、**気仙沼にいけばなんでも揃う**！

気仙沼の人たちは**外から来た人を拒まない気質**がある。漁で世界中と繋がっていたのもあるし、震災で色んな地域の人たちに助けられたから。

実は**著名人とのつながりが多い**。震災後に何度も気仙沼を訪れてくれているアーティストも多数いる。

気仙沼は津波や大火で何度も被害にあったが、その度に立ち上がってきた。**気仙沼の人は、新しいものや困難に果敢に挑戦する「進取の精神」をもっている。**

震災後のボランティアで気仙沼に来て、そのまま今も住んでくれている人が多い！**気仙沼の「人」の良さ**を気に入って移住するひとが多いみたい。

海運では交通の要所！

全国で初めて**スローフード**の都市宣言をした。

Weakness 弱み

地代や家賃が高いので、若い人が新しく**お店をもったりチャレンジしたりするのは、けっこうハードルが高い**！

土日は駐車場がぜんぜん足りていない！

飽き性な人が多い気がする。

気仙沼には**高価格帯のホテルがない！**

気仙沼に観光で来る人のほとんどが三陸をぐるっと回るルートの途中で立ち寄るパターンなので、**長い時間滞在してもらえていない。**

観光客の方から「**朝早く行っても観光する場所が少ない**」というお声をいただいた…！

気仙沼は体験型の観光を楽しめるスポットが少ない。「食」も魅力だが、観光の幅を広げたい！

内湾の海近辺のエリアは観光スポットとして確立されているが、八日町や三日町も含めて**エリア内をどう繋げていくか**が課題。

公園がいくつも整備されているが、立地が悪くて**空き地同然のような空間になっている**ところも多いように思う…

昔は内湾で遊んだりもしたけど、いまは**漁船が停まるだけの場所になっていてもったいない。**

気仙沼の小さなエリアのなかでライバル**意識をもっている部分がある。エリアとして一体で連携して施策を進めていくことが重要**なのではないかと思う。

エリア内の事業者同士のつながりが弱いのでは。

Opportunity 機会

「**おかえりモネ**」の効果で気仙沼の知名度があがって**観光客が増えている**！

市役所の裏にBRTの新駅ができる。エリアの入り口になったら良いんだけど…。

気仙沼大島大橋が開通して、大島に車で気軽にいけるようになった！

三陸自動車道の開通で気仙沼への**車でのアクセスの便が格段によくなった**！

震災後の**復興まちづくりに関する一連のハード整備がようやく目途がついてきていて**、今後のまちづくりを考えるには良い時期だと思う。

使われていない空き家や多いから、これを活用して**リノベーション**とかができれば、**資金のない若手でも使いこなせる**のでは。

コロナ禍で**マイクロツーリズム**が主流になっており、宿泊客も宮城県内のお客さんが多い印象だ。

神明崎の手前に**公園が整備される**予定。子供の遊び場ににになってほしい。**隣接地の民地も一体で活用出来たら**良い。

Threat 脅威

市役所の移転で、**駐車場やランチの需要が急激に減る**のではないか…

震災前はもう少し港町のごちゃっとした雰囲気があったけど、区画整理で整然としてしまい、**街としての深みがなくなったように感じる。**

災害公営住宅がこのままだとどんどん**人が減って廃墟化するのでは**ないか…。

復興関連で気仙沼に来る人は年々減少している。

震災を契機に**街の中心地が内湾エリアから内陸部に移ってしまった。**

漁業の担い手が減っている。

エリアから外に転出する人が多く、子供の数もどんどん減っている。昔は小学校も児童がたくさんいたが、いまは統合してもクラスが減っている状況だ…。

震災後に区画整理事業が実施されたエリアとそれ以外のエリアで、**整備状況に差が出ている。**

給与水準が低く、目標を立てたりスキルアップをしやすい環境とはいえないのではないか。

内湾の土地区画整理事業の換地後の土地も**低未利用地が多い。**まだ様子を見ている人が多いのではないか。

（１）めざすエリアの方向性

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって
02. まちなかエリアの基本情報
03. エリア関係者の声の抽出
04. まちなかエリアのめざす将来像
（１）めざすエリアの方向性
（２）理想シーンの妄想 ～まちなか妄想ガイドブック～
05. ビジョン実現に向けた具体的方策
06. 今後の推進体制と事業スケジュール

全体スローガン

みんなの母港大作戦！ ～ 復旧・復興から・沸騰へ ～

エリアとしてめざす姿

- 地元の人だけでなく観光客も、立ち寄りたくなるようなエリアにしたい！
- チャレンジする人や熱意のある人の熱気で、エリア全体が「ワクワク」するエリアにしたい！
- 「人」「文化」「経済」が活発に融合し、ふつふつと新たな価値が「沸き立つ」ようなエリアにしたい！

めざす姿を実現するための指針

「外貨を稼ぐエリア」として、エリア外の人が訪れ滞在したくなるような、事業や投資を生み出す環境をつくる

海

誰もが楽しめる内湾

キーワード

- 水上アクティビティ
- 「海」のある風景
- 漁業と観光の連動

食

「おいしい」を「感じられる」まち

キーワード

- 「五感」で楽しむ「食」
- 賑わいのある「食」空間
- 「食べる」を考える

回遊

ブラブラしたくなるコンテンツと居場所

キーワード

- 滞在したくなる空間づくり
- 魅力ある目的地
- モビリティと回遊ルート

働く

エリア連携で実現する高質なおもてなし

キーワード

- エリア内事業者間の連携
- 付加価値の追求
- 新たな担い手の誘致

歴史 未来

港町文化の継承と新たな生き方への挑戦

キーワード

- 次世代への引継ぎ
- 文化の融合・多様性
- 進取の精神

ビジョンの実現に向けた13のプロジェクト

（１）めざすエリアの方向性

まちなかエリア
のめざす将来像

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

02. まちなかエリアの基本情報

03. エリア関係者の声の抽出

04. まちなかエリアのめざす将来像

（１）めざすエリアの方向性

（２）理想シーンの妄想
～まちなか妄想ガイドブック～

05. ビジョン実現に向けた具体的方策

06. 今後の推進体制と事業スケジュール

○エリアビジョンの指針の背景

「外貨を稼ぐエリア」をめざす背景

全産業のうち、域外の人々に訪ねて来てもらい、その来街者を顧客とする産業を「インバウンド型産業」、域内の住民を主な顧客とする産業を「ローカル型産業」、域外の住民にプロダクトやサービスを提供していく産業を「アウトバウンド型産業」とした場合に、それぞれの産業で分類した場合、右図のようになる。

この分類に基づいて、気仙沼まちなかエリアとしてどの分類を成長路線の軸に据えるべきかを考えるとき、

・エリア内の将来人口は減少することが予測されている（p14）

ということから、域内人口の動向によって産業動向が定まる「ローカル型産業」ではなく、「外貨を稼ぐ」ことをエリアの指針として据えるべきだということになる。また、

・これまで水産業や水産関連産業（アウトバウンド型産業）を中心に稼ぐエリアであった一方で、関連産業も漁業の動向に付随する。（p15）

・震災後には、観光戦略※1が策定され、水産業に並ぶ新たな基幹産業としての観光産業の振興をめざしてソフト・ハードの両面から基盤整備を進めてきたこと、とりわけ内湾地区においては「観光客のニーズに対応した商業施設等を整備※2」してきたこと（p13）

ということから、今後は、水産業に並ぶ新たな収益の柱として、エリア外の人々に来てもらってお金を使ってもらう「インバウンド型産業」を軸に稼ぐエリアをめざすビジョンとして策定した。

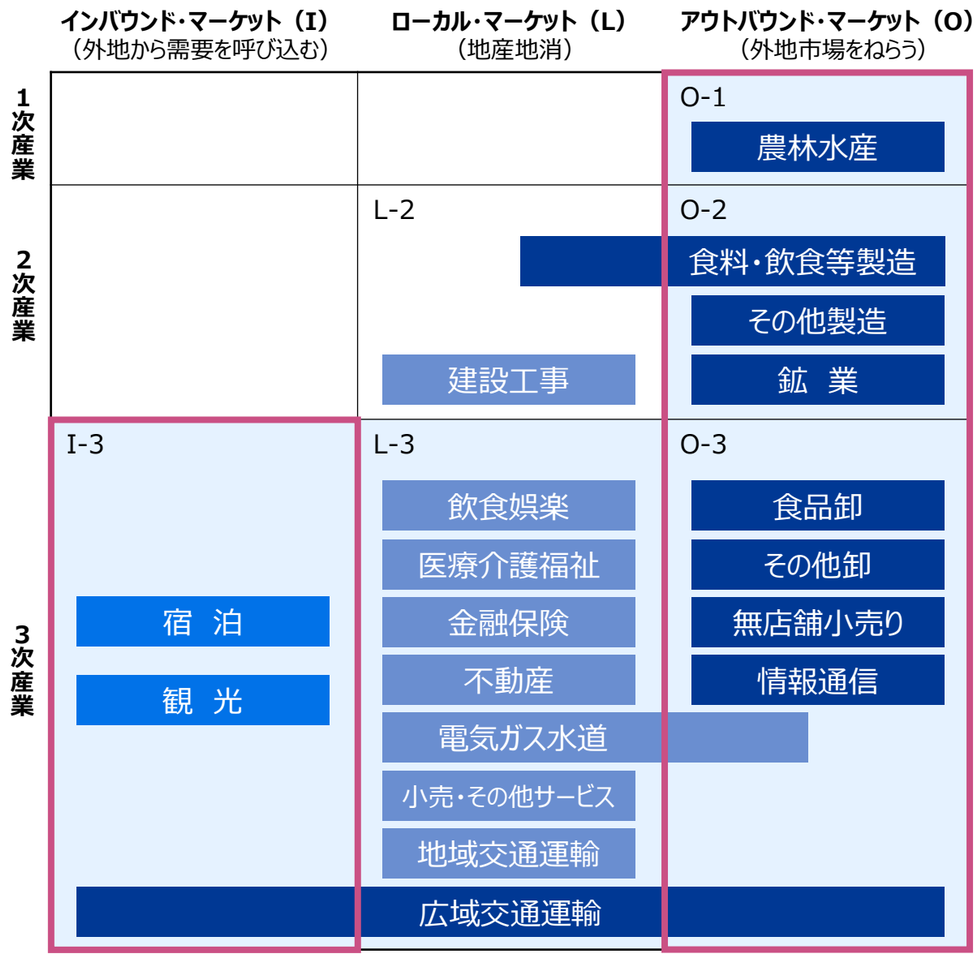
この指針のもと、今後まちなかエリアプラットフォームとしては、

①「インバウンド型産業」である宿泊や観光を伸ばすための環境を創出すること
②「ローカル型産業」の「インバウンド型産業」化・「アウトバウンド型産業」化を促進すること
③「インバウンド型産業」と「アウトバウンド型産業」の連携を強化すること

などを各プロジェクトを通じて実現し、**エリアとしての質と収益性を向上させる**ことを目標とする。
また、「人数」ではなく「質」や「金額」を重視し、シーズナリティの平準化や従業員満足度の向上も図る。

※１　観光に関する戦略的方策（気仙沼市観光戦略会議）
※２　『内湾地区 まちなか再生計画』（2018年9月）より

マーケット種類別の産業分類表（ILO産業分類）



（参考図書：『地域金融のあしたの探り方』大庫直樹、一般社団法人金融財政事情研究会、2016）

○プロジェクトの推進で大事にする考え方

POINT１「点」ではなく「面」の視点

・それぞれがバラバラにプロジェクトを進めるのではなく、エリアとしての面的な一体性を大事にする。

・土地境界、官民区分、町丁境にとらわれず連続性のある空間や機能をもたせられるように工夫する。

POINT２周囲への「波及」を重視

・個々の取り組みの価値がエリア全体に波及していき、エリア価値があがることで、それが新たな取り組みを誘発するという好循環を生み出していく。

POINT３実験による検証

・社会実験を実施し、諸々の制約やハードルを一時的に取り除いて実現したい風景をつくってみることで、事業性や運営体制、周囲への影響などを検証しながらプロジェクトを進めていく。

POINT４柔軟性のあるビジョン

・最初から計画を作りこみすぎず、さまざまな状況に応じて適宜方針や内容を擦り合わせ、調整する。

・「関わりしろ」「伸びしろ」などの「余白」を大事にする。

まちなかエリア
のめざす将来像

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

02. まちなかエリアの基本情報

03. エリア関係者の声の出

04. まちなかエリアのめざす将来像

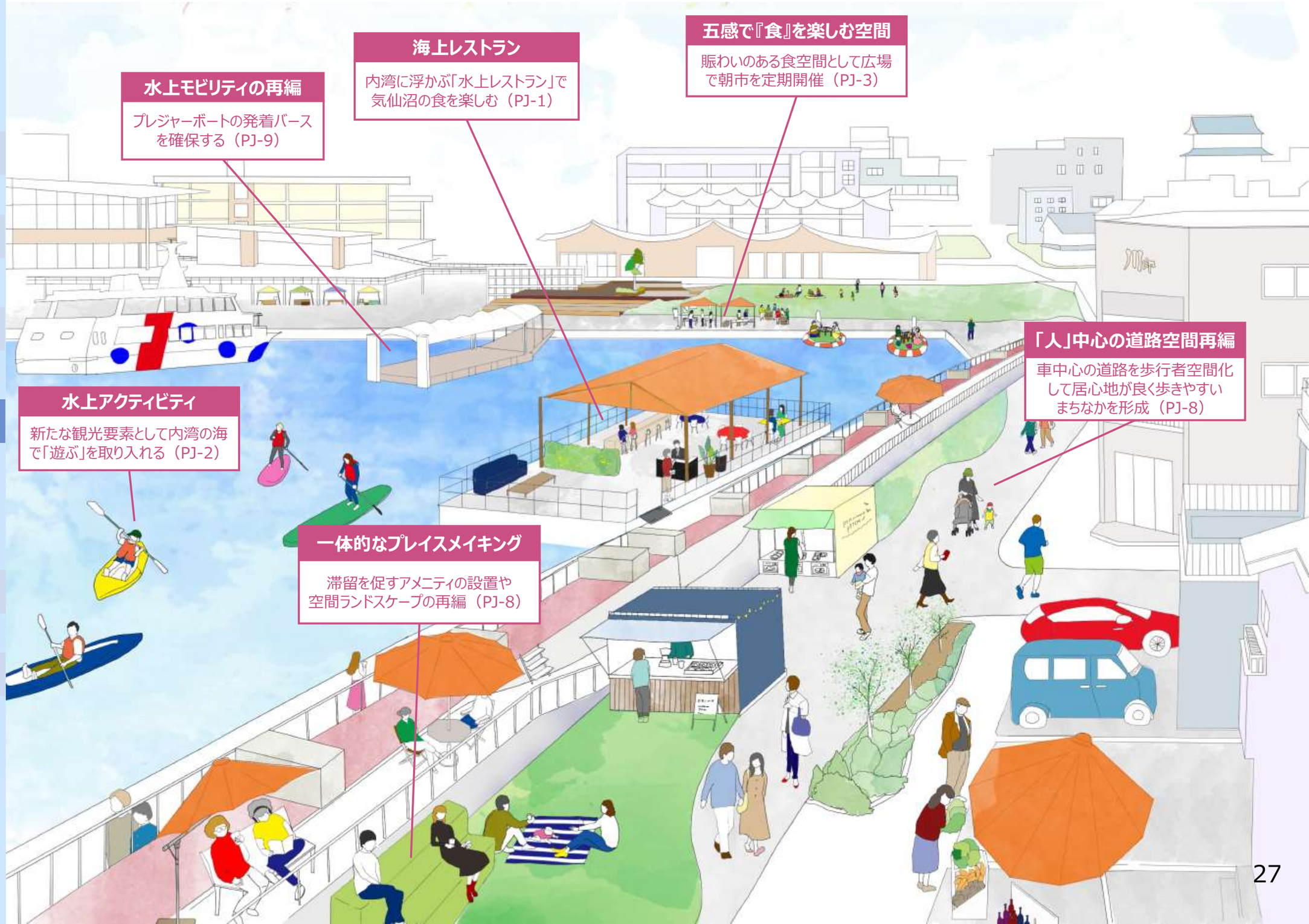
（１）めざすエリアの方向性

（２）理想シーンの妄想
～まちなか妄想ガイドブック～

05. ビジョン実現に向けた具体的方策

06. 今後の推進体制と事業スケジュール

内湾周辺エリア



まちなかエリア
のめざす将来像

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

02. まちなかエリアの基本情報

03. エリア関係者の声の抽出

04. まちなかエリアのめざす将来像

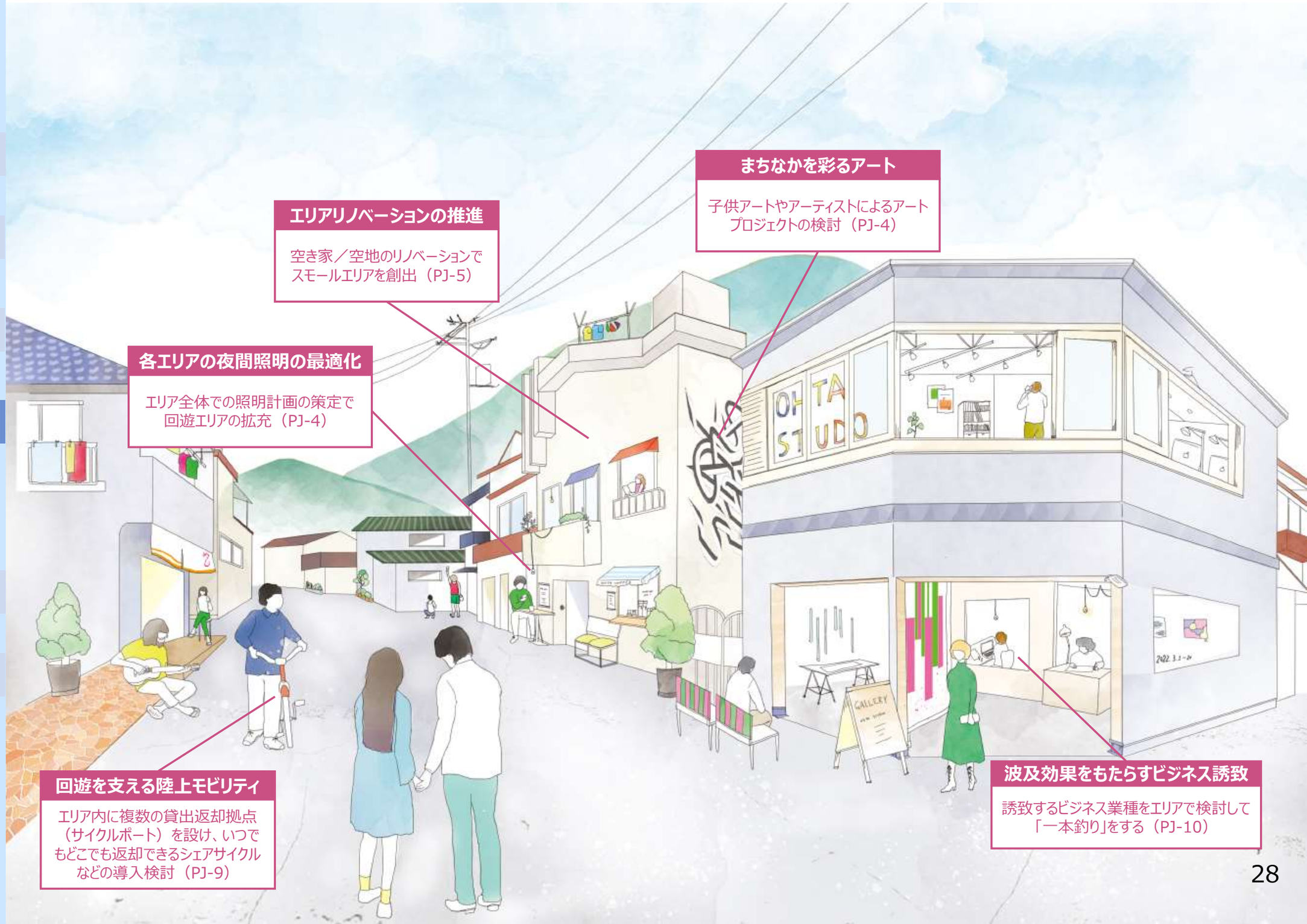
（１）めざすエリアの方向性

（２）理想シーンの妄想
～まちなか妄想ガイドブック～

05. ビジョン実現に向けた具体的方策

06. 今後の推進体制と事業スケジュール

太田・陣山エリア



まちなかエリア
のめざす将来像

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

02. まちなかエリアの基本情報

03. エリア関係者の声の抽出

04. まちなかエリアのめざす将来像

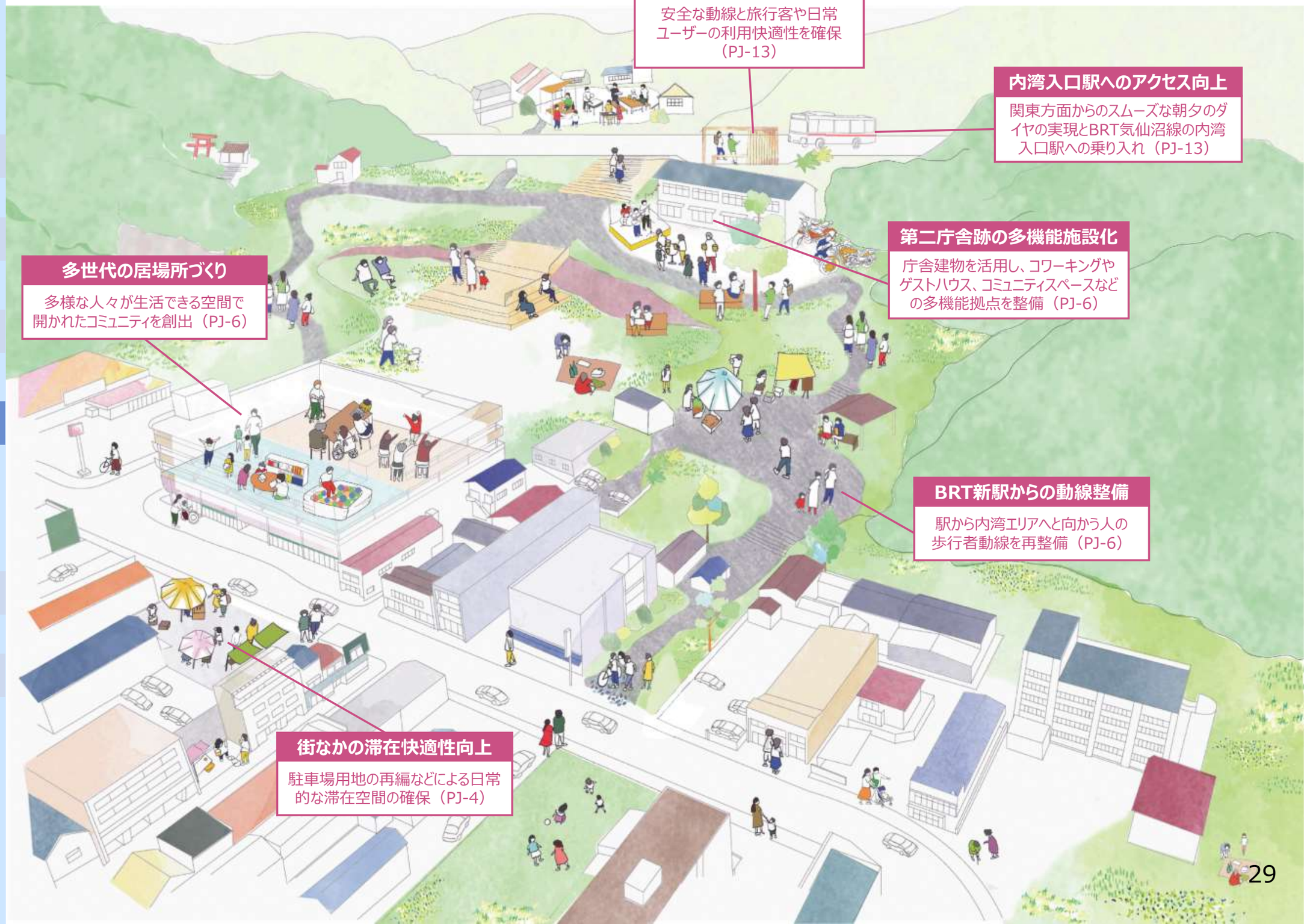
（１）めざすエリアの方向性

（２）理想シーンの妄想
～まちなか妄想ガイドブック～

05. ビジョン実現に向けた具体的方策

06. 今後の推進体制と事業スケジュール

市役所周辺＆八日町エリア



（1）エリアビジョン実現に向けたアクションプランについて

ビジョン実現に向けた具体的方策

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって
02. まちなかエリアの基本情報
03. エリア関係者の声の出し
04. まちなかエリアのめざす将来像
05. ビジョン実現に向けた具体的方策
（1）エリアビジョン実現に向けたアクションプランについて
（2）リーディングプロジェクトの提案
06. 今後の推進体制と事業スケジュール

○13のプロジェクトの位置づけ

・エリアビジョンとして掲げる「スローガン」と「エリアとしてめざす姿」があり、それを実現するための５つのテーマごとの基本方針として設定し、それぞれの方針に紐づくかたちで具体的なアクションプランとしての13のプロジェクトがある。

エリアビジョン

みんなの母港大作戦！
～復旧・復興から・沸騰へ～

めざす姿

５つのテーマとそれぞれの基本方針

- 海：誰もが楽しめる内湾
- 食：「おいしい」を「感じられる」まち
- 回遊：ブラブラしたくなるコンテンツと居場所
- 働く：エリア連携で実現する高質なおもてなし
- 歴史未来：港町文化の継承と新たな生き方への挑戦

ビジョン実現に向けた13のプロジェクト

- PJ-1 海上レストラン構想
- PJ-2 海・公園・民地を一体活用したアクティビティ施設
- PJ-3 五感で『食』を楽しめる空間の創出
- PJ-4 街なかの滞在快適性の向上と景観形成
- PJ-5 空き家／空地の活用によるエリアリノベーション計画
- PJ-6 市役所跡地を活用した多世代の居場所づくり
- PJ-7 街の記憶を次世代に引き継ぐためのストリート命名
- PJ-8 「人」中心の回遊動線を構築するための交通再編
- PJ-9 水上／陸上のモビリティの再編
- PJ-10 エリアに波及効果をもたらすビジネス誘致
- PJ-11 全員コンシェルジュ化計画　～気仙沼版働き方改革～
- PJ-12 高質な観光コンテンツの開発
- PJ-13 エリアの玄関口としてのBRT

（2）リーディングプロジェクトの提案

ビジョン実現に向けた具体的方策

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

02. まちなかエリアの基本情報

03. エリア関係者の声の出し

04. まちなかエリアのめざす将来像

05. ビジョン実現に向けた具体的方策

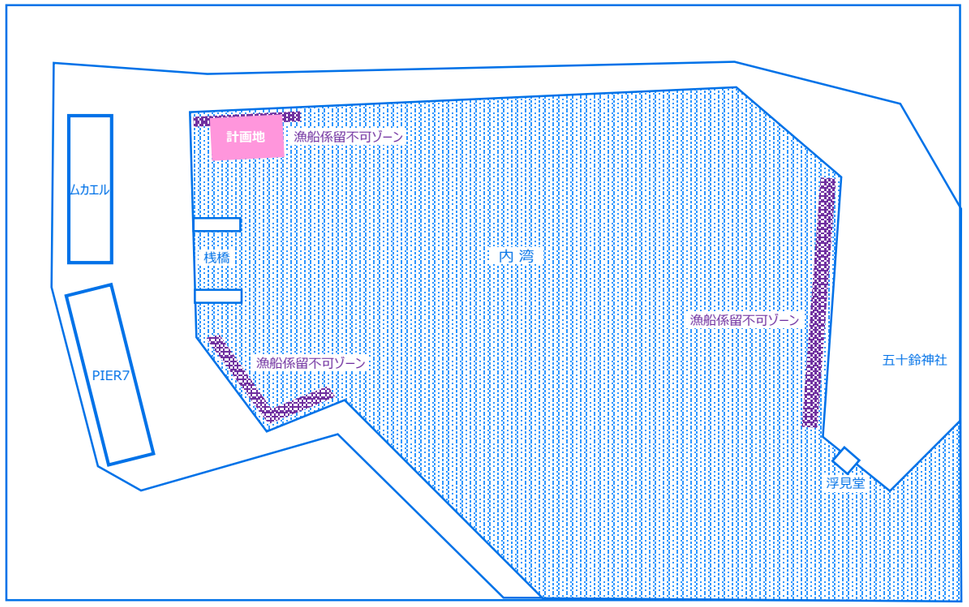
（1）エリアビジョン実現に向けたアクションプランについて

（2）リーディングプロジェクトの提案

06. 今後の推進体制と事業スケジュール

PJ-1 海上レストラン構想

↑ドイツのドルトムントにある船上カフェ・レストラン「Herr Walter」



1 プロジェクト概要

・気仙沼まちなかエリアの新たなシンボル（象徴）として、台船を係留させた内湾に浮かぶ「水上レストラン」を開発する。

・内湾の水面に、「漁船の係留地」としての機能だけでなく、「食を楽しめる場」「遊べる場」としての機能をもたらし、水辺活用の核施設にする。

・ムカエルやPIER7、クルーズの発着場（桟橋）方面から、対岸の公園や神明崎方面に人の流れを生み出すための仕掛けとして位置付ける。

・観光客や地元ユーザーで賑わう食空間をめざす。

2 生みだしたいシーン

・朝、内湾の海を眺めながら台船でモーニングを食べる観光客。

・子供たちが水上アクティビティを楽しんでいる様子を見守りつつ、親は台船レストランで談笑。

・観光客と地元客が台船のうえで出会い意気投合する。

・夜はライトアップされた内湾周辺の景色を眺めながらビールで乾杯。

3 事業主体のイメージ

・民間事業者が台船を設置。

・台船上に飲食施設を整備して、自ら営業、又はサブリースする。

4 実現に向けた課題

（1）台船の係留の許認可（漁港占用）

・係留位置の調整（まずは漁船の係留不可ゾーンでの調整をめざす）

・許認可の方法（占用／係留許可）

（2）利害関係者との調整

・気仙沼漁港利用協議会との調整（係留位置、航路など）

・桟橋を利用する主体との調整（大島汽船など）

・地域のイベント、近隣施設との調整（みなと祭り・クリスマスツリーなど）

（3）区画のリーシング

・企画コンセプトに沿う区画の運営事業者の発掘

（4）建築上の課題

・上下水道、電気などのインフラの確保

・建築物の取扱い

（2）リーディングプロジェクトの提案

ビジョン実現に向けた具体的方策

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

02. まちなかエリアの基本情報

03. エリア関係者の声の出し

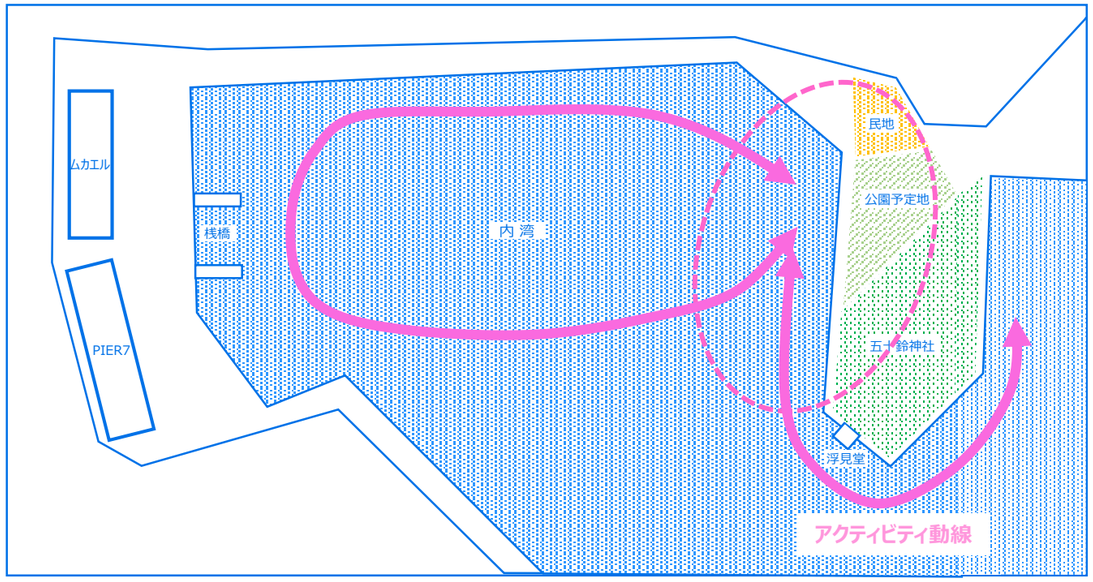
04. まちなかエリアのめざす将来像

05. ビジョン実現に向けた具体的方策

（1）エリアビジョン実現に向けたアクションプランについて
（2）リーディングプロジェクトの提案

06. 今後の推進体制と事業スケジュール

PJ-2 海・公園・民地を一体活用したアクティビティ施設



↑河川と高架下の一体利活用による水上アクティビティ拠点の例。Tinys Yokohama Hinodecho（横浜）。画像手前が大岡川でSUP等のウォータースポーツを楽しめる。

↑高架下にある拠点。コインシャワーや更衣室、ロッカーを完備。四季や天候を問わず水上アクティビティを楽しむことができる。

1 プロジェクト概要

・私有地、公園、岸壁、海…と、連続的に接続している土地を、一体的な空間・機能として活用し、子どもの遊び場＆水上アクティビティの拠点にする。

・気仙沼まちなかエリアの従来の観光が「食べる」「観る」などのアクティビティがメインであったのに対し、海を活用して新たに「遊ぶ」の要素を取り入れることで、観光の幅を広げる。

・照明やランドスケープについては、管理主体ごとに敷地ごとに完結させるのではなく、エリア一体で面的に空間をデザインする。

2 生みだしたいシーン

・賑やかに水上ピクニックを楽しむ子供たちに、浮見堂から手を振って呼びかけるパパ。

・水上ピクニックで海の上にぷかぷか浮かびながらのんびりとコーヒータイム。

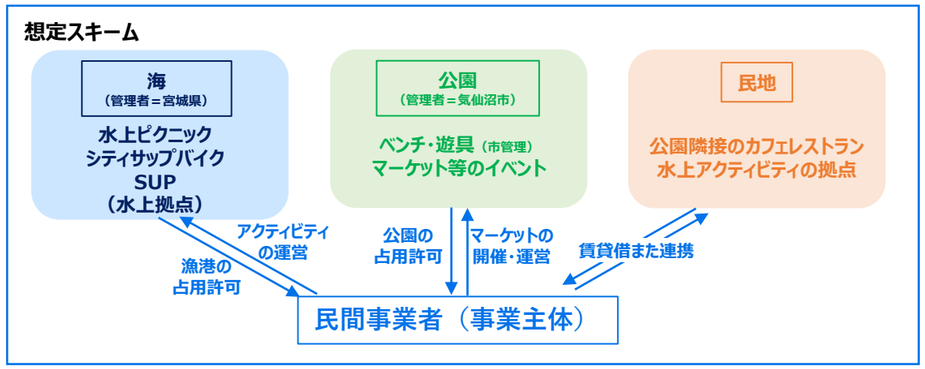
・公園で子どもを遊ばせつつ、ママは隣接するカフェで本を読む。

・海辺でSUPを楽しみ終えてシャワーを浴びたら、そのままカフェでスープを飲んで温まる。

・神明崎が観光客と家族連れで賑わう。

〇水辺と陸地の一体活用のイメージ（パリ・プラージュ）
セーヌ川沿いに人工砂浜をつくり川、道路、公園を一体で活用するイベント。パリでは毎年夏に開催される。子供用から大人用までさまざまな水辺のアクティビティを楽しめる。

3 事業主体のイメージ



4 実現に向けた課題

（1）水面利用に関する許認可（漁港占用）
・水上アクティビティの実施範囲の調整。
・岸壁から海面に降りるための桟橋等の設備の設置と許認可。

（2）利害関係者との利用調整
・気仙沼漁港利用協議会との調整（水上アクティビティの実施範囲、航路など）
・公園隣接地の私有地の土地所有者との調整（コンセプトの共有・維持管理役割など）
・日常と悪天候時（漁船退避時）の漁船と水上アクティビティとの運用ルールの調整
・安全航行ルールの制定
・安全管理体制の整備

ビジョン実現に向けた具体的方策

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

02. まちなかエリアの基本情報

03. エリア関係者の声の抽出

04. まちなかエリアのめざす将来像

05. ビジョン実現に向けた具体的方策

（１）エリアビジョン実現に向けたアクションプランについて

（２）リーディングプロジェクトの提案

06. 今後の推進体制と事業スケジュール

PJ-3 五感で『食』を楽しめる空間の創出

1 プロジェクト概要

・海の味覚を中心に魅力的なグルメが豊富な気仙沼で、ただ「食べる」だけでなく、全身で「食」を楽しみ、感じ、考える。「食」を、その空間、関係、時間ごと体験し、「美味しい」を「感じられる」エリアにするために、いくつかのプロジェクトを推進する。

〈プロジェクトの例〉

〇賑わいのある「食」空間としてエリア内で「朝市」を定期開催

〇日常的な風景として浜焼きなどの五感で食を楽しめる空間の創出

〇食材や調理の背景にあるストーリーごと味わうことのできるローカルレストラン／オーベルジュ等の開業。（※PJ-12とも関連）
　⇒スローフードの取り組みを深度化し、観光しながら「食」を考えられるプログラムに。

↑プラットフォーム「食」チームで2021年10月に実施した「浜焼き」企画の様子。アンケート調査の結果、こうしたイベントの定常的な実施を望む声が多かった。

↑「浜焼き」企画当日の様子。広場前の大階段には、思い思いに「食」を楽しむ人の姿が多く見られた。

2 生みだしたいシーン

・「おいしい」顔をした人と沢山出会える空間。

・朝市で浜焼きをしている煙と匂いに惹かれて宿泊先のホテルから朝ごはんを食べにくる観光客。

・ローカルレストランでシェフに「食」のストーリーを語ってもらいながら舌鼓を打つ。

・風景も含めた環境ごと「食」を楽しめる空間。（見晴らしの良いレストランで海も眺めながら魚料理を楽しむなど）

3 事業主体のイメージ

①賑わいのある「食」空間としての「朝市」
　⇒　定期開催が可能な地元の担い手。気仙沼地域開発㈱など。

②ローカルレストラン／オーベルジュ等
・地元事業者もしくはエリア外のシェフを気仙沼に誘致して食を新たに開業してもらうなど。

4 実現に向けた課題

（１）エリア内での既存の取り組みの整理とすみ分け

〇賑わいのある「食」空間に関連する既存の取り組み
　⇒スローフェス、気仙沼みなとでマルシェ、産業まつり、気仙沼バルなど

〇食材や調理の背景にあるストーリーを体験できる既存の取り組み
　⇒気仙沼ブリュワーズテーブルなど

ビジョン実現に向けた具体的方策

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

02. まちなかエリアの基本情報

03. エリア関係者の声の出

04. まちなかエリアのめざす将来像

05. ビジョン実現に向けた具体的方策

（１）エリアビジョン実現に向けたアクションプランについて

（２）リーディングプロジェクトの提案

06. 今後の推進体制と事業スケジュール

PJ-4 街なかの滞在快適性の向上と景観形成

1 プロジェクト概要

概要①：ムカエル・PIER７前の広場空間から岸壁・神明崎にかけての一体的なプレイスメイキング
⇒ 居心地が良く滞留を生む空間づくり、滞留を促すアメニティの設置、ランドスケープ検討など
⇒ 広場空間の管理＆活用体制の最適化（占用手続きの合理化、イベント等受入体制など）

概要②：区画整理事業の区域外のエリアの滞在快適性・回遊性の向上に向けた整備
⇒ 照明や景観形成、歩道空間の整備、民地と公共空間の一体的活用の推進など

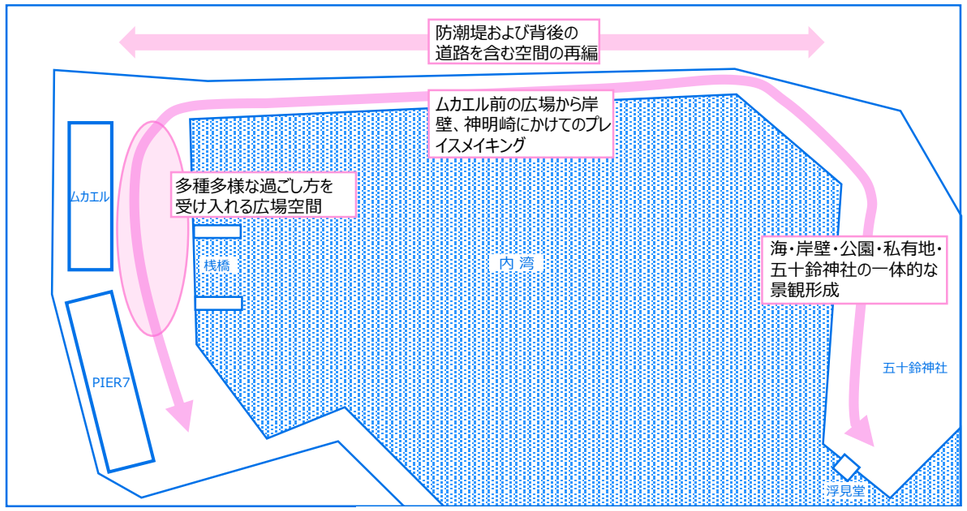
概要③：内湾周辺の登録文化財の建築群のストーリー伝達
⇒ 風待ち研究会の活動、オーナーの思い

概要④：各エリアの夜間照明の最適化（八日町・南町・太田・陣山など）
⇒ 夜間の回遊性を考慮したエリア全体での夜間照明計画（内湾の高質なデザインをエリア拡大）

概要⑤：休日の駐車場の確保
⇒ 既存の駐車場敷地の活用、1箇所集約ではなく目的地周辺に停めて歩く“PARK&WALK”の考え方の実践など。

概要⑥：まちなかを彩るアートの有効活用
⇒ 子どもアートや、アーティストによるアートプロジェクト（壁画やオブジェのまちなかへの設置、空き家を活用したイベントなど）

概要⑦：歩行者・自転車の回遊ルートの設定と案内性の向上
⇒ 各エリア間をつなぐ回遊ルートの設定と案内サイン等の工夫



↑内湾周辺の連続性のある空間形成のイメージ

○駐車場の再編による日常的な滞留空間の確保

八日町・三日町の短冊状に区画されている駐車場用地について、駐車場配置の全体最適を行うとともに、来街者のための多用途な空間を創出し、駐車場からまちなかを歩いて内湾地区に行けるような活用をめざす。

“PARK&WALK” の土地活用のイメージ →

2 生みだしたいシーン

・ムカエル前の大階段／芝生のスペースでギターで弾き語りをする若者
・地元の高校生が広場空間で吹奏楽のコンサート
・広場に日常的に設置してある椅子に腰かけてテイクアウトしたコーヒーを飲みながら談笑
・観光客で賑わう休日でも、エリア内にある駐車スペースにスムーズに駐車して歩いて目的地に移動
・高校の美術部のメンバーでウォールペイントを描画

○居心地を良くするストリートファニチャーと多種多様なアクティビティを受け入れる広場空間のイメージ（大阪市）

↑大阪・中ノ島の道路空間を再編し、公園として歩行者空間化。普段通過のみの空間がストリートファニチャーなどの滞留の仕掛けで風景が変わる。

↑「食べる」「飲む」「会話する」「寝る」「演奏する」「読む」など多様な過ごし方を受容する広場空間。パラソル設置、ラグのレンタルなど工夫。

3 事業主体のイメージ

エリアマネジメント組織（民）

・広場等の日常的な維持管理、活用
・居心地を良くするアメニティの設置
・空間を利用したい人がスムーズに利用できる窓口

官民でエリアビジョンを策定（めざすゴールイメージの共有）

気仙沼市（官）

・必要に応じたハード整備
・民間事業採算にのらない部分の負担
・関係者調整（組織横断的な課題解決）

4 実現に向けた課題

（１）官民の適切な役割分担
・補助金に依存あるいは民間に丸投げしたエリアマネジメント体制ではなく、持続可能な構造で、官民がWin-Winとなる投資や維持管理のスキームの構築。

（２）広場の管理・活用のスキーム整理
・広場（＝宮城県が漁港管理者）空間を弾力的に活用するために、指定管理者制度等で民間側で柔軟に管理運営できる体制の確保。

（2）リーディングプロジェクトの提案

ビジョン実現に向けた具体的方策

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

02. まちなかエリアの基本情報

03. エリア関係者の声の出し

04. まちなかエリアのめざす将来像

05. ビジョン実現に向けた具体的方策

（1）エリアビジョン実現に向けたアクションプランについて

（2）リーディングプロジェクトの提案

06. 今後の推進体制と事業スケジュール

PJ-5 空き家／空地の活用によるエリアリノベーション計画

1 プロジェクト概要

・エリア内に空き地／空き家などの遊休資源を活用し、歩いて散策したくなる魅力的なスモールエリアを創出する。

・官民連携でリノベーションによるまちづくりを推進し、新たな事業や雇用の創出や、コミュニティの醸成など、地域経営課題の解決に繋げる。事業主体となる組織では、耐震工事や不動産仲介の機能だけでなく、エリアのプロモーションやテナントの経営コンサルタント機能なども担う。

・空き地などの低未利用地は、積極的に社会実験などを通じて活用を促進し、エリアのポテンシャルを高めて、まちの賑わい向上に繋げていく。

・災害公営住宅なども含む既存ストックの活用を推進する。

←空き家、空き地の増加が進む陣山・太田の活用状況。エリアの回遊性を確保するための歩行者動線の確保と同時に、まちなかに目的地となるスポットが点在し、多様な居場所の選択肢がある環境を作り出す。

2 生みだしたいシーン

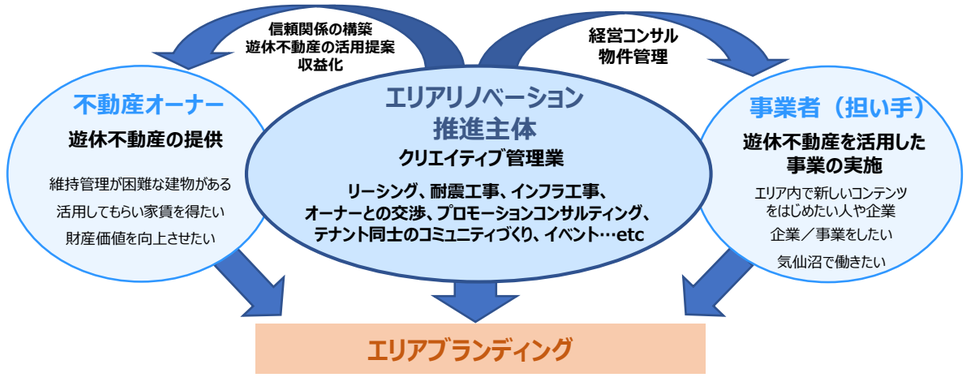
・内湾周辺に住んでいる人たちが、休日に散歩し滞在したくなるようなカフェがまちなかに点在。

・初めて気仙沼に来た観光客が、魅力的な路地裏に惹かれてついつい散策。

・道路側に開かれた店舗でテイクアウトした飲み物を片手に、復興記念公園を目指して散歩。

・斜面地のリノベーション建物のレストランで海を見ながら食事をする。

3 事業主体のイメージ



4 実現に向けた課題

（1）事業スキームの構築

・官民の適切な役割分担を決める

① オーナー協議を市の職員が担うパターン、マッチングは民間側

② オーナー協議を市から業務委託を受けた民間側で担うパターン

③ オーナー協議＆マッチングを民×民で実施するパターン

・エリアリノベーションを一気通貫で推進するための組織体制の構築

（2）エリアとしてのビジョンの共有

・遊休不動産を保有するオーナーと、その遊休不動産の担い手となる事業者との関係構築

（3）建物活用に伴う法的な諸課題

・接道のない建物の増改築や用途変更の制限

・「土砂災害特別警戒区域」（レッドゾーン）での建築制限

・管理者不明もしくは不在の建物の利活用

ビジョン実現に向けた具体的方策

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

02. まちなかエリアの基本情報

03. エリア関係者の声の抽出

04. まちなかエリアのめざす将来像

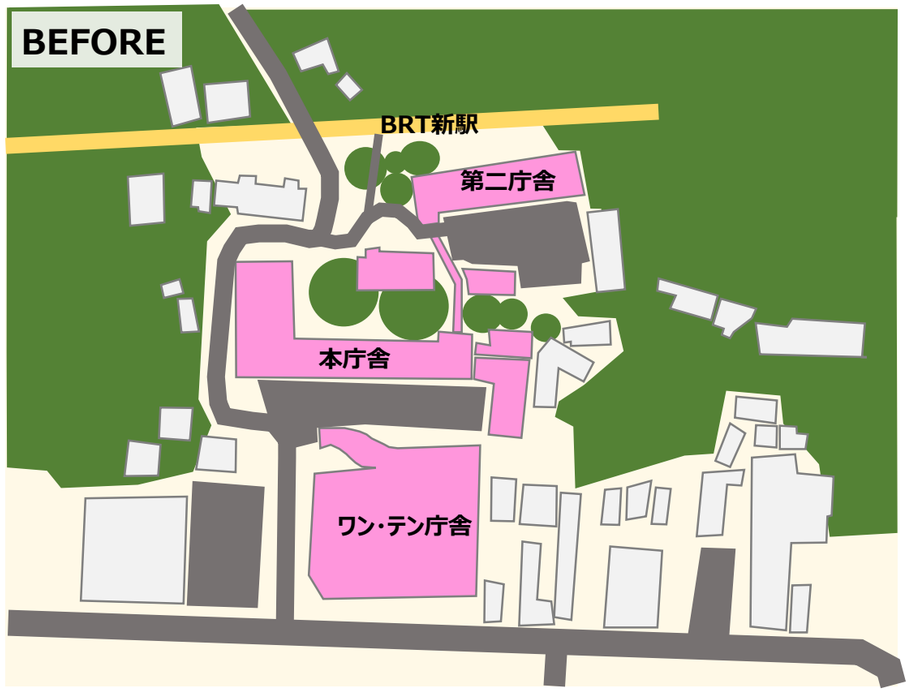
05. ビジョン実現に向けた具体的方策

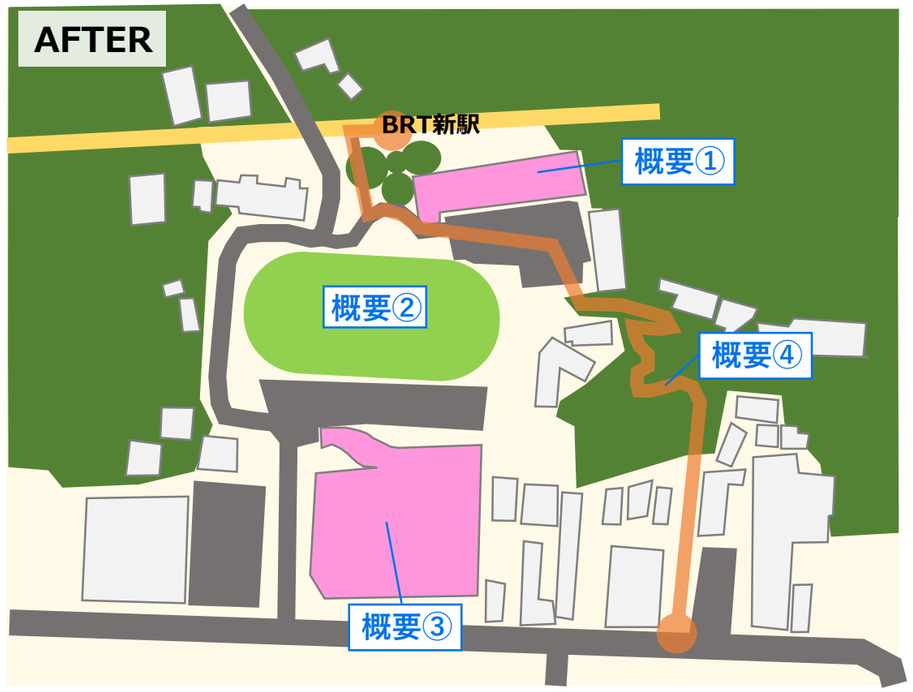
（1）エリアビジョン実現に向けたアクションプランについて

（2）リーディングプロジェクトの提案

06. 今後の推進体制と事業スケジュール

PJ-6 市役所跡地を活用した多世代の居場所づくり





1 プロジェクト概要

概要①：第二庁舎跡地をリノベーション利活用し、多機能施設に転換
・庁舎建物を活用し、コワーキング・ゲストハウスをはじめ、コミュニティスペース（サークル的活動、習い事、趣味、食育などが可能な場）やスタートアップの場（シェアショップ、チャレンジショップなど）として活用できる多機能拠点を整備する。

概要②：本庁舎跡地の広場化
・本庁舎跡地については、広場として整備し、第二庁舎側およびワン・テンビル側からアクセスしやすい空間にする。
・ハコ型の大規模投資を必要とする開発ではなく、コンテナ等による活用や、運動施設などの活用により、エリアのポテンシャルを高めていく。（将来的に民間事業者による活用もめざす）

概要③：役所機能移転後のワン・テンビルで、ノーマライゼーションエリアをつくり、多世代の多様な人々の居場所をつくる
・幼稚園児から高齢者、障がい者、不登校児童生徒など、多様な人々を受け入れる施設などをリーシングし、多種多様な世代の人々の居場所を創出する。
・関連する行政機関の機能を一部残して、相乗効果を測る方法なども検討する。
・一部スペースを地域住民等が日常的に立ち寄れる機能を導入し、開かれたコミュニティの醸成をめざす。

概要④：BRT新駅からまちなかへの動線を整備
BRT新駅から内湾エリアへと向かう人の動線として第二庁舎と本庁舎の間の動線、およびドラゴンパークへと続く道の整備を行う。（PJ-13と関連）

2 生みだしたいシーン

・各々の趣味ややりたいことを実現できる空間
・自分の「やりたい」がだれかの「楽しい」になる空間（コミュニティスペース・チャレンジの場）
・多世代が共生し、施設内外、エリア内外などの分け隔てなくコミュニティが自然発生的に醸成される。

↑福岡県の小学校の廃校を活用したインキュベーション多機能施設。カフェやコワーキングから工房、アートギャラリー、イベントスペースまで多くの機能を担っていた。
画像：Fukuoka Growth Nextホームページ（https://growth-next.com/）

↑神戸にある多世代共生施設「はっぴーの家ろっけん」。福祉施設の枠を超えて、地域のコミュニティ拠点として機能。地域の子供たちや住民など多様な人々が日々訪れてコミュニティを形成する。

↑佐賀の「わいわい！コンテナ」。芝生の広場にコンテナを配置し、フリースペース／イベントスペースとして開放している。ママ友の趣味の場として自由に使われたり、子どもの遊び場として機能している。

3 事業主体のイメージ

・民間事業主体
・官民の役割分担を定める。（ハード面の改修や整備は官、C工事及び運営は民など）

4 実現に向けた課題

・地域のコンセンサス、官民の役割分担の整理、事業者選定、スキームの整理など

ビジョン実現に向けた具体的方策

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

02. まちなかエリアの基本情報

03. エリア関係者の声の出出

04. まちなかエリアのめざす将来像

05. ビジョン実現に向けた具体的方策

（１）エリアビジョン実現に向けたアクションプランについて

（２）リーディングプロジェクトの提案

06. 今後の推進体制と事業スケジュール

PJ-7 街の記憶を次世代に引き継ぐためのストリート命名

1 プロジェクト概要

・気仙沼まちなかエリアの歴史や成り立ち、特徴などを、ストリート名として残して共有化する。

・歴史も現状も踏まえて今風な名前をつけていくことで、エリアに対する愛着やシビックプライドを醸成する。

・道路名標識と合わせて、そのストリート名の由来の説明もつけることで、街歩きの一つのコンテンツにして、楽しみながらまちなかを歩けるようにする。

2 生みだしたいシーン

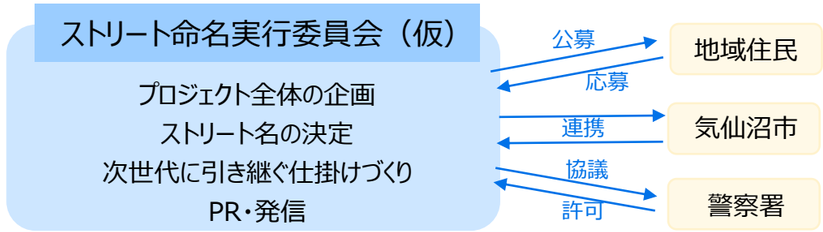
・通り名MAPを片手にまちなかを散策し、通り名からその背景を妄想して楽しむ。

・エリア内の店舗で店員が観光客に「ストリート名」を解説する。

・ストリート名をきっかけに地元の小学生がエリアの歴史を知る。

3 事業主体のイメージ

・プラットフォーム内に部会を立ち上げて企画・実行する。



4 実現に向けた課題

（１）将来世代に残すべきエリアの文化や歴史の整理

・それぞれのストリートごとの歴史や「まちの記憶」の調査ととりまとめ

（２）ストリート名の命名に関する許認可

・道路管理者および交通管理者との事前調整

・選定方法の調整

（３）決定後の周知方法

・道路名標識として道路上に設置／まちの案内板などに記載／冊子等で周知など

・将来世代への引継ぎの実践（小学校等との連携）

・観光客、エリア外の住民に対する説明方法の検討

ビジョン実現に向けた具体的方策

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

02. まちなかエリアの基本情報

03. エリア関係者の声の出し

04. まちなかエリアのめざす将来像

05. ビジョン実現に向けた具体的方策

（1）エリアビジョン実現に向けたアクションプランについて

（2）リーディングプロジェクトの提案

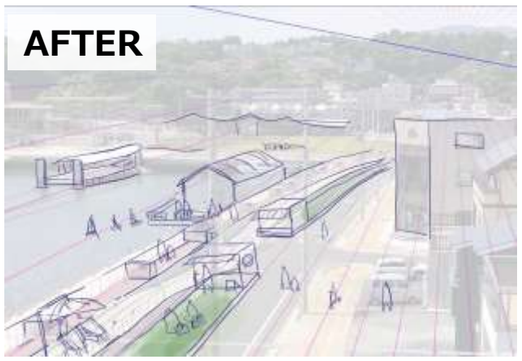
06. 今後の推進体制と事業スケジュール

PJ-8 「人」中心の回遊動線を構築するための道路空間再編

1 プロジェクト概要

概要①：ユワエル前の常時歩行者空間化
・商業施設間の道路をモール化し、歩行者が自由に往来・滞留できる空間への再編を検討。

概要②：県道気仙沼港線の歩行者・自転車空間化
・内湾とまちを湾岸道路が分断している状況から、みちを媒介に内湾とまちを接続。
・クルマ中心の既存道路空間の再編（交通規制の見直しを含む）を行うことで、歩行者や自転車が安全・快適に通行・滞留できる空間とする。



2 生みだしたいシーン

・ユワエルとヒラケルの店舗がそれぞれ道路側にしみだして、そぞろ歩きを楽しめる。
・ヒラケル前のテラス席で魚をBBQしつつビールで乾杯。
・魚町の防潮堤のうえでスタンド営業。
・歩行者天国化した気仙沼港線でまったり海を眺めて過ごす。

3 事業主体のイメージ

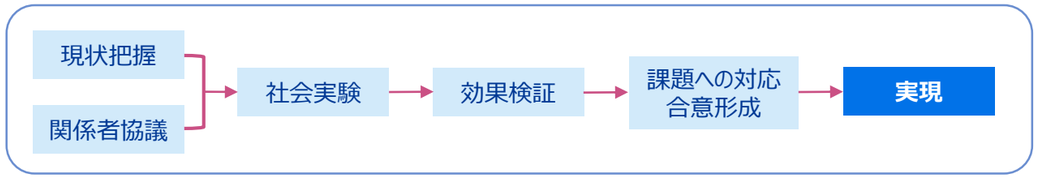
①気仙沼市（路面の改良や標識・看板の設置など一部投資が必要）
歩行者専用化したのち、気仙沼地域開発で占用手続き。道路協力団体制度活用。
②宮城県（一部投資必要、交差点改良や信号現示変更）

4 実現に向けた課題

概要①：ユワエル前の常時歩行者空間化
・ムカエル周辺の歩行者空間
拡大していく事は当初から目指していた事であり、区画整理が完成した段階で実現化を図る。周辺交通影響を把握するとともに、歩行者空間化した道路の運営主体と通行や利活用に関するルールの目処をつけることが大切。

概要②：県道気仙沼港線の歩行者・自転車空間化
・沿道オーナーや入居者、周辺地元の合意形成、社会実験による効果の共有、道路利用者への周知
・クルマ中心の既存道路空間の再編（交通規制の見直しを含む）を行うことで、歩行者や自転車が安全・快適に通行・滞留できる空間とする。
・現状として魚市場エリアや漁港機能集積エリアを起終点とする大型車の主要動線が気仙沼港線となっており、気仙沼唐桑線に誘導するためには「信号現示の変更」や「交差点改良」が必要になる。
・具体的検討を進めるためには、交通量調査と信号サイクルの確認などによるデータに裏づけられた提案、県との協議、警察協議、実際に歩行者・自転車空間化を期間限定で実施する社会実験のプロセスが必要となる可能性が高い。

○実現に至るプロセスのイメージ



ビジョン実現に向けた具体的方策

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

02. まちなかエリアの基本情報

03. エリア関係者の声の出出

04. まちなかエリアのめざす将来像

05. ビジョン実現に向けた具体的方策

（1）エリアビジョン実現に向けたアクションプランについて

（2）リーディングプロジェクトの提案

06. 今後の推進体制と事業スケジュール

PJ-9 水上／陸上のモビリティの再編

1 プロジェクト概要

概要①：回遊を支える新しいモビリティの検討

［現状］
・気仙沼駅前の観光案内所でレンタサイクルを実施。
・一般車を「かつお号」、電動アシストを「シャーク号」としてレンタル。
・限られた時間内に借りた場所に返す必要があることから、運営上は効率的な反面、利用者の自由度が低い面がある。

［将来］
・一定のエリア内に、複数の貸出返却拠点（サイクルポート）を設け、いつでもどこでも電動アシスト自転車を利用できる「シェアサイクル」の導入可能性を探る。
・自転車以外の電動キックボード等の新しいモビリティの導入も検討する。

概要②：プレジャーボートの発着バースを確保

・消防艇「あさぎり」の桟橋使用の終了に伴い、エリアマネジメント組織で桟橋の占用を実施し、海上ルートで気仙沼にお越しになる方の対応を可能にする。
・ビジターバースとしての使用だけでなく、チャータークルーズ等の事業も必要に応じて検討する。
・海からのエリアへの入り口としてビジターバースを用意し、「海の駅」に登録することも検討する。

2 生みだしたいシーン

・エリア内の移動を、スマホで決済したシェアサイクルに乗って移動し、目的地付近のポートで返却。
・朝、ホテルから気嵐（けあらし）を見るために、電動キックボードで港まで移動。
・関東に住む友人がプレジャーボードで観光にくるので、桟橋の利用権を予約する。
・観光客が、大島や唐桑を海辺から見るツアーを希望したため、チャータークルーズを手配。

3 事業主体のイメージ

概要①：気仙沼観光コンベンション協会（市の支援のもと）
概要②：エリアマネジメント組織が、広場の管理と一体的に桟橋も管理

4 実現に向けた課題

概要①：回遊を支える新しいモビリティの検討
・実際のシステムを活用した社会実験による需要や事業性の確認
・利用者の自由度は上がる一方、管理運営体制の構築と事業性の確保が課題。
・「シェアサイクル」を公共交通に位置付けて行政が初期投資、運営費の一部を支援するなど、事業スキームの構築。
・システム導入・運営事業者の選定

概要②：エリアマネジメント組織でプレジャーボートの発着バースを確保
・桟橋の利用調整（消防艇の使用終了後の調整）
・ニーズの把握
・「ヨットハーバー構想」との整理
　現場はプレジャーボート係留場は神明崎側となっているが、既存桟橋の運営・窓口を陸側の施設やひろば運営と一対的に行い、ムカエル側を活用

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって
02. まちなかエリアの基本情報
03. エリア関係者の声の抽出
04. まちなかエリアのめざす将来像
05. ビジョン実現に向けた具体的方策
（1）エリアビジョン実現に向けたアクションプランについて
（2）リーディングプロジェクトの提案
06. 今後の推進体制と事業スケジュール

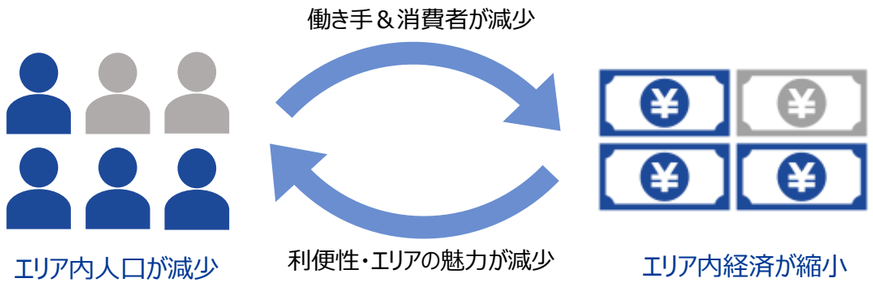
（2）リーディングプロジェクトの提案

PJ-10 エリアに波及効果をもたらすビジネス誘致

1 プロジェクト概要

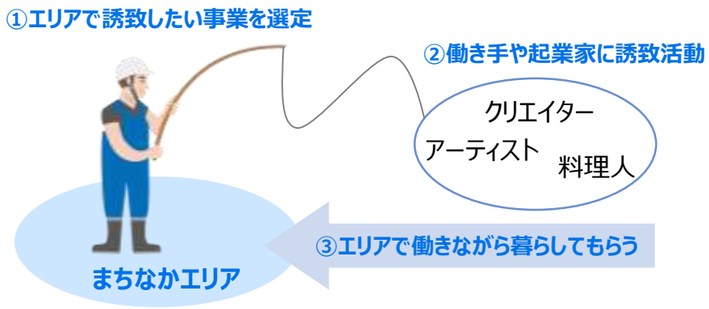
エリアの人口が減少すると、域内の住民を主な顧客とする「ローカル・マーケット」が縮小して、エリア内での事業や投資が減少して求心力を失い、そうした状況が更なる人口流出を促す…という悪循環に陥ってしまうため、エリア内部の経済を活性化させる仕掛けが必要である。

エリア内経済の悪循環



概要①：誘致するビジネス業種をエリアで考えて「一本釣り」する仕組みの整備
・エリアの将来に必要となると考えられる業種をエリアでとりまとめたうえで、その業種の働き手や起業家を逆指名的に誘致して働きながら暮らしてもらう「ワークインレジデンス」の導入をめざす。
・エリアのビジョンの実現に向けて、エリア外のスキルやアイデアを持った人材も、この仕組みをつかってまちなかエリアに誘致する。

ワークインレジデンスのイメージ



・ポイントは、気仙沼に誘致した際に、まちなかエリアを気に入ってもらうこと。
（＝「暮らしたい！」に繋げること）
・「一本釣り」は、俗人的な繋がりなど、ローカルな人間関係を重要して実施することが重要。

○ビジネス誘致の成功例としての神山モデル（神山プロジェクト）

徳島県神山町では、外部から若者やクリエイティブな人材を誘致することで、農林業だけに頼らないバランスの取れた持続可能な地域の創出に成功している。
ITベンチャーやデザイン会社など場所を選ばない企業のサテライトオフィスの誘致を進め、ワークインレジデンスで逆指名公募によりビストロやゲストハウスなどを商店街の空き店舗に誘致を実施。それらにより若者就労者や県内外からの入り込み客が増加し、その結果、レストランや宿泊施設が新規に開業するなどの波及効果が起こっている。

概要②：エリア外のワーカーが気仙沼まちなかエリアで働ける環境の整備
・テレワークやワーケーションが可能となる環境をまちなかエリア内で整備する。
・ワークプレイスだけでなく、宿泊・飲食・観光・体験などを総合的に企画・手配できる体制を構築。
・エリア内の遊休資産をリノベーション等により活用して「働く場」を創出する。

エリア外のワーカー増加によるメリット

2 生みだしたいシーン

・気仙沼まちなかエリアを気に入って、移住した若者がエリア内でビジネスをはじめる。
・キーマンに気仙沼に住んでもらい、「面白い人」が「面白い人」を呼び寄せるような構図。

3 実現に向けた課題

・施策を推進する組織体制の検討
・エリアとして誘致する業種の絞り方、エリアの将来に必要となる業種の適切な選定方法

ビジョン実現に向けた具体的方策

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

02. まちなかエリアの基本情報

03. エリア関係者の声の出抽

04. まちなかエリアのめざす将来像

05. ビジョン実現に向けた具体的方策

（１）エリアビジョン実現に向けたアクションプランについて

（２）リーディングプロジェクトの提案

06. 今後の推進体制と事業スケジュール

PJ-11 全員コンシェルジュ化計画　～気仙沼版働き方改革～

1 プロジェクト概要

概要①：エリア内の飲食店／宿泊事業者などの同業者のヨコの繋がりを強化
・エリア内でパイを奪い合うのではなく、パイそのものを大きくしていくという考え方のもとで、既存の飲食店や宿泊事業者などのプラットフォームを構築する。
・データ等を積極的に活用し、成功モデルの共有や、相互支援などを気軽にできる関係性を構築する。
・エリア内事業者での研修会や勉強会などを開催。
・「朝市」などの取り組みを通じて全体の接客レベルの向上などをめざす。

〇飲食店同士のヨコの繋がり構築のイメージ（がもよんプロジェクト）

大阪市蒲生四丁目でのエリアリノベーション事業（がもよんプロジェクト）では、毎週定例でテナントが集まり、経営に関する相談や情報の水平展開などが行われている。
また、テナント同士は常に「LINE」でグループを作っており、常時LINEグループで情報交換などが実施されている。
これらは、「エリア内で勝負する」ということではなく、「エリアとして一体で他地域と勝負する」ということの現れであり、その結果エリアの回遊性が高い状態を維持できている。

概要②：エリア全体でおもてなしする観光パッケージの開発
・エリア全体で観光客の「コンシェルジュ」としておもてなしできる環境を醸成する。
・エリア内のいくつかの事業者と連携して観光パッケージを組み（食・歩く・遊ぶ・泊まるなどのコンテンツが必要）、それぞれについてエリア内の人間が直接お客様に語りながら体験してもらうなどの一連のプログラムを設定し、気仙沼に来てから帰るまで、多数のエリアの人と触れ合う機会をもってもらう。（詳細はPJ-12）

〇エリア全体でおもてなしをコンセプトにした観光イメージ（NIPPONIA　小菅）

「700人の村が一つのホテルに。（地域まるごとホテル）」をコンセプトに、古民家再生でリノベーションを施した建物を客室にし、村全体をホテルに見立てて（道路やあぜ道は「廊下」、道の駅は「ロビー」、商店がある通りは「ギフトショップ」など…）、村人が案内人として来街者をおもてなししながら滞在してもらう旅。
例えばガストロノミーでは、シェフが地元食材について説明をしながら目の前で調理し、地酒を酒蔵の蔵人が直接ペアリングする。2021年にはJR東日本と連携し、「沿線まるごとホテル」の社会実験を実施した。

（参考：NIPPONIA小菅ホームページ　https://nipponia-kosuge.jp/）

概要③：エリア全体の「食」に対する更なる感度向上を目指した取り組みの展開
・海の幸を中心とした気仙沼の「食」について、気仙沼版の「美食倶楽部」を創設して、気仙沼内部のメンバーで、食材の背景知識や調理方法、ペアリングなどについて自由に研究し、エリア全体で文化としての蓄積を目指す。
・エリアとして感度の高い地域にしていき、最終的に「食」のおもてなしの質的向上を目指す。

2 生みだしたいシーン

・エリア内の別の飲食店で急遽食材が不足したら、持っていってあげられる関係性
・ヒットした商品についてその分析を同業者にプレゼン。
・友人が旅行で訪れてくれたのと同じ感覚で、旅行客におもてなし。
・旅行客がエリア内の人と複数触れ合う中で、気仙沼の人々の人柄に惹かれてリピーターに。

3 事業主体のイメージ

概要①：業種別のプラットフォームを構築する。
概要②：民間事業者による企画・運営。

4 実現に向けた課題

概要①：エリア内の飲食店／宿泊事業者などの同業者のヨコの繋がりを強化
・業種全体のモチベーションを高めるリーダー的存在
・気仙沼クルーカードなどの会員情報のデータ利活用

概要②：エリア全体でおもてなしする観光パッケージの開発
・おもてなしの体制が整っているプレイヤーの発掘

ビジョン実現に向けた具体的方策

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

02. まちなかエリアの基本情報

03. エリア関係者の声の出し

04. まちなかエリアのめざす将来像

05. ビジョン実現に向けた具体的方策

（1）エリアビジョン実現に向けたアクションプランについて

（2）リーディングプロジェクトの提案

06. 今後の推進体制と事業スケジュール

PJ-12 高質な観光コンテンツの開発

1 プロジェクト概要

・高単価で質の高いサービスを提供する事業者の誘致または育成を推進する。

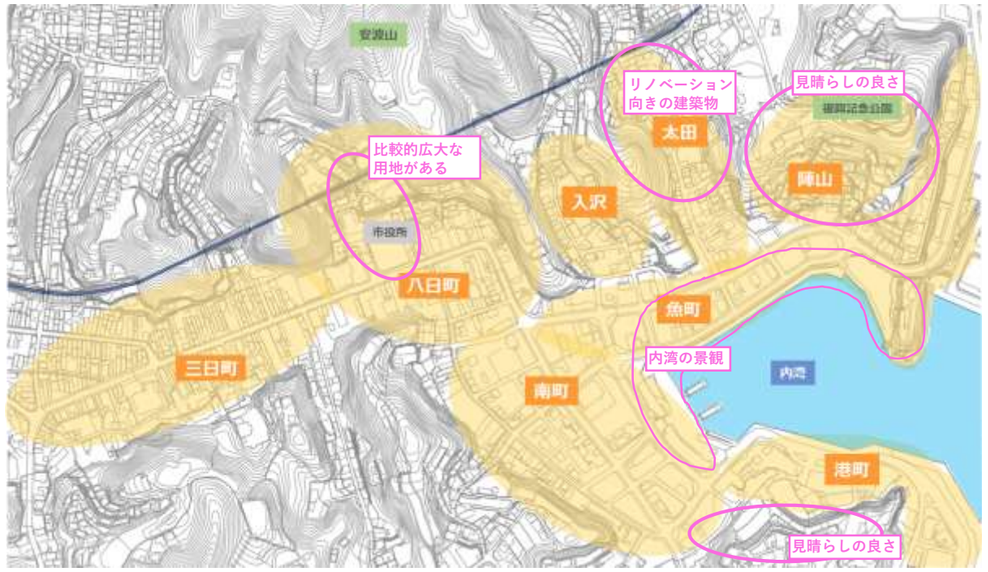
〈開発をめざすコンテンツ〉

① 地元の旬な食材をつかった料理を楽しめるリストランテやオーベルジュ

② 上質なホスピタリティが体験できる高級旅館やホテル

③ 気仙沼まちなかエリアならではの体験ができるアクティビティ（漁体験、水陸両用車観光など）

〇上質な観光コンテンツの開発を見据えたエリアポテンシャル



↑2017年3月に営業を終了したホテル望洋

↑内湾の眺望

2 生みだしたいシーン

・大事な人が気仙沼に来たときに自信をもって案内できるお店やホテル

・「気仙沼らしさ」を感じられるコンテンツ

・遠方からはるばる訪れるきっかけになるもの

3 事業主体のイメージ

・エリア外からシェフや宿泊などの一流のセンスある事業者を誘致する

※ビジョンを共有しまちに開く事業者、規模でなくまちにインパクトを与える事業者、国内外からいいお客さんを連れてきてくれる事業者

※もちろん地元事業者の場合もあり

・市は民間が投資できる環境をつくる（敷地や周辺環境の準備、各種制度設計など）

4 実現に向けた課題

・投資誘導のための官民共有ビジョンの打ち出し

・エリア外の上質な観光コンテンツを創出できる事業者の誘致、エリアとの接点づくり

・廃墟建物の除却に公費や助成制度を投入する、クリエイティブな除却投資への判断

・高単価の旅行や体験ニーズの把握、仮説づくり

ビジョン実現に向けた具体的方策

01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって

02. まちなかエリアの基本情報

03. エリア関係者の声の出し

04. まちなかエリアのめざす将来像

05. ビジョン実現に向けた具体的方策

（1）エリアビジョン実現に向けたアクションプランについて

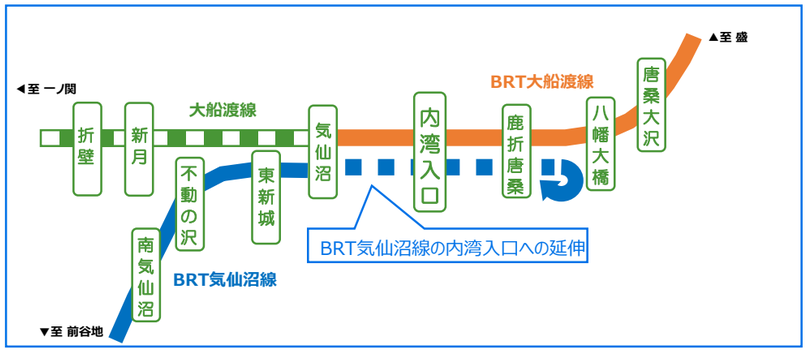
（2）リーディングプロジェクトの提案

06. 今後の推進体制と事業スケジュール

PJ-13 エリアの玄関口としてのBRT

1 プロジェクト概要

概要①：BRT気仙沼線の「内湾入口」駅までのアクセス向上
・BRT気仙沼線利用者にとって、まちなかエリアへの入口である内湾入口駅までのアクセスが課題。現状は気仙沼駅でBRT気仙沼線からBRT大船渡線への乗り換えが必要であるが、大船渡線に一部区間乗り入れし、内湾入口駅を経由するルートにすることで、乗換不要でまちなかエリアに入ることが可能になる。
・大船渡線からBRT大船渡線への接続時間のダイヤ調整を行い、スムーズな移動を可能にする。（関東方面からの観光客を想定し、「東京 ⇒ 一ノ関 ⇒ 気仙沼 ⇒ 内湾入口」をスムーズに乗り継ぎできる朝夕のダイヤ（モデルコース）の設定するなど）



概要②：エリアの玄関口としての設えの整備
・BRT駅までの分かりやすく安全な動線の確保、インフォメーションボードやベンチ等を設置し、旅行客や日常ユーザーの利用快適性を向上させる。

概要③：BRT新駅から内湾方面への動線の整備
・市役所移転後のBRT利用者の歩行動線について、ドラゴンパーク経由のルートを整備し、歩きやすい空間の整備をめざす。

○市役所移転後のBRT利用者動線のイメージ

現在は市役所本庁舎の西側の道路などを経由して内湾方面に向かう人が多いが、市役所移転後は最短距離であるドラゴンパーク経由でのルートの整備を実施し、内湾エリアにスムーズに徒歩で移動できるようにする。（PJ-6にも記載）

2 生みだしたいシーン

・志津川方面から乗り換えなしで内湾入口駅まで来る
・一ノ関から大船渡線で気仙沼駅まで来た観光客が、スムーズにBRT駅に乗り換え、内湾入口駅で下車して内湾方面に向かう。
・内湾入口駅から新たに整備されたドラゴンパーク経由のルートで内湾方面へ。

3 事業主体のイメージ

気仙沼市主体で調整および整備の検討を実施する。

4 実現に向けた課題

概要①：BRT気仙沼線の「内湾入口」駅までのアクセス向上
・延伸に伴う運行コスト増（終点駅に必要な信号、引上線等の物理デバイス、運転手人件費）
・利用ニーズの把握

概要②：エリアの玄関口としての設えの整備
・整備に伴う費用負担の区分（JR東日本／気仙沼市／地元）

概要③：BRT新駅から内湾方面への動線の整備
・一部のルート上の底地が私有地であるため、用地の使用に関する協議が必要。

今後の推進体制と事業スケジュール

今後の推進体制と事業スケジュール

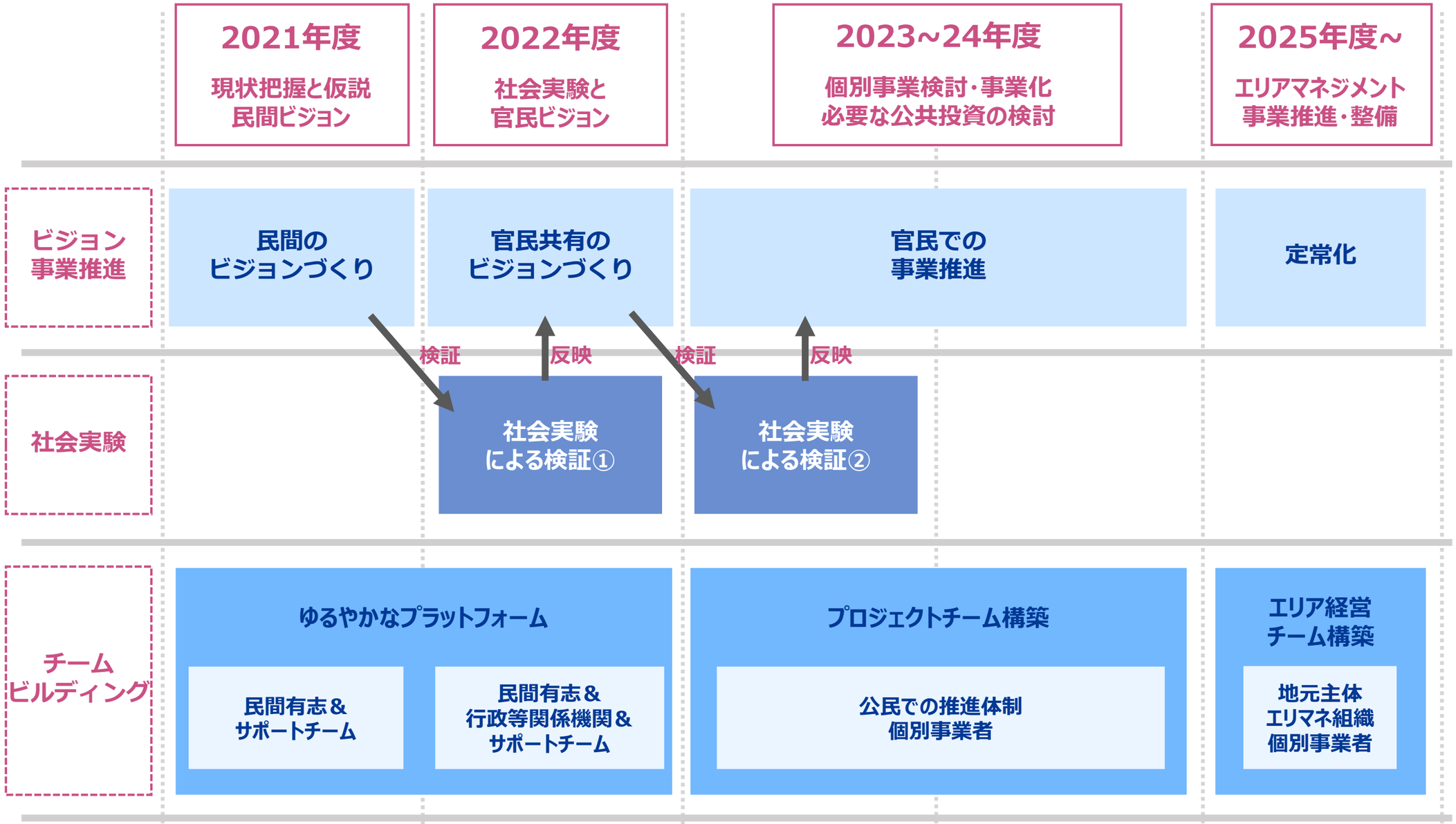
01. まちなかエリア未来ビジョンの策定にあたって
02. まちなかエリアの基本情報
03. エリア関係者の声の出抽
04. まちなかエリアのめざす将来像
05. ビジョン実現に向けた具体的方策
（1）エリアビジョン実現に向けたアクションプランについて
（2）リーディングプロジェクトの提案
06. 今後の推進体制と事業スケジュール

○推進体制とスケジュールのイメージ

・本エリアビジョンの策定後、2022年度は、ビジョン実現に向けたアクションプランとして掲げたリーディングプロジェクトのいくつかを、社会実験としていくつか実際に実現したい風景をつくって効果を検証するとともに、本ビジョンでめざす方向性などを、気仙沼市としてのビジョンに位置付けていく。

・その後の2年間で、ビジョンを具現化するための公民連携の推進体制を構築し、個別の事業を推進する。また、エリアとして持続可能な運営体制の検討を進めていく。

・2025年度には、複数の事業者が本ビジョンに基づきエリアを牽引している状況を実現し、またエリアのマネジメントの定常化に向けた継続的な運営体制の構築をめざす。



おわりに　メンバーのひとこと

挑戦！！～不撓不屈～
後世のために！！
堀内　真介

たくさんの人が気仙沼で楽しく過ごし好きになったらいいな、と思います。個々の力を集結して、沸き立つまちに！
玉川　千晴

気仙沼の良さを共有したい。住んでいる人とも、外から来る人とも。その為に皆さんと一緒に考え、アクションを起こしていきたいです。
菅原　大樹

みんなでつくろう
明るい未来！
千葉　裕樹

いろいろな人がアイディアを持ち寄って、賑やかに沸き立つ街になったらいいな、と思ってます。目指せ！明るい豊かな気仙沼！
廣野　一誠

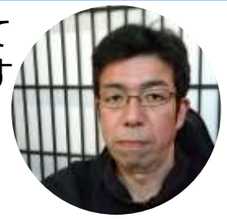
生まれ育った気仙沼をより楽しんで生きていける街にしたい。海辺の時間をおいしく豊かにしていきます。
小野寺　靖忠

人も食も日常もいつも愉快に楽しい
まちなかエリア、沢山の人が住民票を移したくなる街をつくりたいです。
佐藤　佳奈

遊び心を忘れずに。住む人、働く人、訪れた人....それぞれのワクワクが見つかる街を目指して考えました。
武山　陽子

1人の親として、たくさんの魅力を持つ街を子ども達に残したい。
その為の街づくりを貴方も一緒に考えてみませんか!?
佐々木　正利

気仙沼という街の魅力、可能性そして未来を見つめ直して共に前へ。沸騰する母港向け続航中。
藤田　雄一郎



市役所移転に伴い、より人が少なくなるこのエリア。皆さんと一緒にこれからのビジョンについて作戦を練っていきたい。
猪狩　伸忠

『あの気仙沼が故郷っていいな～♪』と思って(言って)貰える街になれたらいいな！と思ってます。
平野　亜希子

気仙沼の中心市街地の活性が、気仙沼全体の活性化につながることを信じています。
小松　志大

楽しさとワクワクに呼応するまち・気仙沼！さまざなチャレンジと応援が重なる場に、私もたくさん関わっていきたいです。合言葉は、沸騰！
織笠　有加里

街の賑わい復活は待ったなしの状況だと思います。
街の力＝人の力と捉え、皆さんで前に進んでいきましょう！
一色　法人

風景・食・風土等、多くのコンテンツが有りますが、「この人に会いたい」「あの人が待っている」そう思われる港まち気仙沼が一番の理想。
熊谷　浩典

地域の方々の想いがつまった素晴らしい計画のお手伝いができることを楽しみにしています！
熊谷　俊輔

ハレもケも歩いて過ごしたくなるような、どこから来た人でも楽しめるようなエリアにしていきたいと思っています！
志田　淳

老若男女、ひとりひとりが責任を持って、自分なりの役割を果たして、動いていく街にしたい。

島田　英樹

Where there’s a will , there’s a way !

濱田　智

波の音とウミネコの声をBGMに
みんなの笑顔いっぱいの喧騒をSEに
風を浴びながら目を閉じるだけで幸せを感じられる内湾が好き

斎藤　大悟

気仙沼の顔、内湾地区を盛り上げながら、先輩方から頂いたバトンを変化させ、後生にバトンを渡すのが私達の使命！

坂本　倫理

猫も杓子も立場を超えて考え、ぶつけ合った妄想。「気仙沼」が結んだ繋がりを力に波を生む。広がれ！当事者意識、わく沸く感！！

森田　法子

古き良き物を残しつつ、新しい内湾の街、地元の人も観光客も楽しめる街が出来ればいいなと思います。

小野寺　一雄

これからの気仙沼がもっと楽しい町になれば良いな。まずは自分の住む内湾エリアから変わっていきたいです。

原田　雄介

過去を学び、
未来をつくろう！！

鈴木　敦雄

お年寄りから子供まで、楽しく、豊かに暮らせる街。せっかく作ったビジョン、絵に描いた餅にならないようにして下さい！

渡邊　栄

地元気仙沼人が誇れる町になれるように

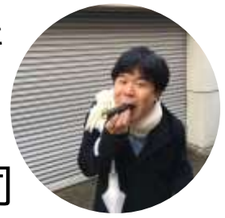
高橋　朋広

子どもも大人も、おおらかにのびのびと、より豊かな時間が過ごせるまちになりますように！

足立　岬

整備された町と昔からの町並み。新たな視点で更新させていきたいです！
来てみて、暮らして楽しい町の一画を作りましょう。

吉川　晃司



この有志メンバーの想いや覚悟をどうまとめて次世代のまちに反映できるか、それをまちがどう応援できるか。それができるまちには全国や世界からオモロい人が集まるはず。そんな妄想をまずカタチに、次は実践！

泉　英明

関わっている皆さんの熱い想いが少しずつ形になっていく場にご一緒出来て毎回ワクワク！ここから実現していくことを想像してもワクワク！ワクワクが溢れるプロジェクト！

有賀　敬直

港町の空気感、海のある風景、美味しい魚とお酒、そして皆さんの温かい人柄と熱い街への想い…！気仙沼が第2の故郷となりつつあります！！

古庄　大樹

気仙沼の古き良き歴史文化とこれから生きていく人達がやりたいことを上手に組み合わせて、長く残り続ける地域を一緒に作っていきましょう！！

小山　弘二

気仙沼だからできること！
気仙沼しかできないこと！
KESENNUMA-Harbour-Style !!

戸塚　勇孝

色んなことを見て，まねて，学んで･･･
その先に“気仙沼オリジナル”

佐藤　勉

震災復興から新たなフェイズを向かえ、皆さんの妄想が形になったビジョン。まちのポテンシャルを沸き立たせる取組に期待！

里見　容

プラットフォームの皆さんの「妄想」が具体化された「復興のその先」の光景に期待します。

齊藤　淳

気仙沼まちなかエリア未来ビジョン『みんなの母港大作戦！』

策定：2022年3月
制作：気仙沼まちなかエリアプラットフォーム

表紙イラスト＆内湾平面図：玉川千晴
妄想ガイドブックイラスト：足立岬
「はじめに」文：小野寺靖忠
編集：有限会社ハートビートプラン

気仙沼まちなかエリア未来ビジョン

みんなの母港大作戦！

～ 復旧・復興から・沸騰へ ～